

文学部専門科目

史 学 科

(授業科目名五十音順)

科目名	漢文講読入門	後期	2 単位
サブタイトル	漢文を読む基本的スキルの獲得	講義	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 漢文の基礎的読解力を身につけ、基礎的な歴史史料を読み解く技能と知識を養成する。</p> <p>[授業概要] 漢文を訓読する能力と歴史史料を読み解く知識の獲得方法を演習形式で身につける。 なお、授業はクラスごとに行なう。クラス分けは、教員から指定することがある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で示した課題(特に予習)に真摯に対応し、自ら積極的に「学ぶ」姿勢を身につける。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 「漢文を読む」意義とはなにか。 2. 「返り点」を付ける(1) 3. 「返り点」を付ける(2) 4. 「再読文字」とは(1) 5. 「再読文字」とは(2) 6. 「漢文」を「書き下し文」に変換する(1) 7. 「漢文」を「書き下し文」に変換する(2) 8. 「漢文」を読み解く(1) 9. 「漢文」を読み解く(2) 10. 「漢文」を読み解く(3) 11. 歴史史料としての漢文の読解(1) 12. 歴史史料としての漢文の読解(2) 13. まとめ</p>			

科目名	漢文講読入門	後期	2 単位
サブタイトル	漢文を読む基本的スキルの獲得	講義	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを利用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	漢文講読入門	後期	2 単位
サブタイトル	漢文を読む基本的スキルの獲得	講義	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 漢文の基礎的読解力を身につけ、基礎的な歴史史料を読み解く技能と知識を養成する。</p> <p>[授業概要] 歴史史料を読み解く知識を獲得するため、漢文を訓読する能力を演習形式で身につける。 なお、プレイメントテストを実施してクラス分けをし、授業は各クラスごとに行なうものとする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業で示した課題(特に予習)に真摯に対応し、自ら積極的に「学ぶ」姿勢を身につける。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 「漢文を読む」意義とはなにか。 2. 「返り点」を付ける(1) 3. 「返り点」を付ける(2) 4. 「再読文字」とは(1) 5. 「再読文字」とは(2) 6. 「漢文」を「書き下し文」に変換する(1) 7. 「漢文」を「書き下し文」に変換する(2) 8. 「漢文」を読み解く(1) 9. 「漢文」を読み解く(2) 10. 「漢文」を読み解く(3) 11. 歴史史料としての漢文の読解(1) 12. 歴史史料としての漢文の読解(2) 13. まとめ</p>			

科目名	漢文講読入門	後期	2 単位
サブタイトル	漢文を読む基本的スキルの獲得	講義	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを利用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業内の発表・小テスト: (50%) 学期末試験 (50%)</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名:『漢文訓読入門』 著者名:古田島洋介・湯城吉信 出版社名:明治書院 ISBN:978-4625734007</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	歴史学へのいざない	演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>歴史学の分析手法を理解し、歴史学に関する文献の叙述を批判的に読むことができる能力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近世史における主要な著作(ただし、新書など初学者のために比較的簡易に書かれた著作を対象とする)をテキストとし、これを輪読する。毎回、報告担当者が、自身が割り当てられた部分について、内容の要旨および疑問点・問題点を記したレジюмеを全員に配布し、これをもとに報告を行う。報告後、授業参加者全員で議論する。 なお、授業期間中に1回、大学周辺史跡の見学等を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>報告者は事前にレジюмеを作成する。他の受講生も、必ずテキストの当該部分を事前に読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 史学資料室、大学図書館の見学 3. テキストの講読1 4. テキストの講読2 5. テキストの講読3 6. テキストの講読4 7. テキストの講読5 8. 大学周辺史跡の見学 9. テキストの講読6 10. テキストの講読7 11. テキストの講読8 12. テキストの講読9 13. テキストの講読10 			

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	歴史学へのいざない	演習	
担当者	尾崎 真理		

[成績評価方法]
レポート50%、報告レジュメの内容50%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	歴史を学ぶ「知」を高める	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	図書館を活用し、興味をもったテーマの本を探し出し、知識を深める(ディープラーニング)	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 歴史を学びとる基礎的力を養う。</p> <p>[授業概要] この授業では、卒業論文を作成するための基礎的スキル、「調べる力・発表する力・まとめる力」を身につけることを目的とする。まず、網野善彦・石井進・笠松宏至・勝俣鎮夫『中世の罪と罰』(講談社学術文庫、2019年)を講読する。発表者は内容に即して検討すべき「問題」を発見し、「調査」して議論の材料を提起する。受講者は、それをもとに自由に意見を述べあい、興味深い箇所や疑問点を共に発見しながら、歴史学研究の基本的な方法を身につけるという方法をとる。次にレポートを作成する。①『中世の罪と罰』に関する所見を述べるレポートおよび②『中世の罪と罰』から課題を発見して調査成果をまとめるレポートの2つを執筆する。受講生相互による講評の後、レポートを完成させる。受講に際しては、幅広い問題関心と柔軟な思考と意欲ある態度を希望する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキストから読み取った内容を、どれだけ興味深く伝えられるかを、自らの準備や他のゼミメンバーの報告を参考に仕上げよう努める。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 授業内容と到達目標の設定 2. 1 「お前の母さん……」(笠松宏至)の講読 3. 2 「家を焼く」(勝俣鎮夫)の講読 4. 3 「ミ、ラキリ、ハナラソグ」(勝俣鎮夫)の講読 5. 4 「死骸敵対」(勝俣鎮夫)の講読 6. 5 「都市鎌倉」(石井進)の講読 7. 6 「盗み」(笠松宏至)の講読 8. 7 「夜討ち」(笠松宏至)の講読 9. 8 「博奕」(網野善彦)の講読 10. 9 「未進と身代」(網野善彦)の講読 11. 10 「身曳きと「いましめ」」(石井進)の講読 12. レポートの作成と講評(1) 13. レポートの作成と講評(2)</p>			

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	歴史を学ぶ「知」を高める	演習	
担当者	関 周一		
<p>[成績評価方法] レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート課題の講評結果をmanabaで周知し、専門演習を選択する際に必要な知識や知的関心の集積に結びつく助言を行なう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/ 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/ 幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/ 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/ 演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/ 演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 中世の罪と罰 著者名: 網野善彦・石井進・笠松宏至・勝俣鎮夫 出版社名: 講談社 ISBN: 9784065178690</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: わかる・身につく歴史学の学び方 著者名: 大学の歴史教育を考える会編 出版社名: 大月書店 ISBN: 9784272412365 書籍名: これから研究を書くひとのためのガイドブック[第2版] 著者名: 佐渡島紗織・吉野亜矢子 出版社名: ひつじ書房 ISBN: 9784823410895</p>			

S53021 [LHH1-012]

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	「地域」の歴史を調べる	演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 専門的な歴史学を学ぶための基礎的な技能や方法論を身につける。</p> <p>[授業概要] 受講者各自が国内・国外で興味・関心をもっている地域を選び、その地域における歴史の展開を自身で調べ、輪番で口頭発表をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 本学の附属図書館や近隣の公立図書館の歴史コーナーに頻繁に足を運び、自分の主たる関心分野以外のものについても、さまざまな架蔵書を手に取り、内容を確認しておく。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 「調べる」方法 3. 「まとめる」方法 4. 「発表する」方法 5. 口頭発表・質疑応答(1) 6. 口頭発表・質疑応答(2) 7. 口頭発表・質疑応答(3) 8. 口頭発表・質疑応答(4) 9. 口頭発表・質疑応答(5) 10. 口頭発表・質疑応答(6) 11. 口頭発表・質疑応答(7) 12. 口頭発表・質疑応答(8) 13. まとめ</p>			

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	「地域」の歴史を調べる	演習	
担当者	山内 晋次		

[成績評価方法]

発表・質疑の内容80%、受講態度20%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業・メールなどを通じておこなう。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 発表・質疑の内容80%、受講態度20%

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	西洋史研究入門	演習	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 入門演習よりも専門性の高い、史学科学生として必要な歴史研究についての基礎知識・技能を十分に習得することができるようになる。</p> <p>[授業概要] 文献調査・報告資料の作成など、卒業論文執筆の際に必要な基礎的な知識・技能の習得にむけての指導を行う。具体的には、各自が西洋史上の人物1名を選択し、その人物についての口頭発表を目的とした作業にとりくむ。関連の課題の提出も義務付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回授業の内容について理解を深め、次回授業に備える自主学習を行う。口頭指示およびmanaba(各回授業のプロジェクト)で教員が指針を与える。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. はじめに(スケジュール、テーマの選択) 2. 演習1 参考資料を活用する 3. 演習2 適切な資料を探す 4. 演習3 情報を整理する 5. 演習4 構成を考える 6. 演習5 プレゼンテーションを工夫する 7. 課題報告1-1 研究発表の作法 9. 課題報告1-2 レジюме、レポートの注意点 10. 課題報告1-3 効果的なプレゼンテーションにむけて 11. 課題報告1-4 質疑応答のポイント 12. 課題報告1-5 よりよい発表のために 13. 課題報告2</p>			

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	西洋史研究入門	演習	
担当者	吉村 真美		

[成績評価方法]

授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	伝承説話からジェンダーと社会を読む	演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 伝承説話からその背景にあるジェンダーと社会を読み解く訓練をととして、自分の身の回りのことと歴史資料を結びつける感覚を身につけることを授業の到達目標とする。</p> <p>[授業概要] この演習では、伝承説話を現代女性の視点から読み解いた『日本のヤバい女の子 覚醒編』をテキストとして、伝承説話からどのようなことを読み取ることができるかを検討していく。 具体例に即して説話の意味を考える作業をととして、資料を歴史的に読むことは自分のなかに歴史を読むことであることを実感して行ってほしいと思う。 受講生は事前に割り当てられた部分について、内容を検討し、報告する。報告の後、受講生相互に討論をおこなうことにより、問題点の理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教科書の該当部分を予習・復習すること。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料としての昔話・伝承説話 2. 見るなの座敷 3. 虫愛づる姫君 4. 食わず女房 5. イザナギとイザナミ 6. 安珍・清姫伝説 7. 馬娘婚姻譚 8. 怪談 牡丹灯籠 9. 浦島太郎伝説 10. 番町皿屋敷・播州皿屋敷 11. 猿婿入り 12. 鉢かつぎ姫 13. 七夕伝説 			

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	伝承説話からジェンダーと社会を読む	演習	
担当者	川森 博司		

[成績評価方法]

学習態度(70%)と期末レポート(30%)を合わせて評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 発表

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 学習態度

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 学習態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: レポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 発表

[教科書(ISBN)]

書籍名:日本のヤバい女の子 覚醒編 著者名:はらだ 有彩 出版社名:KADOKAWA ISBN:9784041116494

[参考書(ISBN)]

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史における主な人物・事件	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>日本近現代史に登場する主な人物もしくは事件について詳しく調べ、レジュメを作成して研究発表をした上で、他の参加者との質疑応答が積極的にできるようになること、すなわち演習形式の授業に慣れることが目標である。</p> <p>[授業概要]</p> <p>少人数による演習形式の授業の履修を通して、日本近現代史に関する現在の研究状況を把握してもらうことを目的に開講される演習である。具体的には、日本近現代史に関する人物や事件などの中から、各自の関心に従ってテーマを設定し、それを徹底的に調べたうえで、研究発表を行ってもらう。発表者は、前半の50分間で調べてきたことを発表し、残り50分間で参加者全員による質疑応答を行う。したがって、日本近現代史に関心を有する者の意欲的な参加が求められる。自分でテーマを立てること、そのテーマに関する研究を自分で進めること、発表に創意工夫をこらすこと、質疑応答に積極的に加わることの4点が評価のポイントとなる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日本近現代史における様々なテーマに対して深い興味を示し、概説書などで基礎的な知識を身につけておく準備姿勢が必要である。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本近現代史に関する各自の問題関心の披露と発表順の決定 2. 日本近現代史の研究状況について(講義) 3. 日本近現代史に関する資料の調べ方 4. 各自の発表1 5. 各自の発表2 6. 各自の発表3 7. 各自の発表4 8. 中間的なまとめ(これまでの発表の批判と反省) 9. 各自の発表6 10. 各自の発表7 11. 各自の発表8 12. 各自の発表9 13. 総括的な質疑応答 			

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史における主な人物・事件	演習	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 受講状況 (50%)、発表内容 (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-1 / 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-2 / 幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-5 / 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-1 / 演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-3 / 演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容_: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容_: 自己理解 / 自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容_: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容_: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容_: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S53027 [LHH1-012]

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	歴史学とアジア史の基礎を学ぶ	演習	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他	<small>学生・教員間の対話型授業。</small>	実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

歴史学やアジアについて理解を深めるとともに、史学演習を受講するのに必要な知識と学力を養成する。

[授業概要]

歴史学やアジアについての知見を広げるため、概説書を講読してゆく。担当者は分担部分を調査したうえ、レジュメ(概要)を作成し口頭報告をおこなう。演習では教員・報告者とともに全員で討論する形式をとる。歴史学やアジア史における問題点を把握し、各自の興味関心を明確にすることをめざす。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度。歴史研究の方法論を身につけるため、入門書ないし入門論文を輪読する。少人数の演習方式で、関係する文献を探し、工具書を使って予習する。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス
2. 演習発表の基礎
3. 文献講読(1)
4. 文献講読(2)
5. 文献講読(3)
6. 文献講読(4)
7. 文献講読(5)
8. フィールドワーク【予定】
9. 文献講読(6)
10. 文献講読(7)
11. 文献講読(8)
12. 文献講読(9)
13. 文献講読(10)

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	歴史学とアジア史の基礎を学ぶ	演習	
担当者	鈴木 宏節		

[成績評価方法]

受講態度 (50%) + レポート (50%)

[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法]
manaba のアンケート機能を使用し質疑応答をおこなう。

[オフィスアワー (質問等の受付方法)]
詳細は、KISS システムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISS システムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科 DP 番号 / DP 内容: 史学 2-1 / 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

学科 DP 番号 / DP 内容: 史学 2-2 / 幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

学科 DP 番号 / DP 内容: 史学 2-5 / 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

学科 DP 番号 / DP 内容: 史学 3-1 / 演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

学科 DP 番号 / DP 内容: 史学 3-3 / 演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 主体性 / 自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 自己理解 / 自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 協働性 / 立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する (協働する) 能力・姿勢
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法: 受講態度 (50%) + レポート (50%)

[教科書 (ISBN)]

書籍名: 『東大連続講義 歴史学の思考法』 著者名: 東京大学教養学部歴史学研究会 出版社名: 岩波書店 ISBN: 978-4000614061

[参考書 (ISBN)]

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)ことに体を慣らす ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)ことに体を慣らす</p> <p>[授業概要]</p> <p>大学での「学問」は、今まで経験してきた高校までの「勉強」と、何から何まで違うはずですが。最大の違いは、「勉強」には正解や答えが用意されているのに対して、「学問」にはそれが用意されていないこと。どこにあるかがわからない答えを、皆さん自身が探していきます。大変なことですが、答えを「見つけた」という学問ならではの喜びを得るためにも、引いては大学生活の後に生きていく社会でその力が要請されることから、どうしても通らなければならない道なのです。</p> <p>「基礎演習 I」は、そのための基礎体力をつけ、体を慣らしていく訓練の場です。様々なテーマで書かれたテキストを読み、内容を他者に伝える練習をすることで、「読む」力と「話す」力を鍛えます。</p> <p>ところで、皆さんはそれぞれ豊かな個性を持っていますから、同じものを読んでいても、違った意見が出てくるはずですが。私の経験では、その違った意見を出し合い、自分が思いつかなかった考え方に耳を傾けることが、答えを探し求めるうえで大事です。この「討論」にも、少しずつ体を慣らしていきましょう。</p> <p>最初から上手にできなくて当然ですし、自らを飾る必要は全くありません。上手か下手かは成績の判定材料ではありません。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習は必要ない。課題があたえられたら、翌週の講義までに準備してくること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 声を出してみよう、耳を傾けてみよう 2. 話してみよう 3. 揚げ足は取られる方が悪いのである 4. 「わたしの意見」の作り方(1) 5. 「わたしの意見」の作り方(2) 6. 手を動かせ、汗をかけ 7. その本には何が書いてあるのか? 8. 何が書いてあったか伝えてみよう 9. 発表してみよう(1) 10. レジューメを切る 11. 発表してみよう(2) 12. 「わたしの意見」を文字にする 13. 「わたしの意見」は正しく伝わるか? 			

科目名	基礎演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] 3分の2以上の出席を前提として、積極性(授業態度)を評価する(100%)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 積極性(授業態度)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53029 [LHH1-012]

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	伝承説話からジェンダーと社会を考える	演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 伝承説話からその背景にあるジェンダーと社会を読み解く訓練をとおり、自分の身の回りのことと歴史資料を結びつける感覚を身につけることを授業の到達目標とする。</p> <p>[授業概要] この演習では、伝承説話を現代女性の視点から読み解いた『日本のヤバい女の子 抵抗編』をテキストとして、伝承説話からどのようなことを読み取ることができるかを検討していく。 具体例に即して説話の意味を考える作業をとおり、資料を歴史的に読むことは自分のなかに歴史を読むことであることを実感してほしいと思う。 受講生は事前に割り当てられた部分について、内容を検討し、報告する。報告の後、受講生相互に討論をおこなうことにより、問題点の理解を深める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教科書の該当部分を予習・復習すること。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. 資料としての伝承説話 2. 古事記・コノハナサクヤヒメ 3. 今昔物語集・異類婚姻譚 4. とりかえばや物語 5. 平家物語・宇治の橋姫 6. 雨月物語 7. 八百屋お七 8. 松浦佐用姫 9. 累ヶ淵 10. 江戸の怪談 11. 子供の遊び 12. 炭焼長者 13. 山姥</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	伝承説話からジェンダーと社会を考える	演習	
担当者	川森 博司		
<p>[成績評価方法] 学習態度(70%)と期末レポート(30%)を合わせて評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: レポート</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 発表</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:日本のヤバい女の子 抵抗編 著者名:はらだ 有彩 出版社名:KADOKAWA ISBN:9784041116500</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53040 [LHH2-016]

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	世界史とアジア史の基礎を学ぶ	演習	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	<small>学生・教員間の対話型授業。</small>	実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

アジアについて理解を深めるとともに、史学演習を受講するのに必要な知識と学力を養成する。

[授業概要]

アジアについての知見を広げるとともに、基本的な史料の講読をおこなう。各自の興味関心の対象が世界史ないしアジア史のなかでどのような意味をもつのかを明確にする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度。少人数の演習方式なので、毎回、関連文献をもちいた予習が求められる。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス
2. 文献講読(1)
3. 文献講読(2)
4. 文献講読(3)
5. 文献講読(4)
6. 文献講読(5)
7. アジアの基礎知識(1)
8. アジアの基礎知識(2)
9. 史料講読(1)
10. 史料講読(2)
11. 史料講読(3)
12. 史料講読(4)
13. 史料講読(5)

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	世界史とアジア史の基礎を学ぶ	演習	
担当者	鈴木 宏節		

[成績評価方法]

受講態度(50%)＋レポート(50%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

manabaのアンケート機能を使用する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号／DP内容: 史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

学科DP番号／DP内容: 史学2-2／幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

学科DP番号／DP内容: 史学2-5／演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

学科DP番号／DP内容: 史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

学科DP番号／DP内容: 史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 受講態度(50%)＋レポート(50%)

[教科書(ISBN)]

書籍名:『東大連続講義 歴史学の思考法』著者名:東京大学教養学部歴史学研究会 出版社名:岩波書店 ISBN:978-4000614061

[参考書(ISBN)]

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル		演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を養う ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を養う ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を養う ④考古学の対象を深く知り、関心あるテーマの論文を読む基盤を作る</p> <p>[授業概要]</p> <p>入門演習と基礎演習Ⅰによって基礎体力をつけた皆さんは、2回生から本格的に「知の世界」に足を踏み入れていきます。その入口に位置する基礎演習Ⅱは、皆さん自身が問いと答えを探し求める「学問」の初戦にあたるわけです。 基礎演習Ⅱでは、考古学の対象(の一部)を素材として自らの手で調べ、咀嚼し、他者に説明することを実践的に学びます。具体的には、次のように授業を進めます。</p> <p>第4回・第5回は、調べること・説明することに体を慣らしていきます。齋藤が提示した遺跡のなかから1つを選択し、様々な刊行物を使って(あるいはその場へ行って)、そこがどのような歴史をもつ寺院かを調べあげてください。調査の成果を取捨選択してまとめ、25分で紹介してもらいます。発表後は、齋藤と質疑応答を行います。</p> <p>第6回・第7回は、テキストを咀嚼すること・原典にあたることに体を慣らしていきます。日本考古学史上の論争をいくつか提示するので、1つ選択してどのような論争であったかを調べあげてください。受講者がその論争について深く理解できるよう、噛み砕いて25分で解説してもらいます。発表後は、他の受講者と質疑応答を行います。</p> <p>第9回～第12回は実戦回です。日本考古学が対象とするモノ資料を提示するので、そのなかから2つ選択してください。そしてそれがどのように作られたかを議論している論文を自ら探し、いくつか読み込んで理解を深めます。読み込んだ論文のうち、最も良いと思ったものをコピーして、1週間前のゼミで教員と他の受講者に配布してください。それがどのように作られる遺物であるか、選択した論文を要約しながら説明してもらいます。 発表者以外の受講者も、配布された論文を読み、理解を深めてください。発表後は、全員で疑問点を出し合います。未熟な質問でも全く構いませんので、何か発言できるように考えてきてください。したがって自身の発表回はもちろん、発表を聞く回も、皆さんの主体的な取り組みが不可欠です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>発表者はレジュメを作成すること。第9回以降、発表者以外の受講者も配布された論文を読み、発言の準備をして授業に臨むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知りたいことの手掛かりはどうやって探すのか？(齋藤) 2. 遺跡／博物館の見学 3. 遺跡／博物館の見学 4. その遺跡にはどんな歴史があるのか(1) 5. その遺跡にはどんな歴史があるのか(2) 6. その論争はどのような経過を辿ったのか(1) 7. その論争はどのような経過を辿ったのか(2) 8. 予備回 9. その遺物はどのように作られたのか(1) 10. その遺物はどのように作られたのか(2) 11. その遺物はどのように作られたのか(3) 12. その遺物はどのように作られたのか(4) 13. ゼミ分け説明会 			

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] 3分の2以上の出席を前提として、口頭発表の内容(50%)、討論への積極性(50%)を評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53043 [LHH2-016]

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	日本近現代史における主な人物・事件	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本近現代史に登場する主な人物もしくは事件について詳しく調べ、レジュメを作成して研究発表をした上で、他の参加者との質疑応答が積極的にできるようになること、すなわち演習形式の授業に慣れることが目標である。</p> <p>[授業概要] 少人数による演習形式の授業の履修を通して、日本近現代史に関する現在の研究状況を把握してもらうことを目的に開講される演習である。具体的には、日本近現代史に関する人物や事件などの中から、各自の関心に従ってテーマを設定し、それを徹底的に調べたうえで、研究発表を行ってもらう。発表者は、前半の50分間で調べてきたことを発表し、残り50分間で参加者全員による質疑応答を行う。したがって、日本近現代史に関心を有する者の意欲的な参加が求められる。自分でテーマを立てること、そのテーマに関する研究を自分で進めること、発表に創意工夫をこらすこと、質疑応答に積極的に加わることの4点が評価のポイントとなる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近現代史における様々なテーマに対して深い興味を示し、概説書などで基礎的な知識を身につけておく準備姿勢が必要である。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 日本近現代史に関する各自の問題関心の披露と発表順の決定 2. 日本近現代史の研究状況について(講義) 3. 日本近現代史に関する資料の調べ方 4. 各自の発表1 5. 各自の発表2 6. 各自の発表3 7. 各自の発表4 8. 中間的なまとめ(これまでの発表の批判と反省) 9. 各自の発表5 10. 各自の発表6 11. 各自の発表7 12. 各自の発表8 13. 総括的な質疑応答</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史における主な人物・事件	演習	
担当者	松下 孝昭		

[成績評価方法]

受講状況(50%)、発表内容(50%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法: 受講状況及び発表内容

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	日本中世史研究入門	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	<small>図書館を活用し、興味をもったテーマの本を探し出し、知識を深める(ディベーター)</small>	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 歴史を学びとる基礎的力を養う。 日本中世史研究の課題を説明できる。</p> <p>[授業概要] この授業では、卒業論文を作成するための基礎的技能、「調べる力・発表する力・まとめる力」を身につけることを目的とする。 谷口雄太『分裂と統合で読む日本中世史』(山川出版社、2021年)をテキストとして、日本中世史研究の入門とともに、歴史を考える視点を検討したい。 発表者は内容に即して検討すべき「問題」を発見し、「調査」して議論の材料を提起する。受講者は、それをもとに自由に意見を述べあい、興味深い箇所や疑問点を共に発見しながら、歴史学研究の基本的な方法を身につけるという方法をとる。 受講に際しては、幅広い問題関心と柔軟な思考と意欲ある態度を希望する。 なお、受講生各自の問題関心は、発表後の作業も付け加えてレポートを作成し提出してもらう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] テキストから読み取った内容を、どれだけ興味深く伝えられるかを、自らの準備や他のゼミメンバーの報告を参考に仕上げよう努める。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 授業内容と到達目標の設定 2. 序章「日本史上もっとも複雑で曖昧だった中世と現在」の講読 3. 史学科・大学図書館の施設の見学 4. I部「場」「地域」からみる(いくつもの日本) 第一章「東と西—もっともポピュラーで根深い問題」の講読 5. 第二章「南と北—よりいっそう豊穡で、ときにカオスな場所」の講読 6. 第三章「内と外—時代によって揺れ動く「境界」の独自性」の講読 7. II部「人」「階層」からみる(いくつもの日本) 第四章「朝廷と幕府—二大勢力の関係性をめぐる激しい学説論争」の講読 8. 第五章「寺社と宗教—現代とかけ離れた「もうひとつの勢力」」の講読 9. 第六章「生業と身分—非農業的世界から見えてくる豊かな日本史」の講読 10. III部「多様な列島社会を「統合」するものは何か？」 第七章「分裂と統合—両者の共存は可能なのか？」の講読 11. 第八章「中央と地方—首都の求心力はどこにあるのか」の講読 12. 第九章「天皇と将軍—戦国期にも存在しえた「価値」を探る」の講読 13. 終章「歴史から学べることは何か」の講読／まとめ</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	日本中世史研究入門	演習	
担当者	関 周一		

[成績評価方法]

レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

レポート課題の講評結果をmanabaで周知し、専門演習を選択する際に必要な知識や知的関心の集積に結びつく助言を行なう。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポート(40%)、授業の準備状況、作成レジュメ、報告、質疑応答(60%)

[教科書(ISBN)]

書籍名: 分裂と統合で読む日本中世史 著者名: 谷口雄太 出版社名: 山川出版社 ISBN: 9784634151796

[参考書(ISBN)]

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	日本古代・中世国際交流史研究入門	演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本古代・中世国際交流史の基礎知識および研究方法の基礎を習得する。</p> <p>[授業概要] 日本古代・中世国際交流史に関する基礎的な論文や史料を読み、その内容などについて受講生が輪番で報告する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講読する論文・史料などにはあらかじめ目を通したうえで授業に臨み、授業後にはそれらの復習をおこなうとともに、図書館などで自分なりに関連文献を探してさらに知識・理解を深めていく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 日本古代・中世国際交流史の研究史(1) 3. " (2) 4. " (3) 5. 日本古代・中世国際交流史の基本史料(1) 6. " (2) 7. 受講者による報告(1) 8. " (2) 9. " (3) 10. " (4) 11. " (5) 12. " (6) 13. まとめ 			

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	日本古代・中世国際交流史研究入門	演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53046 [LHH2-016]

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	続・歴史学へのいざない	演習	
担当者	尾崎 真理		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

歴史学の分析手法を理解し、歴史学に関する文献の叙述を批判的に読むことができる能力を身につける。

[授業概要]

近世史における主要な著作(ただし、新書など初学者のために比較的簡易に書かれた著作を対象とする)をテキストとし、これを輪読する。毎回、報告担当者が、自身が割り当てられた部分について、内容の要旨および疑問点・問題点を記したレジュメを全員に配布し、これをもとに報告を行う。報告後、授業参加者全員で議論する。

なお、授業期間中に1回、大学周辺史跡の見学または大学図書館における史料閲覧を行う。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

報告者は事前にレジュメを作成する。他の受講生も、必ずテキストの当該部分を事前に読んでおくこと。

[授業計画]

1. 授業の進め方
2. 史学科資料室と大学図書館書庫の見学
3. テキストの講読1
4. テキストの講読2
5. テキストの講読3
6. テキストの講読4
7. テキストの講読5
8. 大学周辺史跡の見学または大学図書館における史料閲覧
9. テキストの講読6
10. テキストの講読7
11. テキストの講読8
12. テキストの講読9
13. テキストの講読10

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	続・歴史学へのいざない	演習	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] レポート50%、報告レジュメの内容50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53047 [LHH2-016]

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	西洋史研究の基礎	演習	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 入門演習よりも専門性の高い、史学科学生として必要な歴史研究についての基礎知識・技能を十分に習得することができるようになる。</p> <p>[授業概要] 文献調査・報告資料の作成など、卒業論文執筆の際に必要な基礎的な知識・技能の習得にむけての指導を行う。具体的には、各自が西洋史上の事象1つを選択し、そのテーマについての口頭発表を目的とした作業にとりくむ。関連の課題の提出も義務付ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回授業の内容について理解を深め、次回授業に備える自主学習を行う。口頭指示およびmanaba(各回授業のプロジェクト)で教員が指針を与える。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. はじめに(スケジュール、テーマの選択) 2. 演習1 参考資料を活用する 3. 演習2 適切な資料を探す 4. 演習3 情報を整理する 5. 演習4 構成を考える 6. 演習5 プレゼンテーションを工夫する 7. 課題報告1-1 研究発表の作法 9. 課題報告1-2 レジューメ、レポートの注意点 10. 課題報告1-3 効果的なプレゼンテーションにむけて 11. 課題報告1-4 質疑応答のポイント 12. 課題報告1-5 よりよい発表のために 13. 課題報告2</p>			

科目名	基礎演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	西洋史研究の基礎	演習	
担当者	吉村 真美		

[成績評価方法]

授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	経済学の基礎		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	チャン ティフェ			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 本講義の到達目標は、受講生が、経済学の基本的な知識や経済学的な考え方について習得し、現実の経済の問題について理解を深めるとともに、自分で考えられるようになることである。</p> <p>[授業概要] 本講義は、経済学に関する知識や、数学に関する知識がなくとも学習できるよう、初学者を対象として構成される。経済学はミクロ経済学、マクロ経済学という2つの側面から経済問題をとらえている。ミクロ経済学では、人間や企業の合理的な判断の結果どのような行動をとるようになるのかを分析している。マクロ経済学では、国全体としての家計や企業の行動を把握することによって、ミクロ経済学では見えていなかった経済システムの整合性を明らかにしている。これらを学ぶことによって、学問としての経済学の意味を分かってもらいたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業外学修時間は、1週間当たり4時間程度が必要である。</p> <p>[授業計画] 1. イントロダクション: 経済学とは 2. 人々はどのように意思決定するか 3. 人々はどのように影響しあうのか 4. 経済は全体としてどのように動いているか 5. 生産可能性 6. 比較優位 7. 市場における需要 8. 市場における需要と供給の作用 9. 国内総生産(GDP)の定義、構成要素 10. GDPと経済成長の国際比較 11. 生計費の測定 12. インフレーション 13. 期末試験 (学習の効果を高めるために、履修者の理解度に応じて授業計画を調整することも可能)</p>				

科目名	経済学の基礎	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	チャン ティフェ		
<p>[成績評価方法] 小課題(50%)、期末試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小課題に関する解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54180 [LHH2-019]

科目名	現代社会	前期	2 単位
サブタイトル	現代社会への歴史的視座	講義	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>現代社会の位置づけを把握し、現代社会が直面している課題を認識する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近代化のプロセスの結果として現代社会を位置づけ、近代化の光と影を具体的に学習した後に、地域づくり、少子高齢化社会における生きがいなどのテーマについて講義をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>講義中の指示にしたがって、予習・復習をおこなうこと。 (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入—現代社会を論じるために 2. 近代化の光と影 3. 現代社会の位置づけ 4. 柳田国男の社会構想 5. 過渡期の認識と「都市」の発見 6. ふるさとイメージと開かれた土着思想 7. モダニティと現代民俗誌 8. 現代市民社会における民俗調査 9. 観光と現代社会 10. 地域づくりと観光 11. 少子高齢化と女性のライフコース 12. 現代社会と生きがい論・幸福論 13. まとめ 			

科目名	現代社会	前期	2 単位
サブタイトル	現代社会への歴史的視座	講義	
担当者	川森 博司		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)、受講態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: 社会学入門 人間と社会の未来 著者名: 見田宗介/著 出版社名: 岩波書店 ISBN: 9784004310099</p>			

S54090 [LHH3-041]

科目名	現代社会	前期	2 単位
サブタイトル	現代社会への歴史的視座	講義	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 現代社会の位置づけを把握し、現代社会が直面している課題を認識する。</p> <p>[授業概要] 近代化のプロセスの結果として現代社会を位置づけ、近代化の光と影を具体的に学習した後に、地域づくり、少子高齢化社会における生きがいなどのテーマについて講義をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講義中の指示にしたがって、予習・復習をおこなうこと。 (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. 導入—現代社会を論じるために 2. 近代化の光と影 3. 現代社会の位置づけ 4. 柳田国男の社会構想 5. 過渡期の認識と「都市」の発見 6. ふるさとイメージと開かれた土着思想 7. モダニティと現代民俗誌 8. 現代市民社会における民俗調査 9. 観光と現代社会 10. 地域づくりと観光 11. 少子高齢化と女性のライフコース 12. 現代社会と生きがい論・幸福論 13. まとめ</p>			

科目名	現代社会	前期	2 単位
サブタイトル	現代社会への歴史的視座	講義	
担当者	川森 博司		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)、受講態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 学習態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: 社会学入門 人間と社会の未来 著者名: 見田宗介/著 出版社名: 岩波書店 ISBN: 9784004310099</p>			

S54090F [LHH3-041]

科目名	現代政治学の基礎		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	野口 和美			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート		○	グループワーク	○
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 政治の基礎を学ぶ。政治哲学や政策の基礎を理解する。更には、ガバナンスについても理解する。</p> <p>[授業概要] 政治学の基礎を学ぶ。行政の仕組みや市民の社会への関わりについてガバナンスの視点を大切にして考察する。民主的な政治とはどのようなことなのかについても、皆さんと考える。政治制度のみではなく、実際の政策事例を挙げながら、政策が策定されるプロセスなども講義する。NPOと政治などについても講義内容に含める。ニュース時事検定試験の問題を講義に活用することもある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。毎日、新聞に目を通しておくこと。</p> <p>[授業計画] 1. 政治とは何か 身近なところから政治を考える 2. 民主主義の変遷 (1)民主主義の思想的側面を考える 3. 民主主義の変遷 (2)近代の民主主義の思想について考える 4. 政治における関係者 利益団体などどのようなアクターが政治に関係しているのか考える 5. 選挙と投票行動 選挙制度及びどのように有権者は投票行動に臨むのか考える 6. 政党制度と議員 政治における政党と議員との関係を考える 7. 地方自治 身近な地域に関する政治と地方と国家の関係性を考える 8. 政治と行政との関係 官僚と政治との関係性について考える 9. 政策過程と政策決定 政策過程におけるアクターについて考える 10. 市民社会組織 市民社会組織と政治・行政との関係性について考える 11. 政治とメディア(学外講師) 12. 国際政治 国家間関係 国際連盟及び国際連合 国際政治の変容 13. 政治学と持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)</p>				

科目名	現代政治学の基礎	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	野口 和美		
<p>[成績評価方法] 授業参加への積極性(20%)、小テスト(30%)、新聞レポート(30%)、期末レポート(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] レポート課題に関する解説を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:国際1-1-1/日本と世界の動きを双方向に俯瞰できる基本的な歴史観と教養を備えている。 成績評価方法:授業参加への積極性(20%)、小テスト(30%)、新聞レポート(30%)、期末レポート(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:国際1-1-2/国際関係分野における幅広い知識と教養を持ち、グローバルな諸課題への理解と深い関心を持っている。 成績評価方法:授業参加への積極性(20%)、小テスト(30%)、新聞レポート(30%)、期末レポート(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:国際2-1/物事を複眼的・多面的に観察・理解しようとする思考力を備え、公正・批判的に判断できる基本的な力を持っている。 成績評価方法:授業参加への積極性(20%)、小テスト(30%)、新聞レポート(30%)、期末レポート(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:国際2-2/自らの主張や意見を口頭あるいは文書によって論理的・説得的に伝える力を持っている。 成績評価方法:授業参加への積極性(20%)、小テスト(30%)、新聞レポート(30%)、期末レポート(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:国際3-1-2/グローバルな視点を持ちながら、自らの置かれた場で、地域の発展や課題解決に関わろうとする意欲を持っている。 成績評価方法:授業参加への積極性(20%)、小テスト(30%)、新聞レポート(30%)、期末レポート(20%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:国際3-2-3/グローバルな時代だからこそローカルの重要性を認識できる視点を備えている。 成績評価方法:授業参加への積極性(20%)、小テスト(30%)、新聞レポート(30%)、期末レポート(20%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54170 [LHH2-018]

科目名	古文書講読 I	前期	2 単位
サブタイトル	近世古文書を読む	演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>以下の3点を到達目標とする。</p> <p>①基本的なくずし字で書かれた近世古文書については、ほぼ解読することができる。</p> <p>②歴史学における史料の位置づけについて理解できる。</p> <p>③近世古文書の文化財的価値およびその保存のあり方について理解できる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業では古文書テキスト(近世古文書の写真版またはコピー)を毎回読んでいく。授業の後半には、一部原物文書も使用する。履修生は、授業を通して、基本的な近世古文書の解読能力を修得するとともに、近世社会の実態、近世古文書と近世史研究との関係、近世古文書の文化財としての側面などについて理解を深めることになる。</p> <p>※後期はこの授業の続きとして古文書講読 I (中級)を実施する。受講生は前期・後期の古文書講読をともに履修することが強く望まれる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>近世古文書に限らず、くずし字の解読能力を身につけるためには、まず、授業の前に必ず予習(最低1時間)をし、授業後は必ず復習(最低1時間)をしなければならない。これとあわせ、それまでの授業で取り上げた古文書テキストを、毎日繰り返し復習することも必要である。継続と繰り返しが上達の早道である。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業の進め方、辞書の利用方法等についての説明) 2. 近世古文書の解読1 3. 近世古文書の解読2 4. 近世古文書の解読3 5. 近世古文書の解読4 6. 近世古文書の解読5 7. 近世古文書の解読6 8. 近世古文書の解読7 9. 近世古文書の解読8 10. 近世古文書の解読9 11. 近世古文書の解読10 12. 近世古文書の解読11 13. まとめ 			

科目名	古文書講読 I	前期	2 単位
サブタイトル	近世古文書を読む	演習	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] 受講態度26%、試験74%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 履修生は、毎回manabaの小テスト機能を用いてその日の授業内容について質問や感想を書く。教員は次の授業の中で、質問に答える。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	古文書講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

以下の3点を到達目標とする。

- ①基本的なくずし字で書かれた近世古文書については、ほぼ解読することができる。
- ②歴史学における史料の位置づけについて理解できる。
- ③近世古文書の文化的価値およびその保存のあり方について理解できる。

[授業概要]

古文書講読Ⅰ(前期)で習得した古文書読解力に基づき、この授業では中級レベルの古文書テキスト(近世古文書の写真版またはコピー)を毎回読んでいく。授業のうちいずれか1コマは、史料原物も使用し、古文書を含めた文化財の扱い方についても学ぶ機会をつくる。履修生は、授業を通して、基本的な近世古文書の解読能力を修得するとともに、近世社会の実態、近世古文書と近世史研究との関係、近世古文書の文化財としての側面などについて理解を深めることになる。
※この授業は前期の古文書講読Ⅰ(初級)の続きとして実施する。受講生は前期の古文書講読Ⅰを受講した上で本授業を続けて履修することが強く望まれる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

近世古文書に限らず、くずし字の解読能力を身につけるためには、まず、授業の前に必ず予習(最低1時間)をし、授業後は必ず復習(最低1時間)をしなければならない。これとあわせ、それまでの授業で取り上げた古文書テキストを、毎日繰り返し復習することも必要である。継続と繰り返しが上達の早道である。

[授業計画]

1. ガイダンス(授業の進め方、辞書の利用方法等についての説明)
2. 近世古文書の解読1
3. 近世古文書の解読2
4. 近世古文書の解読3
5. 近世古文書の解読4
6. 近世古文書の解読5
7. 近世古文書の解読6
8. 近世古文書の解読7
9. 近世古文書の解読8
10. 近世古文書の解読9
11. 近世古文書の解読10
12. 近世古文書の解読11
13. 近世古文書の解読12

科目名	古文書講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] 受講態度30%、試験70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	近世史料講読(史料の分析とその方法論)	演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>以下の4点を到達目標とする。①近世史料の読解力を身につける、②自身で研究テーマを設定し、自ら考えた方法によってその課題を解き、適切な解答を得る能力を身につける、③課題設定・課題追究のプロセスをわかりやすく発表する能力を身につける、④日本近世の特質について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>指定の古文書から発表者が各自担当したい史料を選択し、1週目に古文書の翻刻をした上で、2週目に自身が割り当てられた部分について、①語句の意味、②現代語訳、③解説、を記したレジュメを全員に配布し、①②③の順に報告を行う。報告担当者以外の受講生も、事前に翻刻、および①②について準備をしておき、授業に臨む。 この授業は、古文書の読解から史料の分析をどのように行うか、その一連の方法を学ぶための授業です。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>報告者は事前にレジュメを作成する。史料の翻刻および①②については、報告担当者以外の受講生もレジュメを作成する。予習・復習は週1～2時間。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業のねらいと進め方(各自が担当する史料の箇所の決定) 2.史料の分析方法や文献の探し方など例示 3.近世古文書の翻刻1 4.翻刻した史料の講読1 5.近世古文書の翻刻2 6.翻刻した史料の講読2 7.近世古文書の翻刻3 8.翻刻した史料の講読3 9.近世古文書の翻刻4 10.翻刻した史料の講読4 11.近世古文書の翻刻5 12.翻刻した史料の講読5 13.まとめ 			

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	近世史料講読(史料の分析とその方法論)	演習	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] 発表レジュメの内容50%、レポート50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S53060 [LHH2-017]

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	歴史研究の基礎を身につける	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	<small>研究文献と史料の所在を確認するため、図書館を 使いこなす力量を養う</small>	実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

卒業論文作成に際し必要とされる基礎的作業能力の修得を目的とする。
中世史研究の方法について理解する。

[授業概要]

卒業論文は、先ず「自分の興味や関心が何か」を明確にすることから始まる。そのため、(1)現時点での受講生の興味・関心を確認するために文献探索の初歩的手続きを学ぶ。(2)日本中世史の基礎文献を読み解くトレーニングを行なう。(3)史料の輪読を通して、関連するデータ検索のスキル獲得をめざす。(4)関心あるテーマの手がかりとなる論文を読む。

本年度は、(2)については『中世史講義』を講読する。(3)については御成敗式目(貞永式目)を輪読し、参考文献を活用しながら読み解いていく。御成敗式目(貞永式目)は、コピーを配布する。

分担報告の際はレジュメを作成し、また互いに該当史料や論文を事前に読み、議論に参加することを義務づける。さらに報告内容や報告後に検討した点を学期末のレポートにまとめて提出してもらう。なお、フィールドワークや博物館展示の見学を適宜、実施する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

研究文献や史料は、分担報告者であるか否かに関わらず、丁寧に読み解くことを強く求める。その際に生じた疑問点や興味深い点を、ゼミメンバー全員で共有して、相互の理解を深められるよう準備することが望ましい。

[授業計画]

1. 日本中世史を学ぶにあたって
2. 文献演習(『中世史講義』)(1)
3. 文献演習(『中世史講義』)(2)
4. 文献演習(『中世史講義』)(3)
5. 史料講読(1)
6. 史料講読(2)
7. 史料講読(3)
8. 史料講読(4)
9. 史料講読(5)
10. 史料講読(6)
11. 史料講読(7)
12. 史料講読(8)
13. まとめー春期休暇の課題設定ー

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	歴史研究の基礎を身につける	演習	
担当者	関 周一		

[成績評価方法]

レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

manabaレポートのコメント機能を使用。提出レポートの問題点を指摘し、春季休暇中に取り組むべき課題を提示する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[教科書(ISBN)]

書籍名: 中世史講義 一院政期から戦国時代まで 著者名: 高橋典幸・五味文彦編 出版社名: 筑摩書房 ISBN: 9784480071996

書籍名: 御成敗式目 一鎌倉武士の法と生活 著者名: 佐藤雄基 出版社名: 中央公論新社 ISBN: 9784121027610

書籍名: 御成敗式目ハンドブック 著者名: 日本史史料研究会 監修、神野潔・佐藤雄基編 出版社名: 吉川弘文館

ISBN: 9784642084475

[参考書(ISBN)]

書籍名: 増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名: 秋山哲雄・田中大 喜・野口華世編 出版社名: 勉誠出版

ISBN: 9784585222804

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	民俗学の基礎を学ぶ	演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>民間伝承の資料から庶民の生活を読み取る視点を獲得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>日本民俗学の出発点とされる『遠野物語』を精読しながら、民俗学においてどのような研究課題があり、それに対してどのような研究方法があるのかを検討していく。</p> <p>民俗学の学習において一番大切なのは、生活の実感を踏まえた理解である。日々の生活に視点を置いて見えてくることの面白さを実感してもらい、そのような実感を踏まえて、民俗学の視点から歴史を見ていく方法を身につけることを目指したい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>教科書にもとづいて、しっかり予習・復習をすること。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 柳田国男と『遠野物語』 2. 遠野の地形と早池峰山 3. 山人、山男、山女 4. 神隠し 5. 家と村 6. 生と死の境界 7. 河童 8. 小正月 9. ザシキワラシ 10. オシラサマ 11. マヨイガ 12. 地震・津波と幽霊 13. まとめ 			

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	民俗学の基礎を学ぶ	演習	
担当者	川森 博司		

[成績評価方法]

受講態度(70%)と発表内容(30%)を合わせて評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 学習態度

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 発表

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 発表

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 学習態度

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 発表

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 学習態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 発表

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 発表

[教科書(ISBN)]

書籍名:遠野物語remix 付・遠野物語 著者名:京極 夏彦 出版社名:KADOKAWA ISBN:9784044083229

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	アジア史研究入門	演習	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 特殊講義等の専門科目を受講するのに必要な基礎知識と蓄積し理解力を養成する。</p> <p>[授業概要] アジアの歴史を学ぶ基礎力を錬成するための演習であり、卒業論文作成への第一歩となる授業である。各自興味をもつテーマについて調査した成果を発表してもらい、全員で討論する。それぞれのテーマの歴史的背景や研究の方法と現状、史料の所在などを踏まえ、専門研究に触れることが第一の目標。演習の成果として発表内容に関するレポートを作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。関係する書籍を読み進めるとともに、アジア各地への関心を深める。また、ひろくアジアに関わる諸問題を把握する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のあるテーマについてプレゼンテーション 2. 研究方法と史料論(1) 3. 研究方法と史料論(2) 4. 研究方法と史料論(3) 5. 文献講読(1) 6. 文献講読(2) 7. 文献講読(3) 8. 文献講読(4) 9. 文献講読(5) 10. 研究論文の講読(1) 11. 研究論文の講読(2) 12. 研究論文の講読(3) 13. 研究成果の総括 			

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	アジア史研究入門	演習	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを利用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:『論点・東洋史学: アジア・アフリカへの問い158』 著者名:吉澤誠一郎(監修) 出版社名:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623092178</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53063 [LHH2-017]

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	考古学の方法	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

- ①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を養う
- ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を養う
- ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を養う
- ④考古学の方法を習得し、関心あるテーマの論文を読む基盤を作る

[授業概要]

史学演習 I では考古学の方法論を学ぶ。考古学の専門書・論文・発掘調査報告書を読みこなし、問いを発する基盤を作る。具体的には、方法論に関わる基本文献を素材として、内容を咀嚼し、他者に説明する訓練を重ねる。次のように授業を進めていく。

- ①発表の3週間前までに、課題論文を配布する。発表者は課題論文を読み込むとともに、論文内で引用されている論文などを参照し、理解を深めて発表レジュメを準備する。
- ②発表者以外の受講者は、発表回までに配布された論文を読み、理解を深める。何が理解できたか、何がわからないかを整理しておく。
- ③発表者の発表をもとに、全員で疑問点を出し合う。未熟で全く構わないので、何か発言できるように考えてきてほしい。

したがって発表回はもちろん、発表を聞く立場の回であっても、主体的な取り組みが不可欠であることは言うまでもない。方法論とは言わば、知の世界に分け入っていくための武器である。問いと答えの探究には欠かせない以上、主体的に取り組み、漏らすことなく獲得してほしい。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

発表者はレジュメを作成すること。発表者以外の受講者も、配布された文献を読み、発言の準備をして授業に臨むこと。

[授業計画]

1. ガイダンス
2. 論文の読み方＋発表の作法(話す作法と聞く作法)
3. 遺跡／博物館の見学
4. 遺跡／博物館の見学
5. 横山「考古学とはどんな学問か」＋近藤「考古学とは何か」、鈴木「考古学の範囲」
6. 小野山「資料論」、レンフリー&バーン「何が残されたのかー多様な資料ー」
7. 岡村「機能論」、チャイルド「機能の判定」
8. 佐原「分布論」、レンフリー&バーン「どこにー遺跡と遺構の踏査と発掘ー」
9. 麻生「層位論」、レンフリー&バーン「いつー年代測定法と編年ー」
10. 横山「型式論」、鈴木「考古学の方法」
11. 近藤「総論ー変化・画期・時代区分ー」、甘粕「総論ー生産力発展の諸段階ー」
12. ギャンブル「いったい何通りの考古学者がいるのか」、ギャンブル「まず基本的な概念を理解しよう」
13. ギャンブル「ヒト」、ギャンブル「モノ」

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	考古学の方法	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		

[成績評価方法]

3分の2以上の出席を前提として、口頭発表の内容(50%)、討論への積極性(50%)を評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業時間内に解説する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史料の読解	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] くずし字で書かれた近現代史料に慣れ、一定レベルのものが読解できるようになることが目標である。</p> <p>[授業概要] 日本近現代史を研究するにあたっては、史料の解釈や操作の方法を会得すること、現在の学界の研究状況を整理することの二点がとりわけ重要となってくる。この演習では、まず、各自が関心を持つテーマに関する史料の読解を通して、近代史料の特質や所在状況について理解を深めていく。とりわけくずし字で書かれた史料の読解に力点を置く。授業は、発表と討論を中心とするので、発表者以外の者に対しても事前の予習と積極的な発言を求める。近代のくずし字に関する理解を深めることと、ゼミ発表の準備・発表・質疑応答に積極的に取り組む姿勢を養うことが到達目標となる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近代史料に深い興味を抱く者が履修するよう望む。</p> <p>[授業計画] 1. 各自の問題関心の披露 2. 近代史料の特質(講義) 3. 近代史料の所在(講義) 4. 近代史料読解の実際(初歩) 5. 近代史料読解の実際(初歩) 6. 近代史料読解の実際(初歩) 7. 近代史料読解の実際(初歩) 8. 中間的なまとめ 9. 近代史料読解の実際(中級) 10. 近代史料読解の実際(中級) 11. 近代史料読解の実際(中級) 12. 近代史料読解の実際(中級) 13. 総体的なまとめの質疑応答</p>			

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史料の読解	演習	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 受講状況 (50%)、受講態度 (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 授業終了後やオフィスアワーの時間を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-1 / 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-2 / 幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-5 / 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-1 / 演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-2 / 多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-3 / 演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S53067 [LHH2-017]

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 歴史学的な日本古代史像を組み立てていくための技術・方法論の初歩を身につけ、将来の卒業論文作成にあたっての基礎をつくる。</p> <p>[授業概要] 日本古代史関連の基礎的な論著を読むことを通じて、史料にもとづいて歴史像を作りあげていく方法を学んでいく。受講者は、論著の内容の紹介報告を輪番で担当し、他の受講者はその報告に対して質疑をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の報告担当以外の部分についても、必ず事前に目を通したうえで授業に参加する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文演習(1) 3. 論文演習(2) 4. 論文演習(3) 5. 論文演習(4) 6. 論文演習(5) 7. 論文演習(6) 8. 論文演習(7) 9. 論文演習(8) 10. 論文演習(9) 11. 論文演習(10) 12. 論文演習(11) 13. まとめ 			

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53068 [LHH2-017]

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文にむけて・基礎的な知識とスキルを身につける	演習	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文の作成に必要とされる史資料収集や口頭発表の基礎的な知識とスキルを習得することができるようになる。卒業論文のおおまかなテーマを決定できるようになる。</p> <p>[授業概要] 卒業論文の作成にむけて必要とされる、専門度の高い資料の収集や口頭発表の方法などの基礎事項の知識とスキルが習得できるように、演習方式で指導する。卒業論文のテーマについても、各自の関心にもとづく個別領域において資料収集を進めてゆく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回授業の内容について理解を深め、次回授業に備える自主学習を行う。口頭指示およびmanaba(各回授業のプロジェクト)で教員が指針を与える。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに スケジュールの確認 2. 演習1-1 テーマの選択 3. 演習1-2 基礎資料を集める 4. 演習1-3 データベースの活用 5. 演習1-4 構成を考える 6. 演習1-5 報告資料の作成 7. 博物館・美術館での学外授業もしくは学内での史資料調査 8. 口頭報告(1)プレゼンテーションの工夫 9. 口頭報告(2)配布資料の活用 10. 口頭報告(3)質疑応答で得たものを反映させる 11. 卒業論文にむけて1 各自の関心の披歴 12. 卒業論文にむけて2 「問い」を見つける 13. おわりに 			

科目名	史学演習 I	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文にむけて・基礎的な知識とスキルを身につける	演習	
担当者	吉村 真美		
<p>[成績評価方法] 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53069 [LHH2-017]

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	近世史研究の方法	演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>以下の2点を到達目標とする。</p> <p>①古文書解読力をさらに高めるとともに、古文書整理能力を身につける。</p> <p>②学術論文の内容とその問題点を正確に把握するとともに、それらをわかりやすくレジュメにまとめ、報告する能力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業では、前半に古文書解読の訓練を行い、後半には論文講読を行う。</p> <p>【前半(古文書解読)】</p> <p>毎回、近世古文書の写真を読む。また、原物を用いた古文書整理も行い、古文書整理方法について学ぶ。受講生は、2回生のときよりもさらに高い近世古文書の解読能力を修得するとともに、近世社会の実態、近世古文書と近世史研究との関係、近世古文書の文化財としての側面などについて、より理解を深めることになる。</p> <p>【後半(論文講読)】</p> <p>毎回、日本近世史に関する論文を講読する。各回、以下の順に授業を進める。①受講生全員が事前に同じ論文を読み、論文の要旨と評価点・疑問点・問題点をまとめたレジュメを作成する。レジュメは、A4判4枚にまとめ、うち3枚を内容要約にあて、残り1枚には論文の評価点・疑問点・問題点を記す。取り上げる論文は教員が指定する。②授業当日、授業の冒頭に受講生全員がレジュメを教員に提出する。③あらかじめ決められた報告担当者が、レジュメに基づき、報告を行う。報告担当者はメイン報告者とサブ報告者の2名とし、メイン報告者は、論文の要旨および評価点・疑問点・問題点を報告し、サブ報告者は、評価点・疑問点・問題点のみを報告する。この両名は全員分のレジュメを用意し、授業開始前に配布しておく(報告者以外の受講生は、レジュメを1部用意するだけでよい)。④報告後、全員で議論する。</p> <p>報告担当者は、必ず関連論文をいくつか読んでおき、レジュメに反映させねばならない。また、④の議論には、受講生全員が積極的に参加することを望む。</p> <p>なお、授業期間中に1回、学外の史跡・博物館等の見学を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>前半の古文書解読では、授業の前に必ず予習をし、授業後は必ず復習をすること。これとあわせ、それまでの授業で取り上げた古文書テキストを、毎日繰り返し復習すること。継続と繰り返しが古文書解読力上達の早道である。後半の論文講読では、毎回、受講生全員が、授業で取り上げる論文についてレジュメを作成する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 近世古文書の解読1 3. 近世古文書の解読2 4. 近世古文書の解読3 5. 近世古文書の解読4 6. 近世古文書の解読5 7. 近世古文書の解読6 8. 学外史跡、史料保存機関の見学 9. 論文の講読1 10. 論文の講読2 11. 論文の講読3 12. 論文の講読4 13. 論文の講読5 			

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	近世史研究の方法	演習	
担当者	尾崎 真理		

[成績評価方法]

前半期最後に行われる古文書試験50%、レポート30%、発表レジュメの内容20%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	文献史料を読み解く	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	<small>研究文献と史料の所在を確認するため、図書館を 使いこなす力量を養う</small>	実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

卒業論文作成に必要な歴史資料、特に文献史料を取扱う能力を修得する。

[授業概要]

まず春季休暇の成果にもとづき、現時点での受講生の興味・関心を再確認する。次に、ゼミ生全員と分担して中世法とそれに関する論文を読み解いてゆく。松園潤一郎編『室町・戦国時代の法の世界』(吉川弘文館、2021年)をテキストにしてその論旨を確認し、同書から関連論文および関連史料を抽出する。その後、関連論文および関連史料を講読する。講読する論文と史料は、コピーを配布する。

報告に際しては、レジюмеを作成すること、および該当する論文や史料を事前に読み、議論に参加することを義務づける。また卒業論文に向けた準備報告を実施し、その成果は学期末レポートにまとめる。なお、日本中世史に関わるフィールドワークや博物館展示見学を適宜、実施する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

分担報告する史料の理解を深めるための、丁寧な準備を強く求める。その過程で生じた疑問は、報告者以外のゼミメンバーと共有し、協働して相互の理解を深めるよう報告を工夫する。

[授業計画]

1. ガイダンス
2. 日本中世社会の特質 中世法と自力救済(講義)
3. 文献演習 A 『室町・戦国時代の法の世界』の講読(1)
4. 文献演習 A 『室町・戦国時代の法の世界』の講読(2)
5. 文献演習 A 『室町・戦国時代の法の世界』の講読(3)
6. 文献演習 B 中世法に関する論文(1)
7. 文献演習 B 中世法に関する論文(2)
8. 文献演習 B 中世法に関する論文(3)
9. 史料演習 中世法(1)
10. 史料演習 中世法(2)
11. 史料演習 中世法(3)
12. 史料演習 中世法(4)
13. 史料演習 中世法(5)／まとめー夏期休暇の課題設定ー

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	文献史料を読み解く	演習	
担当者	関 周一		

[成績評価方法]

レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

manabaレポートのコメント機能を使用。提出レポートの問題点を指摘し、夏季休暇中に取り組むべき課題を提示する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[教科書(ISBN)]

書籍名: 室町・戦国時代の法の世界 著者名: 日本史史料研究会監修・松園潤一郎編 出版社名: 吉川弘文館

ISBN: 9784642083973

[参考書(ISBN)]

書籍名: 増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名: 秋山哲雄・田中大 喜・野口華世編 出版社名: 勉誠出版

ISBN: 9784585222804

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	民俗資料への視点と課題の発見	演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本の昔話資料と古今東西の伝承説話との比較考察を進めることにより、それらの伝承の背後にある伝承社会の世界観を把握する。 卒論に向けては、大まかな方向性を確定する。</p> <p>[授業概要] 日本の昔話資料を軸にして古今東西の伝承説話との比較考察をおこなったテキストを読み進めながら、さまざまな民俗事象の理解を深めていく。 その際に、それぞれの説話が語られた時代背景の理解に重点を置くとともに、伝承の背後にある風俗・習慣について民俗学的な考察を進めていく。 また、文献史料と民間伝承の接点を探ることも、この授業の重要なポイントである。</p> <p>前期の学習においては、資料を読むことの面白さを実感していくことに重点を置く。 また、各自の卒論のテーマについても、絞り込みを進めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 指示された課題の準備をして授業に臨むこと。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. 昔話の種類 2. 桃太郎—鬼退治 3. かちかち山—トリックスター 4. 花咲翁—「隣の翁」型の昔話 5. 鬼の子小綱—節分の起源と片側人間 6. 三枚の護符—都市伝説への展開 7. 蛇婿—異類婚姻譚と「排除の構造」 8. 現地見学 9. 論文の書き方(1) 10. 論文の書き方(2) 11. テーマ発表(1) 12. テーマ発表(2) 13. テーマ発表(3)</p>			

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	民俗資料への視点と課題の発見	演習	
担当者	川森 博司		

[成績評価方法]

学習態度(80%)とレポート(20%)を合わせて評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 発表

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 学習態度

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 学習態度

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 学習態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポート

[教科書(ISBN)]

書籍名: 昔ばなしの謎 あの世界とこの世界の神話学 著者名: 古川 のり子 出版社名: KADOKAWA ISBN: 9784044000806

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	アジア史の諸問題	演習	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 史学演習Ⅰに引き続いて専門分野に関する知識と研究方法への理解を深める。</p> <p>[授業概要] アジアの歴史を学ぶ上での基礎力を養成するための演習であり、史学演習Ⅰでの成果をうけて卒業論文作成のステップとする。各自が興味をもつテーマについて調査結果を発表してもらい、全員で討論する。あわせてそのテーマをめぐる歴史的背景や研究の方法と現状、史料の所在など関係情報を収集する。なお、夏期休業中には各自の調査結果を踏まえたレポートを執筆する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。関連文献についての書誌情報を集積し、専門書や論文を読み進める。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 文献解読と史料批判(1) 3. 文献解読と史料批判(2) 4. 文献解読と史料批判(3) 5. 文献解読と史料批判(4) 6. 文献解読と史料批判(5) 7. フィールドワーク【予定】 8. 研究論文の精読(1) 9. 研究論文の精読(2) 10. 研究論文の精読(3) 11. 研究論文の精読(4) 12. 研究論文の精読(5) 13. 総括</p>			

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	アジア史の諸問題	演習	
担当者	鈴木 宏節		

[成績評価方法]

授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
manabaを使用する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	研究テーマの模索	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を身につける ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を身につける ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を身につける ④問いを発し、自らの主題を見つける</p> <p>[授業概要]</p> <p>史学演習ⅠとⅡの大きな違いは発表テーマを教員があたえるか/自分でみつけるかである。この史学演習Ⅱでは自ら問いを発し、自らの課題を作り出すことを期待したい。次のように授業を進めていく。</p> <p>①前半は、博物館・史料館、埋蔵文化財センター、教育委員会、史跡公園等に足を運んで、関心をもった遺物もしくは遺構2点を見学・観察し、調書を取る。実測図を作成することが望ましい。その特徴・共通点・違いなど気づいた点、疑問点をレジュメにまとめ、発表する。 ②後半は、前半で報告した遺物や遺構がこれまでどの程度出土しているのか、どの地域で検出されているかを整理し、時代や地域で違いがあるかなど気づく点を発表する。 ③発表者の発表をもとに、全員で疑問点を出し合う。発表者の考え方をよく理解するために、自らの「??」を解決するために、積極的に発言してほしい。</p> <p>したがって発表回はもちろん、発表を聞く立場の回であっても、主体的な取り組みが不可欠であることは言うまでもない。資料に向き合い、「それはどのようなものか」、「どのように作ったのか」、「どのように使ったのか」、「それを資料とすれば何が明らかになるか」を考え抜く一方、他の受講者の視点・論点にも耳を傾け、良い視点を取り入れつつ相互に高めあってほしい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>発表者はレジュメを作成すること。発表者以外の受講者も、発表テーマに関する基礎知識を博物館・史料館の見学あるいは関連書籍等で得て、授業に臨むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 発表の作法(齋藤)と関心ある遺物や遺構に関する発表(全員) 3. 資料調査報告① 4. 資料調査報告① 5. 資料調査報告①(予備回) 6. 資料調査報告② 7. 資料調査報告② 8. 資料調査報告②(予備回) 9. 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表① 10. 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表① 11. 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表② 12. 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表② 13. 関心ある遺物・遺構の特徴・違いや注目点に関する発表(予備回) 			

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	研究テーマの模索	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		

[成績評価方法]
3分の2以上の出席を前提として、口頭発表の内容(40%)、討論への積極性(20%)、レポートの内容(40%)で評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
授業時間内に解説する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/ 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/ 幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/ 課題解決のために必要な資料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/ 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/ 演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/ 多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/ 演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性、レポートの内容

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	近現代史料の読解と活用	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] くずし字で書かれた近現代史料が読解でき、それをもとにした研究発表ができることが大切である。あわせて、活発な質疑応答をおこない、集団討議に慣れることが、今学期の目標である。</p> <p>[授業概要] 日本近現代史を研究するにあたっては、史料の解釈や操作の方法を会得することと、現在の学界の研究状況を整理することの二点がとりわけ重要となってくる。この演習では、まず、各自が関心を持つテーマに関する史料の読解を通して、近代史料の特質や所在状況について理解を深めていく。続いて、基本的な研究書や専門論文の講読を通して、各自の研究発表を行う。授業は、発表と討論を中心とするので、発表者以外の者に対しても事前の予習と積極的な発言を求める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 史学演習Ⅰを受講して近代文書がある程度読めるようになっていることが前提となる。</p> <p>[授業計画] 1. 日本近現代史に関する各自の問題関心の披露と質疑応答 2. 基本的な史料を取りあげ、解釈や史料操作の方法を会得する 3. 近代史料の所在について理解を深める 4. 各自の研究発表1 5. 各自の研究発表2 6. 各自の研究発表3 7. 各自の研究発表4 8. 中間的なまとめ(1巡目の発表の批判と反省) 9. 各自の研究発表5 10. 各自の研究発表6 11. 各自の研究発表7 12. 各自の研究発表8 13. まとめの討論</p>			

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	近現代史料の読解と活用	演習	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53107 [LHH3-037]

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文作成の際に必要な論文読解能力を身につける。</p> <p>[授業概要] 卒業論文を作成する際の基礎となる先行研究の理解と整理のしかたを、さまざま論文を読むことにより学ぶ。受講者が輪番で論文紹介を担当する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 担当する論文を事前に読み込んだうえで授業に出席すること</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 論文講読(1) 3. 論文講読(2) 4. 論文講読(3) 5. 論文講読(4) 6. 論文講読(5) 7. 論文講読(6) 8. 論文講読(7) 9. 論文講読(8) 10. 論文講読(9) 11. 論文講読(10) 12. 論文講読(11) 13. まとめ</p>			

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容80%・受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2単位
サブタイトル	卒業論文の基礎1・テーマを見つける	演習	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 歴史学の知識と手法を身につけることで、各自の卒業論文のテーマを掘り下げ、主体的に作成の準備を進めることができるようになる。</p> <p>[授業概要] この演習は、卒業論文の作成にむけて、各自の選択したテーマにもとづく口頭発表を中心に行う。授業時には他の受講生の報告を受けて、積極的な質疑応答を行うこと。領域・時代・テーマについて卒業論文の概要を決定し、夏季休暇中の自主学習にそなえた卒業論文構成表(A4所定様式、1枚)と参考文献リスト(様式自由、30件以上)を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教員の指示にしたがって、受講生はそれぞれのテーマに則した予備学習を行って発表に臨むこと。発表後は、教員の指導とゼミメンバーによる質疑応答をふまえて、manaba上に課題を再提出することで復習とする。(各回予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに スケジュールの確認 2. 各自のテーマ報告(1)目標・方針の設定 3. 口頭報告(1)授業時発表の位置づけ 4. 口頭報告(2)「題目」と「はじめに」 5. 口頭報告(3)先行研究 6. 口頭報告(4)レポート・論文の文体 7. 博物館・美術館での学外授業もしくは学内での史資料調査 8. 口頭報告(5)「題目」を再検討する 9. 口頭報告(6)史資料を探す 10. 口頭報告(7)データベースの活用 11. 口頭報告(8)構成表 12. 各自のテーマ報告(2)振り返りと展望 13. おわりに 振り返り、方針の修正と課題 			

科目名	史学演習Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の基礎1・テーマを見つける	演習	
担当者	吉村 真美		

[成績評価方法]

授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	日本近世史の諸問題	演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>この授業では、受講生各自が任意に選んだ日本近世史の研究テーマについて、現在の研究水準を確認し、いかなる課題が残されているのかを探る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業は、史学演習Ⅱをうけて行われる論文講読演習である。基本的な授業スタイルは史学演習Ⅱと変わらないが、取り上げる論文は、受講生各自がそれぞれの問題関心に従って設定したテーマに関わる最重要論文である。また、レジュメは報告者(2名)のみが作成し、他の受講生は作成する必要はない。</p> <p>各回、以下の順に授業を進める。①報告担当者はメイン報告者とサブ報告者の2名とする。事前に、メイン報告者が、教員と相談の上、自身の問題関心に従って設定したテーマに関わる最重要論文を選ぶ、②受講生全員が事前に当該論文を読んでおき、授業に臨む、③授業当日、メイン報告者は当該論文の要旨と評価点・疑問点・問題点をまとめたレジュメにより報告する。レジュメは、論文の内容要約(目安A4判3枚)および論文の評価点・疑問点・問題点(A4判1枚)を記す。また、サブ報告者は、評価点・疑問点・問題点のみを記したレジュメ(A4判1枚)により報告する。④報告後、全員で議論する。</p> <p>メイン報告者は、必ず関連論文をいくつか読んでおき、レジュメに反映させねばならない。また、④の議論には、受講生全員が積極的に参加することを望む。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>報告担当者は事前にレジュメを作成する。それ以外の受講生は、報告担当者が指定した論文を事前に読んでおく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業の進め方 2.関心のある研究テーマについての報告(全受講生による) 3.関心のある研究テーマについての報告1 4.関心のある研究テーマについての報告2 5.関心のある研究テーマについての報告3 6.関心のある研究テーマについての報告4 7.関心のある研究テーマについての報告5 8.関心のある研究テーマについての報告6 9.関心のある研究テーマについての報告7 10.関心のある研究テーマについての報告8 11.関心のある研究テーマについての報告9 12.関心のある研究テーマについての報告10 13.まとめ、春休みにおける研究の進め方 			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	日本近世史の諸問題	演習	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] レポート50%、報告レジュメの内容50%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53120 [LHH3-038]

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	研究文献と史料を読み解く技能を身につける	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	図書館を利用し、研究文献と史料の所在を確認する力量を養う	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文テーマについての研究史上の位置を明らかにする。</p> <p>[授業概要] この授業の目的は、各自の卒論テーマが「現在の歴史学研究ではどのように議論されているか」を確認することである。そのために、夏期休暇中に読んだ文献の内容を紹介し、自分の興味や関心の所在を明らかにする。次に、各自のテーマに最も関連する研究文献を選び、その内容と疑問点、課題をまとめた丁寧なレジュメを作成する。また引用史料の所在も確認する。学期末には、以上の作業を整理したレポートを作成する。なお、フィールドワークや博物館展示の見学を適宜、実施する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 研究文献の内容の整理と重要史料の所在を確認すること。報告に向けてあらかじめ内容の理解を深めるよう努め、疑問点と課題を整理して報告に臨むことを強く求める。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献演習(1) 2. 文献演習(2) 3. 文献演習(3) 4. 文献演習 学術論文を読む(1) 5. 文献演習 学術論文を読む(2) 6. 文献演習 学術論文を読む(3) 7. 文献演習 学術論文を読む(4) 8. 史料演習 史料を読み解く(1) 9. 史料演習 史料を読み解く(2) 10. 史料演習 史料を読み解く(3) 11. 史料演習 史料を読み解く(4) 12. 文献・史料を整理する 13. まとめ 春期休暇の課題 			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	研究文献と史料を読み解く技能を身につける	演習	
担当者	関 周一		

[成績評価方法]

レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

manabaレポートのコメント機能を使用。学期末レポートは、その問題点を指摘し、春季休暇中に取り組むべき課題を提示する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポート(50%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(50%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

書籍名: 増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名: 秋山哲雄・田中大 喜・野口華世編 出版社名: 勉誠出版
ISBN: 9784585222804

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	民俗資料への視点と課題の発見	演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本の昔話資料と古今東西の伝承説話との比較考察を進めることにより、それらの伝承の背後にある伝承社会の世界観を把握する。 卒論に向けては、各自のテーマを確定し、資料集めを進める。</p> <p>[授業概要] 日本の昔話資料を軸にして古今東西の伝承説話との比較考察をおこなったテキストを読み進めながら、さまざまな民俗事象の理解を深めていく。 その際に、それぞれの説話が語られた時代背景の理解に重点を置くとともに、伝承の背後にある風俗・習慣について民俗学的な考察を進めていく。 また、文献史料と民間伝承の接点を探ることも、この授業の重要なポイントである。</p> <p>後期の学習においては、民俗学的な背景知識の理解を進めるとともに、資料を分析する手法を身に付けることに重点を置く。 また、各自の卒論のテーマについても、よりの絞った資料の読み込み作業を進めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 指示された課題の準備をして授業に臨むこと。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 蛇女房—「見るなの禁止」と「別れの構造」 2. 産神問答—靈魂の民俗学 3. 太陽と月の神話—皇位継承をめぐる 4. 鬼の子小綱—節分の起源と片側人間 5. 小鳥前生譚—都市伝説への展開 6. 鉢かつき姫—シンデレラ型の昔話 7. 一寸法師—変身と成長 8. 現地見学 9. 論文の書き方(1) 10. 論文の書き方(2) 11. テーマ発表(1) 12. テーマ発表(2) 13. テーマ発表(3) 			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	民俗資料への視点と課題の発見	演習	
担当者	川森 博司		

[成績評価方法]

学習態度(80%)とレポート(20%)を合わせて評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: レポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 発表

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 学習態度

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 学習態度

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 学習態度

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 学習態度

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポート

[教科書(ISBN)]

書籍名: 昔ばなしの謎 あの世界とこの世界の神話学 著者名: 古川 のり子 出版社名: KADOKAWA ISBN: 9784044000806

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文のテーマを絞り込む	演習	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、卒業論文を執筆する調査研究能力を養成する。</p> <p>[授業概要] 前期にひきつづいて研究発表をおこない、各人が興味をもっているテーマに関係する文献や研究論文、史料などを取り上げ、輪読する。発表者以外も史料の講読や発表での質疑討論に積極的に参与することを期待している。春期休業中には卒業論文に向けたレポートの作成を課題とする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。各自のテーマに関する論文や史料を収集し、卒業論文の構想を具体的に作成する。</p> <p>[授業計画] 1. 文献・史料講読の作法 2. 講読文献と史料について 3. 文献・史料講読と史料批判(1) 4. 文献・史料講読と史料批判(2) 5. 文献・史料講読と史料批判(3) 6. 文献・史料講読と史料批判(4) 7. 文献・史料講読と史料批判(5) 8. フィールドワーク【予定】 9. 研究発表(1) 10. 研究発表(2) 11. 研究発表(3) 12. 研究発表(4) 13. 研究発表(5)</p>			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文のテーマを絞り込む	演習	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業への取り組み(50%) + レポート(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53123 [LHH3-038]

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	研究史の整理	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を身につける ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を身につける ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を身につける ④問いを発し、自らの主題をみつける</p> <p>[授業概要]</p> <p>史学演習Ⅲは、関心のあるテーマがこれまでどのように研究されてきたかを辿り、何が論点なのか、何が解決されていないのか、など問題の所在の発見と言語化をめざす。次のように授業を進めていく。</p> <p>①まずは、関心のあるテーマを扱った論文で、1990～2005年の15年間に発表されたものを2篇選んでほしい。その2篇の主張するところの共通点と相違点、そしてその相違は何に起因するのかを丹念に読み込みつつ比較し、レジュメにまとめて発表する。 ②2回目の発表では、関心のあるテーマが初めて学術誌で扱われた頃の論文(1930年代を上限とする)2篇(以上)をとりあげる。丹念に読み込み、どのような観点からその研究が始まり、本格化していったかをレジュメにまとめて発表する。 ③3回目の発表では、関心のあるテーマを扱っている2005年以降に著された最新論文2篇を紹介する。①や②でとりあげた論文と比較しつつ、現在は何が論点になっているのか、何がまだ明らかになっていないかを読み込み、研究の到達点と課題を発表する。 ④4回目の発表までに、①～③でとりあげた論文の中で引用されている文献を網羅的に集め、自身の関心あるテーマの研究史をまとめる。</p> <p>例えば同じ時代が扱われたり、あるいは同種の素材・機能の資料(縄文土器と弥生土器、銅剣と鉄刀など)が扱われる場合など、他の受講生のテーマは少なからず自身のテーマと関連してくるだろう。発表回はもちろん、発表を聞く立場の回であっても積極的に参加し、様々な気付きを得てほしい。</p> <p>各回の発表では論文2篇ずつを報告するが、最終の4回目はそのテーマの研究のあゆみを報告してもらおう。したがって関係する論文をどんどん集めては読み込み、また読み込みでは集めてを繰り返してほしい。その蓄積が次年度に書く卒業論文の「研究史」「現状と課題」の基盤となる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>発表者はレジュメを作成すること。発表者以外の受講者も、発表テーマに関する基礎知識を博物館・史料館の見学あるいは関連書籍等で得て、授業に臨むこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 関心ある分野の論文2篇に関する発表(共通点と相違点) 3. 関心ある分野の論文2篇に関する発表(共通点と相違点) 4. 関心ある分野の論文2篇に関する発表(共通点と相違点) 5. 当該研究開始期の論文に関する発表(研究の進展について) 6. 当該研究開始期の論文に関する発表(研究の進展について) 7. 当該研究開始期の論文に関する発表(研究の進展について) 8. 最新の研究2篇に関する発表(研究の到達点) 9. 最新の研究2篇に関する発表(研究の到達点) 10. 最新の研究2篇に関する発表(研究の到達点) 11. 当該研究の研究経過と現状・課題に関する発表 12. 当該研究の研究経過と現状・課題に関する発表 13. 当該研究の研究経過と現状・課題に関する発表 			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	研究史の整理	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		

[成績評価方法]

3分の2以上の出席を前提として、口頭発表の内容(50%)、討論への積極性(50%)を評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業時間内に解説する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 口頭発表の内容、討論への積極性

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史研究の実際	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本近現代史に関する専門論文を講読し、それにもとづく研究発表を通して、自分の問題関心を固めて、次年度における卒論作成に向けた準備をすることが目標である。</p> <p>[授業概要] 前期の演習Ⅱに引続いて、各自の研究発表とそれに対する質疑応答を通して、日本近現代史に対する認識を深め、卒論作成に向けた準備をする。Ⅲでは、各自が関心をもつテーマに関する学術論文を講読し、それをもとにした発表と質疑応答を重ねて、専門性を高めていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近現代史への深い興味を持って、広く研究整理をしようとする姿勢が望まれる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自が関心をもつテーマの確定 2. 学術論文の検索方法と収集について(講義) 3. 学術論文の読み方について(講義) 4. 各自の研究発表1 5. 各自の研究発表2 6. 各自の研究発表3 7. 各自の研究発表4 8. 中間的なまとめの討論 9. 各自の研究発表(2順目)1 10. 各自の研究発表(2順目)2 11. 各自の研究発表(2順目)3 12. 各自の研究発表(2順目)4 13. 総括の討論 			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史研究の実際	演習	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53127 [LHH3-038]

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文に向けてテーマの絞り込みをおこなうとともに、実際の論文の作成方法を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 受講生が、関心を持っているテーマに沿った論著を選定し、その論著の紹介・検討報告をおこないながら、卒論テーマをより具体的なものに近づけていく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 紹介・検討する論著について、事前に十分に目を通したうえで授業に参加する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文の紹介と検討(1) 3. 論文の紹介と検討(2) 4. 論文の紹介と検討(3) 5. 論文の紹介と検討(4) 6. 論文の紹介と検討(5) 7. 論文の紹介と検討(6) 8. 論文の紹介と検討(7) 9. 卒論のテーマ設定に向けての報告(1) 10. 卒論のテーマ設定に向けての報告(2) 11. 卒論のテーマ設定に向けての報告(3) 12. 卒論のテーマ設定に向けての報告(4) 13. まとめ 			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容80%、受講態度20%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の基礎2・テーマを掘り下げる	演習	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 西洋史についての各自の関心を掘り下げ、専門性の高い卒業論文作成の準備を進めることができるようになる。</p> <p>[授業概要] この演習は、卒業論文の作成にむけて、各自の選択したテーマにもとづく口頭発表を中心に指導を行う。領域・時代・テーマについて卒業論文の概要を決定し、卒業論文構成表(A4所定様式2枚)と参考文献リスト(様式自由、50件以上)を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教員の指示にしたがって、受講生はそれぞれのテーマに則した予備学習を行って発表に臨むこと。発表後は、教員の指導とゼミメンバーによる質疑応答をふまえて、manaba上に課題を再提出することで復習とする。(各回予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに スケジュールの確認 2. 各自のテーマ報告(1)目標・方針の設定 3. 口頭報告(1)構成を再検討する 4. 口頭報告(2)研究動向の把握 5. 口頭報告(3)「問い」を立てる 6. 口頭報告(4)叙述の技法 7. 博物館・美術館での学外授業もしくは学内での史資料調査 8. 口頭報告(5)「題目」を再検討する 9. 口頭報告(6)欧文史料 10. 口頭報告(7)「論文」を読む 11. 口頭報告(8)構成表の充実 12. 各自のテーマ報告(2)振り返りと展望 13. おわりに 振り返り、方針の修正と課題 			

科目名	史学演習Ⅲ	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の基礎2・テーマを掘り下げる	演習	
担当者	吉村 真美		

[成績評価方法]

授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の作成に向けて	演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 受講生各自が選択した卒業論文のテーマについて、先行研究の整理と史料の所在確認を行い、夏期休暇中の史料収集および収集史料分析につなげる。</p> <p>[授業概要] この授業は、受講生の発表形式により、卒業論文の作成指導を行うものである。授業は、【第一段階】受講生各自が卒業論文のテーマを選ぶ、【第二段階】受講生各自が選んだテーマに関わる先行研究をまとめるとともに、その問題点を明らかにし、報告する(一回目報告)、【第三段階】受講生各自が、それぞれのテーマに関わる史料の所在と内容を把握するとともに、卒業論文の構想についてまとめ、報告する(二回目報告)、の順に行う。なお、卒業論文作成のために必要な史料収集の仕方を学ぶため、史料所蔵機関などの見学に赴く場合がある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 報告予定者は、事前に報告レジュメを作成する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 受講生全員が、それぞれどのようなテーマで卒業論文を作成したいのかについて報告する。 3. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)1 4. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)2 5. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)3 6. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)4 7. 卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)5 8. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)1 9. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)2 10. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)3 11. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)4 12. 卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)5 13. 教員が、夏休み中の研究の進め方について説明する。 			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の作成に向けて	演習	
担当者	尾崎 真理		

[成績評価方法]
報告内容50%、授業への取り組み(討論への参加など)20%、レポート30%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]
授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	卒論テーマを深める	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	図書館蔵書を使い、学びを深める知力を身につける	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文テーマを確定し、準備レポートを作成する。</p> <p>[授業概要] 卒業論文作成に必要な基本的スキルのうち、特に論文の要点の把握と疑問を導き出す能力、さらに当該テーマに必要な史料を読み解く技能を身につけるよう指導する。また論文の引用史料を手がかりに、関係史料の収集を進める。この作業で得た成果は、準備レポート(A)にまとめる。なお、夏期休暇中に、準備レポート(A)に対する講評を参考に、論文・史料を検討し、卒論準備合宿(9月初旬予定)で、その内容を報告する。この報告をもとに、卒論の原型となる準備レポート(B)を作成する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 準備レポート(A)の作成に向けて、授業計画の各テーマに対応した準備を進める。必要な研究文献と史料の所在の再確認につとめる。</p> <p>[授業計画] 1. 3回生後期レポートをもとにした課題設定 2. 関連論文と史料の検索(1) - 図書館とweb情報の利用 - 3. 関連論文と史料の検索(2) - 図書館とweb情報の利用 - 4. 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(1) 5. 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(2) 6. 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(3) 7. 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(4) 8. 第1回準備報告 テーマの確定を中心に(5) 9. 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(1) 10. 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(2) 11. 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(3) 12. 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(4) 13. 第2回準備報告 研究史の整理と全体構成を考えるために(5)</p>			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	卒論テーマを深める	演習	
担当者	関 周一		

[成績評価方法]

レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

manabaレポートのコメント機能を使用。提出レポートの問題点を指摘し、卒論準備合宿までに取り組むべき課題を提示する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: レポート(60%)、授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答(40%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

書籍名:増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名:秋山哲雄・田中大 喜・野口華世編 出版社名:勉誠出版

ISBN:9784585222804

書籍名:歴史学で卒業論文を書くために 著者名:村上紀夫 出版社名:創元社 ISBN:9784422800417

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	テーマから議論へ	演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 自分の考えをまとめる力を養うとともに、受講生相互の間で批評する力を身につけることが、この演習の到達目標である。</p> <p>[授業概要] 論文における議論の組み立て方に重点を置いて演習を進める。モデル論文の検討をおこなった後に、各自の選んだテーマに沿って発表してもらう。自分の考えをまとめる力を養うとともに、受講生相互の間で批評する力を身につけることを目指して演習を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に指示した関連文献を読んでおくこと。 (各回、予習・復習合わせて2時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文とは何か 2. モデル論文の検討(1) 3. モデル論文の検討(2) 4. 民俗学のテーマと方法(1) 5. 民俗学のテーマと方法(2) 6. 個人発表(1) 7. 個人発表(2) 8. 個人発表(3) 9. 個人発表(4) 10. 個人発表(5) 11. 議論の組み立て方 12. 個別課題の検討 13. まとめ 			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	テーマから議論へ	演習	
担当者	川森 博司		
<p>[成績評価方法] 学習態度 (50%)、発表内容 (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 発表内容</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	卒業論文指導(1)	演習	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文を執筆する基本姿勢と方法についての理解を深める。</p> <p>[授業概要] 卒業論文作成の準備段階で、各人が選んだテーマについて学んだ成果を発表し、全員で質疑討論をする。演習の進行と並行して各自が研究の成果をレポートをすることを求め、それに加えて夏期休業中には卒業論文の雛形となる大型のレポート作成を求める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。文献・史料の網羅的収集をしつつ、各自のテーマを深化させるため関連論文と史料を積極的に読み進める。</p> <p>[授業計画] 1. 論文の作法(1)本文篇 2. 論文の作法(2)史料篇 3. 論文の作法(3)文献篇 4. 論文の構想発表(1) 5. 論文の構想発表(2) 6. 論文の構想発表(3) 7. 論文の構想発表(4) 8. 論文の構想発表(5) 9. 論文の構想発表(6) 10. 論文の構想発表(7) 11. 論文の構想発表(8) 12. 研究結果の総括(1) 13. 研究結果の総括(2)</p>			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	卒業論文指導(1)	演習	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学2-2／幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学2-3／課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学2-4／読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学2-5／演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学3-2／多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>学科DP番号／DP内容: 史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容: 計画・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%)＋レポート(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	研究史の執筆→資料の分析へ	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

- ①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を使いこなす
- ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を使いこなす
- ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を使いこなす
- ④卒業論文のテーマを確定し、骨格を組む

[授業概要]

史学科における4年間の研鑽の集大成として提出するものが、卒業論文である。卒業「レポート」ではなく、卒業「論文」である以上、学術論文の体裁をそなえていなければならないことは言うまでもない。この史学演習Ⅳと、次の史学演習Ⅴを通じて「学術論文とは何か」を体得し、自らの手で作り上げる。両演習での練磨をベースに、渾身の一作を提出してほしい。

卒業論文は、テーマと問題を自らみつけ、解決の方法を自ら選択し、答えを自らの手で導き出すというプロセスを通して完成に到る。史学演習Ⅳの期間は、適切なテーマを選ぶ、どの資料を使えば解明できるかを設計する、対象資料は現在どのくらい発見されているかを把握する、その研究テーマはこれまでどのように扱われてきたかを咀嚼する、までの到達をめざし、それらをふまえて資料の分析にとりかかる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

卒業論文は、授業時間だけで書き上げるものではない。ペース配分を計算しつつ、限られた時間を上手に使う、着実に進めてほしい。

[授業計画]

1. 考古学論文の書き方(齋藤)
2. 卒業論文のタイトルと構想の発表(全員)
3. 先行研究および研究現状の発表(1)
4. 先行研究および研究現状の発表(2)
5. 先行研究および研究現状の発表(3)
6. 先行研究および研究現状の発表の予備回
7. 対象資料と方法に関する発表(1)
8. 対象資料と方法に関する発表(2)
9. 対象資料と方法に関する発表(3)
10. 着手した分析に関する発表(1)
11. 着手した分析に関する発表(2)
12. 着手した分析に関する発表(3)
13. 総括・夏休みに何をするか

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	研究史の執筆→資料の分析へ	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] 口頭発表の内容(50%)、レポートの内容(50%)で評価する。いわゆる「ドタキャン」は、大幅に減点する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、レポートの内容</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史研究の実際	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

卒論に必要な史料の所在を確認し、夏季休暇中の収集に向けた準備を完成させることが目標である。あわせて各自のテーマに関する研究整理を進めることも今学期の課題である。

[授業概要]

卒論作成に向けた演習を行う。この演習Ⅳでは、まずは卒論のテーマを固め、それに関する文献の所在を確認し、収集を始めることが大切である。できれば収集した史料の読解も取り入れたい。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

史学演習Ⅰ～Ⅲを修得して、日本近現代史における史料の読解や研究状況の整理ができることが前提となる。

[授業計画]

1. 各自の問題関心の披露
2. 卒論についての心構え(講義)
3. 論文作成のノウハウについて(講義)
4. 各自が関心を持つテーマに関する発表1
5. 各自が関心を持つテーマに関する発表2
6. 各自が関心を持つテーマに関する発表3
7. 各自が関心を持つテーマに関する発表4
8. 中間的なまとめ
9. 卒論作成に向けたさらなる研究整理1
10. 卒論作成に向けたさらなる研究整理2
11. 卒論作成に向けたさらなる研究整理3
12. 卒論作成に向けたさらなる研究整理4
13. まとめ(夏休み中の目標の確認)

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史研究の実際	演習	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 受講状況(50%)、発表内容(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53167 [LHH3-039]

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 受講生各自の問題意識にもとづき、先行研究を整理しつつ、卒業論文の具体的なテーマを確定する。</p> <p>[授業概要] 受講生各自が、自身の卒論テーマに選ぼうとしている研究課題について先行研究を調べ、その整理を通して、卒論の具体的な素材を準備していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の卒論の方向性について、つねに検討・確認をおこなっておく。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 各自が関心を持っているテーマの報告(1) 3. 各自が関心を持っているテーマの報告(2) 4. 各自が関心を持っているテーマの報告(3) 5. 各自が関心を持っているテーマの報告(4) 6. 先行研究の紹介と問題点の報告(1) 7. 先行研究の紹介と問題点の報告(2) 8. 先行研究の紹介と問題点の報告(3) 9. 先行研究の紹介と問題点の報告(4) 10. 先行研究の紹介と問題点の報告(5) 11. 選択したテーマに関する史料までを含めた準備報告(1) 12. 選択したテーマに関する史料までを含めた準備報告(2) 13. 夏期休暇中の課題の確認</p>			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容・態度(70点)、卒論準備レポート(30点)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53168 [LHH3-039]

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の構成を固める	演習	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 各自の選択した卒業論文のテーマにもとづいた、専門性の高い口頭報告と質疑応答を行うことができるようになる。また卒業論文の仮題目を定め、構成の概要を決定することができるようになる。</p> <p>[授業概要] 卒業論文の作成にむけて、各自の選択したテーマにもとづく口頭発表を中心に演習を行う。卒業論文の制作にそなえた密度の高い発表をするとともに、他の受講生の発表の際にも積極的な質疑応答を行うこと。授業終盤では卒業論文の第1稿の提出に向けた指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教員の指示にしたがって、受講生はそれぞれのテーマに則した予備学習を行って発表に臨むこと。発表後は、教員の指導とゼミメンバーによる質疑応答をふまえて、manaba上に課題を再提出することで復習とする。(各回予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに スケジュールの確認 各自のテーマ報告 2. 口頭発表(1)テーマの確定 3. 口頭発表(2)先行研究 4. 口頭発表(3)史資料 5. 口頭報告(4)構成の再検討 6. 博物館・美術館での学外授業もしくは学内での史資料研究 7. 口頭発表(5)研究史を書く 8. 口頭発表(6)「問い」を立てる 9. 口頭発表(7)学術論文のルール 10. 口頭報告(8)オリジナリティを主張する 11. 卒業論文執筆講座・演習(1)「はじめに」で書くべきこと 12. 卒業論文執筆講座・演習(2)卒論の構成 13. おわりに 休暇中の課題について 			

科目名	史学演習Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の構成を固める	演習	
担当者	吉村 真美		

[成績評価方法]

授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 授業中課題を含む授業態度(20%)、発表課題(40%)、レポート(40%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の作成に向けて2	演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文の作成を通して、歴史研究の方法を身につけるとともに、歴史学という学問とは何かを理解する。</p> <p>[授業概要] この授業は、受講生の発表形式により、卒業論文の作成指導を行うものである。授業は、【第一段階】受講生各自が、夏休み中の史料収集をふまえ、卒論の章節構成を報告する(一回目報告)、【第二段階】受講生各自が、一回目報告を修正する形で、卒論の章節構成を報告する(二回目報告)、【第三段階】受講生各自が、二回目報告を修正する形で、卒論の章節構成を報告する(三回目報告)の順で進める。受講生は、11月頃より卒論の下書きの執筆に取りかかり、1月に完成させて提出する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 報告担当者は、レジュメを作成し、当日の報告に備える。報告担当者以外の受講生も、いつでも自身の研究の進捗状況を説明できるようにしておくこと。</p> <p>[授業計画] 1.授業の進め方 2.卒論構想についての報告(一回目報告)1 3.卒論構想についての報告(一回目報告)2 4.卒論構想についての報告(一回目報告)3 5.卒論構想についての報告(一回目報告)4 6.卒論構想についての報告(二回目報告)1 7.卒論構想についての報告(二回目報告)2 8.卒論構想についての報告(二回目報告)3 9.卒論構想についての報告(二回目報告)4 10.卒論構想についての報告(三回目報告)1 11.卒論構想についての報告(三回目報告)2 12.卒論構想についての報告(三回目報告)3 13.卒論構想についての報告(三回目報告)4</p>			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文の作成に向けて2	演習	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] 各自の報告内容100%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53180 [LHH3-040]

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文を仕上げる	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 問題関心に対応した構成と論理展開を持つ卒論を完成させる。</p> <p>[授業概要] 準備レポート(B)をもとに、その論理構成を確認し、かつその根拠となる史料の解釈を含めた報告を行う。その際、各自の問題関心にふさわしい章立てと論理展開が行われているかを自らチェックし、学術論文としての形式にも留意できるように指導し、仕上げをめざす。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 準備レポート(B)についての課題をふまえ、授業計画の諸段階に対応した内容の充実をはかる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 準備レポート(B)に基づく課題設定 2. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(1) 3. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(2) 4. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(3) 5. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(4) 6. 第3回準備報告 関連論文と重点史料の検討および問題点の解明(5) 7. 史料の解釈(1) 8. 史料の解釈(2) 9. 史料の解釈(3) 10. 論理展開の充実に向けて(1) 11. 論理展開の充実に向けて(2) 12. 引用データの再点検 13. 課題の設定 			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文を仕上げる	演習	
担当者	関 周一		

[成績評価方法]

授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

卒業論文を仕上げるため、下書きを提出させ、そのコメントに対応させるとともに、自ら論旨を確認するなどの見直し作業が進められるように指導する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 授業の準備状況、提出レジュメ、報告、質疑応答

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

書籍名:増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名:秋山哲雄・田中大 喜・野口華世編 出版社名:勉誠出版 ISBN:9784585222804

書籍名:歴史学で卒業論文を書くために 著者名:村上紀夫 出版社名:創元社 ISBN:9784422800417

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	論文作成の実践	演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒論の作成をとおして課題解決の作業の道筋を体得することを、この演習の到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 夏休み中の学習成果をもとに論文のアウトラインを作成することから始め、各自の論文の構想を順番に発表してもらい、その後、各自の執筆段階に応じて、個別の指導をおこなう。テーマに即した資料を集めて分析し、筋道を立てた論証をおこなうことが、そのポイントである。卒論の作成をとおして課題解決の作業の道筋を体得することを旨として、演習を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に指示した関連文献を読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文のアウトラインの作成(1) 2. 論文のアウトラインの作成(2) 3. 個人発表(1) 4. 個人発表(2) 5. 個人発表(3) 6. 個人発表(4) 7. 個人発表(5) 8. 論文執筆指導(1) 9. 論文執筆指導(2) 10. 論文執筆指導(3) 11. 論文執筆指導(4) 12. 論文執筆指導(5) 13. 論文執筆を振り返って 			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	論文作成の実践	演習	
担当者	川森 博司		
<p>[成績評価方法] 学習態度 (50%)、発表内容 (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-1 / 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-2 / 幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-3 / 課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-4 / 読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-5 / 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-1 / 演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 学習態度</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-2 / 多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-3 / 演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 学習態度</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S53182 [LHH3-040]

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文指導(2)	演習	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文の執筆を通して、表現力を磨くとともに歴史研究の意義を理解する。</p> <p>[授業概要] それぞれの研究発表を継続しながら、卒業論文の執筆を進める。原稿については適宜個別に指導をおこなう。論文の書き方、註のつけ方など細部にわたる指導も同時におこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各回、予習復習合わせて2時間程度。卒業論文構想をもとに、研究書や論文の読解を進め、史料批判を深化させる。原稿を何度も読み返し論理的な文章を完成させることにつとめる。</p> <p>[授業計画] 1. 論文の執筆作法 2. 史料報告と読解(1) 3. 史料報告と読解(2) 4. 史料報告と読解(3) 5. 史料報告と読解(4) 6. 史料報告と読解(5) 7. 研究報告と討論(1) 8. 研究報告と討論(2) 9. 研究報告と討論(3) 10. 研究報告と討論(4) 11. 研究報告と討論(5) 12. 執筆原稿の推敲(1) 13. 執筆原稿の推敲(2)</p>			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文指導(2)	演習	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 授業への取り組み(30%) + レポート(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53183 [LHH3-040]

科目名	史学演習Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル	資料の分析→その結果が物語る人類活動の復原へ	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①読む(他者が主張したいことを的確に、漏らさず読み取る)力を使いこなす ②話す(インプットした情報を加工し、他者に的確に伝える)力を使いこなす ③書く(考えを筋道立てて説明する)力を使いこなす ④内容を磨きあげ、卒業論文を完成させる</p> <p>[授業概要]</p> <p>史学科における4年間の研鑽の集大成として提出するものが、卒業論文である。卒業「レポート」ではなく、卒業「論文」である以上、学術論文の体裁をそなえていなければならないことは言うまでもない。前期の史学演習Ⅳと、この史学演習Ⅴを通じて「学術論文とは何か」を体得し、自らの手で作り上げる。両演習での練磨をベースに、渾身の一作を提出してほしい。</p> <p>卒業論文は、テーマと問題を自らみつけ、解決の方法を自ら選択し、答えを自らの手で導き出すというプロセスを通して完成に到る。史学演習Ⅴの期間は、資料の何に注目し、何がわかったのか、その結果はどのような歴史の一面を物語っているのかを発表してもらおう。フィードバックを得て一層の磨きをかけ、結論への到達をめざす。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>卒業論文は、授業時間だけで書き上げるものではない。ペース配分を計算しつつ、限られた時間を上手に使う、着実に進めてほしい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分析の方法と結果に関する発表(1) 2. 分析の方法と結果に関する発表(1) 3. 分析の方法と結果に関する発表(1) 4. 分析の方法と結果に関する発表(2) 5. 分析の方法と結果に関する発表(2) 6. 分析の方法と結果に関する発表(2) 7. 分析の方法と結果に関する発表(予備回) 8. 考察に関する発表(1) 9. 考察に関する発表(1) 10. 考察に関する発表(1の予備回) 11. 考察に関する発表(2) 12. 考察に関する発表(2) 13. 結論と展望 			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	資料の分析→その結果が物語る人類活動の復原へ	演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] 口頭発表の内容 (50%)、卒業論文に対する取り組み姿勢 (50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 口頭発表の内容、取り組み姿勢</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文作成の実際	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒論を作成することが最大の目標である。その際には、史料をもとに論証できているか、的確な研究整理と批判ができているか、の2点が肝要となる。</p> <p>[授業概要] 前期に引き続いて、卒論作成に向けた演習を行う。Vは後期開講科目なので、到達目標は、オリジナリティと手堅い論証に裏づけられた卒業論文を完成させることである。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日本近現代史の広い視野と正確な史料読解能力を養成しておくことが準備学修として大切である。</p> <p>[授業計画] 1. 夏休み中の成果の確認 2. 卒論に向けた方向性の確認 3. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第一次発表) 4. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第一次発表) 5. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第一次発表) 6. 中間的な質疑応答 7. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第二次発表) 8. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第二次発表) 9. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第二次発表) 10. 卒論の執筆と推敲 i 11. 卒論の執筆と推敲 ii 12. 卒論の執筆と推敲 iii 13. 卒論の執筆と提出</p>			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文作成の実際	演習	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 受講状況 (50%)、発表内容 (50%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバック。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-1 / 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-2 / 幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-3 / 課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-4 / 読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-5 / 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-1 / 演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-2 / 多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学3-3 / 演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 論理的思考力 / 筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 計画・実行力 / 課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講状況及び発表内容</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S53187 [LHH3-040]

科目名	史学演習Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 前期の授業の成果をさらに発展させ、卒業論文を完成させる。</p> <p>[授業概要] 受講者各自の論文の構想と進捗状況を輪番で報告し、受講者全員で問題点などを検討する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の卒論の方向性について、指導教員と相談しながら、つねに検討・確認をおこなっておく。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 卒論の構想・進捗状況の発表(1) 3. 卒論の構想・進捗状況の発表(2) 4. 卒論の構想・進捗状況の発表(3) 5. 卒論の構想・進捗状況の発表(4) 6. 卒論の構想・進捗状況の発表(5) 7. 卒論の構想・進捗状況の発表(6) 8. 卒論の構想・進捗状況の発表(7) 9. 論文執筆の指導(1) 10. 論文執筆の指導(2) 11. 論文執筆の指導(3) 12. 論文執筆の指導(4) 13. まとめ</p>			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 報告・質疑の内容および受講態度を総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文を執筆する	演習	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>各自のテーマを掘り下げ、専門性の高い卒業論文を完成させることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>各自が選択したテーマについて卒業論文の制作を進める。授業時間外の課題としても取り組んだ原稿を事前に提出したうえで、授業時には個別の原稿への具体的な指導を行う。卒業論文の提出後は、口頭試問にむけての指導を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>教員の指示にしたがって、各回の課題として卒業論文の制作を予習として進め、授業における指導に先立って必ず事前提出する。授業後は復習として指導の内容を反映させておくこと。(各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに スケジュールの確認 2. 卒論の構成(1)最終版構成表の作成 3. 卒論の構成(2)全体構成の確認 4. 個別指導(1)研究史 5. 個別指導(2)問題提起 6. 個別指導(3)章立て 7. 個別指導(4)史資料 8. 個別指導(5)論文の文法 9. 個別指導(6)西洋史の日本語論文 10. 個別指導(7)註表記 11. 個別指導(8)体裁と仕上げ 12. 卒論提出に際しての諸注意 13. 提出後指導 口頭試問にむけて 			

科目名	史学演習 V	後期	2 単位
サブタイトル	卒業論文を執筆する	演習	
担当者	吉村 真美		

[成績評価方法]
授業態度 (50%)、課題 (50%)

[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法]
基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。

[オフィスアワー (質問等の受付方法)]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法: 授業態度 (50%)、課題 (50%)

[教科書 (ISBN)]

[参考書 (ISBN)]

科目名	自然地理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	村田 恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 地球の表面の地形・海洋・気候の概要とその成因を理解する。</p> <p>[授業概要] 地球表層の地形・海洋・気候の概要とその成因をとらえる。様々な営力によって形成される地形とその特徴を理解し、大気の大循環や海流を通して気候を総合的にとらえる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回配布される次回のプリントを読み、おおまかな内容を予習し、疑問点を明確にしておく。 授業後は、テキストとノートで十分復習をすること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地球の形状、緯度と経度、標準時 2.地球儀と地図 3.地球の大地形と地形をつくる力 4.変動帯の地形 5.安定大陸の地形 6.海岸と海にみられる地形 7.気候の影響が強い地形とカルスト地形 8.自然災害(地震と津波、火山) 9.地形図の読み取り 10.世界の気候(気候と大気の大循環) 11.世界の気候(熱帯・乾燥帯・温帯) 12.世界の気候(冷帯・寒帯) 13.まとめ 			

科目名	自然地理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	村田 恵子		
<p>[成績評価方法] 課題(10%)・試験(90%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題については、授業で解説する。 試験については、答案を回収後、希望者には解答の解説をする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54070 [LHH2-021]

科目名	自然地理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	村田 恵子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 地球の表面の地形・海洋・気候の概要とその成因を理解する。</p> <p>[授業概要] 地球表層の地形・海洋・気候の概要とその成因をとらえる。様々な営力によって形成される地形とその特徴を理解し、大気の大循環や海流を通して気候を総合的にとらえる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回配布される次回のプリントを読み、おおまかな内容を予習し、疑問点を明確にしておく。 授業後は、テキストとノートで十分復習をすること。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地球の形状、緯度と経度、標準時 2.地球儀と地図 3.地球の大地形と地形をつくる力 4.変動帯の地形 5.安定大陸の地形 6.海岸と海にみられる地形 7.気候の影響が強い地形とカルスト地形 8.自然災害(地震と津波、火山) 9.地形図の読み取り 10.世界の気候(気候と大気の大循環) 11.世界の気候(熱帯・乾燥帯・温帯) 12.世界の気候(冷帯・寒帯) 13.まとめ 			

科目名	自然地理学	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	村田 恵子		
<p>[成績評価方法] 課題(10%)・試験(90%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題については、授業で解説する。 試験については、答案を回収後、希望者には解答の解説をする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題・試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54070F [LHH2-021]

科目名	社会科・公民科指導法 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	藤原 健剛			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート			グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	
その他			実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領に示された社会科・公民科の目標や内容を理解し、実践できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会科・公民科の歴史の変遷が理解できる。 2 現代社会の諸問題について、情報を整理し分析する力が身につく。 3 学習指導要領における社会科・公民科の目標及び主な内容並びに全体構造が理解できる。 4 授業計画及び学習指導案の作成ができる。 5 授業実践におけるICT活用を含めた基本的な技能を身につけることができる。 <p>[授業概要]</p> <p>授業の概要 講義により学習指導要領における社会科・公民科の目標、内容等の全体構造が理解できるようにする。また、授業計画及び学習指導案の作成を指導する。その際、ICT活用の有用性を理解させるとともに教材の作成・活用技術を指導する。授業においては課題提出とそのフィードバックにより内容の定着を図る。後半には基礎演習を実施し、模擬授業をもとにしたディスカッション(意見交換や分析)及び評価をおこなう。毎時、授業内容に関する質問の時間を設けるとともにメールでも質問に応じ、疑問点を積み残さないようにする。高校・大学での教職経験を活かして指導します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前に授業用資料を送付するので授業までに目を通して、質問事項を考えておいてください。課題がある場合は、指定した締切りに間に合うように作成して、KISSシステムを通じて提出してください。平均して各回の授業について4時間程度の予習・復習を行うこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>授業計画(105分×13週)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(社会科・公民科の目標及び内容、授業の目的、内容、方法及び評価) 2. 社会科・公民科の歴史の変遷について(1947年まで) 3. 社会科・公民科の歴史の変遷について(1947年から) 4. 現在の教育改革と学習指導要領について 5. 授業計画・学習指導案(ICT活用、学習評価の考え方を含む)の作成と授業における留意点 6. 教材研究の意義と方法及び授業の方法(パワーポイントの作成を含む) 7. ICT機器の基本的操作と授業における利用について(デジタル教科書、NHK for School等) 8. 学習指導要領解説社会編・公民編の内容と「主体的・対話的で深い学び」について 9. 基礎演習(模擬授業:意見交換及び分析と評価)(中学校公民的分野)政治・経済 10. 基礎演習(模擬授業:意見交換及び分析と評価)(中学校公民的分野)国際社会 11. 基礎演習(模擬授業:意見交換及び分析と評価)(高等学校公民科)公共 12. 基礎演習(模擬授業:意見交換及び分析と評価)(高等学校公民科)倫理、政治・経済 13. 全体のまとめ、社会科・公民科の教師に期待するもの 14. 試験 				

科目名	社会科・公民科指導法 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	藤原 健剛		

[成績評価方法]

学生に対する評価

課題・レポート、学習指導案、模擬授業の評価、発表等授業参加度（以上40%）、定期試験（60%）を総合的に判断して評価します。ただし、出席回数が9回に満たなかった場合、または模擬授業を行わなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は「不可」とする。

[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜 manaba・KISS システムを通じて行います。

[オフィスアワー（質問等の受付方法）]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 上記成績評価方法に準ずる。

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 上記成績評価方法に準ずる。

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 上記成績評価方法に準ずる。

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 上記成績評価方法に準ずる。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記成績評価方法に準ずる。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 上記成績評価方法に準ずる。

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記成績評価方法に準ずる。

[教科書 (ISBN)]

書籍名: 中学社会 公民 ともに生きる 著者名: 成田喜一郎 他 出版社名: 教育出版 ISBN: 978-4-316-20437-6

書籍名: 私たちの公共 著者名: 大芝亮 橋本康弘 他 出版社名: 清水書院 ISBN: 978-4-389-60044-0

書籍名: 高等学校 新倫理 著者名: 菅野寛明 他 出版社名: 清水書院 ISBN: 978-4-389-60046-4

書籍名: 高等学校 政治・経済 著者名: 中野勝郎 他 出版社名: 清水書院 ISBN: 978-4-389-60047-1

書籍名: 中学校学習指導要領 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 978-4-8278-1558-0

書籍名: 高等学校学習指導要領 著者名: 文部科学省 出版社名: 東山書房 ISBN: 978-4-8278-1567-2

書籍名: 中学校学習指導要領解説 社会編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東洋館出版社 ISBN: 978-4-491-03471-3

書籍名: 高等学校学習指導要領解説 公民編 著者名: 文部科学省 出版社名: 東京書籍 ISBN: 978-4-487-28633-1

[参考書 (ISBN)]

科目名	社会科指導法 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	中阪 守			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業		
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク		○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク		○
その他		実務経験のある教員による授業		
<p>[到達目標] 中学校学習指導要領についての理解を深め、情報通信機器等の活用を含めた生徒の思考・判断・表現の育成につながる社会科教材の編成につながる中学校社会科授業を考える。</p> <p>[授業概要] この講座では、現在の中学校教育の課題や新たな学習観にも触れながら、中学校学習指導要領についての理解を深め、生徒の発達段階を踏まえた中学校社会科教育の在り方を考える。特に、広い視野に立って社会への関心を深めるための指導法や、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察するための指導法等、実践力につながる講座運営を行いたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] ・主として『学習指導要領解説 社会編』を読み、その内容をつかんでいく。 ・教育実習に行く自治体の採択教科書の出版社や内容の情報を得る。 ・自治体の教育委員会の「教育振興基本計画」その他の発行物を調べる。 ※高校へ実習に行く学生は、科目が変わり、新しい教科書が採択されている。母校から情報を得ておく。</p> <p>[授業計画] 1. 中学校教育の課題と中学校社会科の展開 2. 学校教育法規と学習指導要領 3. 学習指導要領研究 I (教科の目標と内容) 4. 学習指導要領研究 II (地理的分野の目標) 5. 学習指導要領研究 III (歴史的分野の目標) 6. 学習指導要領研究 IV (公民的分野の目標) 7. 情報機器、ICTの活用及び教材編成の実際 8. 課題学習の指導「ICTの活用、資料等の活用法」 9. 年間指導計画、学習指導案の作成 10. 授業研究〔模擬授業〕 11. フィールドワーク 12. まとめ 13. 理解度確認・解説 ※ 受講生の要望と受講者数を勘案して、講義内容を変更することがある。</p>				

科目名	社会科指導法 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	中阪 守		
<p>[成績評価方法] ・授業内作業、活動(20%)・提出課題の評価(20%)・授業内試験の評価(60%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業内での解説を基本とする レポートは授業での確認後返却 毎時の「授業振り返りシート」は添削、助言を添え、次時の授業でフィードバック</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:課題レポートの記述内容をもとに評価 毎時の「授業振り返りシート」の記述内容をもとに評価 授業内試験をもとに評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:課題レポートの記述内容をもとに評価 毎時の「授業振り返りシート」の記述内容をもとに評価 授業内試験をもとに評価</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:課題レポートの記述内容をもとに評価 毎時の「授業振り返りシート」の記述内容をもとに評価 授業内試験をもとに評価</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する姿勢・意志 成績評価方法:授業時の課題への対応、グループワークでの意見交換、自分の考えの発表などの取り組み状況から判断</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する姿勢・意志 成績評価方法:授業時の課題への対応、グループワークでの意見交換、自分の考えの発表などの取り組み状況から判断</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る姿勢・意志 成績評価方法:授業時の課題への対応、グループワークでの意見交換、自分の考えの発表などの取り組み状況から判断</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業時の課題への対応、グループワークでの意見交換、自分の考えの発表などの取り組み状況から判断</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 著者名:文部科学省 出版社名:東洋館出版社 ISBN: 書籍名:新版 学校を改革する 著者名:佐藤 学 出版社名:岩波書店 岩波ブックレットNo.1078 ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54130 [LHH3-045]

科目名	宗教思想史Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	鎌倉時代における仏教の新潮流と抑圧	講義	
担当者	島津 毅		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>仏教とは何かを知り、それがどのようにして日本の仏教として受容されていったのかを理解する。なかならず今に至る仏教を形成した鎌倉時代に注目し、鎌倉時代のいわゆる新仏教がどのような苦闘を越えて確立されてきたのかを理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>今に至る日本の仏教宗派の原型ともいべきものが鎌倉時代に誕生する。そして今も信仰を集め、私たちの生活や行動にも影響を与えている。こうした鎌倉仏教がどのようにして誕生したのか。このことを仏教が誕生したインドから立ち返って考え、本講では特に法然と日蓮をとりあげる。具体的には以下のような内容である。</p> <p>① 仏教とは何か、そして本来、仏教が目指したものは何であったのか。 ② 仏教がどのようにして日本にもたらされ、受容されたのか。 ③ 鎌倉新仏教と呼ばれていた仏教の新たな潮流は、どのようにして起こり、社会に受容されたのか。 ④ その後、近世仏教へとどう展開していくのか。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回配布される次回レジュメ資料を読み、大まかな内容を理解し質問事項を考えておく。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教とは、釈尊とは 2. 釈尊の教えとインド仏教 3. 仏教の中国伝播と日本での受容 4. 平安時代の顕密仏教 5. 鎌倉時代における仏教の新潮流 6. 法然とその教理 7. 法然と門弟等の受難 8. その後の法然門弟と教理の変質 9. 日蓮とその教理 10. 『立正安国論』と日蓮 11. 鎌倉念仏僧との相論と日蓮の受難 12. 鎌倉(新)仏教のその後と歴史的意義 13. 総まとめ 			

科目名	宗教思想史Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	鎌倉時代における仏教の新潮流と抑圧	講義	
担当者	島津 毅		
<p>[成績評価方法] 受講態度(毎回の小テストを含む)40%・期末試験60%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 小テストと期末試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 講義中の質疑応答と期末試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 小テストと期末試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 小テストと期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 小テストと期末試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 小テストと期末試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:特にありません。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:各回の講義レジメに参考書や参考文献を記載しています。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

S52260 [LHH3-030]

科目名	女性史 I	前期	2 単位
サブタイトル	日本史学における女性史	講義	
担当者	松下 孝昭、山内 晋次、関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本史学研究上における女性の位置づけを学ぶことにより、女性史をめぐる多角的な視点と最新の論点を修得する。</p> <p>[授業概要] 日本史学界における最新の研究成果にもとづき、3人の教員がオムニバス形式で講義を担当する。時代を遡る形で近代・中世・古代の順で講義をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各担当教員の初回授業時の指示にしたがっておこなう。</p> <p>[授業計画]</p> <p>【日本近代史の立場から】(松下孝昭)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 明治期の女性の地位 2. 平塚らいてうと『青鞜』 3. 大正期の女性をめぐる諸問題 4. 近代女性史の小括 <p>【日本中世史の立場から】(関周一)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 王家・公家の女性 6. 武家の女性 7. 女性の芸能民・職人 8. 異国の人々が見た女性・ジェンダー <p>【日本古代史の立場から】(山内晋次)</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 戸籍からみた日本の古代社会(1) 10. 戸籍からみた日本の古代社会(2) 11. 日本古代の社会と女帝(1) 12. 日本古代の社会と女帝(2) 13. 日本古代史の立場からのまとめ 			

科目名	女性史Ⅰ	前期	2単位
サブタイトル	日本史学における女性史	講義	
担当者	松下 孝昭、山内 晋次、関 周一		

[成績評価方法]

各担当教員が提示する課題に対する成績(30% × 3 = 90%)と平常点(10%)を総合して評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業・メール・manabaなどを通じておこなう。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	女性史 I	前期	2 単位
サブタイトル	日本史学における女性史	講義	
担当者	松下 孝昭、山内 晋次、関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本史学研究上における女性の位置を学ぶことにより、女性史をめぐる多角的な視点と最新の論点を習得する。</p> <p>[授業概要] 日本史学界における最新の研究成果にもとづき、3人の教員がオムニバス形式で講義を担当する。時代を遡る形で、近代・中世・古代の順で講義をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 各担当教員の初回授業時の指示にしたがっておこなう。</p> <p>[授業計画]</p> <p>【日本近代史の立場から】(松下孝昭)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 明治期の女性の地位 2. 平塚らいてうと『青鞜』 3. 大正期の女性をめぐる諸問題 4. 近代女性史の小括 <p>【日本中世史の立場から】(関周一)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 王家・公家の女性 6. 武家の女性 7. 女性の芸能民・職人 8. 異国の人々が見た女性・ジェンダー <p>【日本古代史の立場から】(山内晋次)</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 戸籍からみた日本の古代社会(1) 10. 戸籍からみた日本の古代社会(2) 11. 日本古代の社会と女帝(1) 12. 日本古代の社会と女帝(2) 13. 日本古代史の立場からのまとめ 			

科目名	女性史 I	前期	2 単位
サブタイトル	日本史学における女性史	講義	
担当者	松下 孝昭、山内 晋次、関 周一		

[成績評価方法]

各担当教員が提示する課題に対する成績(90%)と平常点(10%)を総合して評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業・メール・manabaなどを通じておこなう。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 各教員が課す試験又はレポート

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	資料保存論	後期	2 単位
サブタイトル	人文学的・自然科学的な資料の保存と取扱い	講義	
担当者	秋山 浩三、菱田 淳子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①ともに学芸員資格が必要である、博物館学芸員および文化財専門職の業務遂行にあたり必須となる、各種資料の取り扱いや保管・保存における基礎的な知識・技術を学び身につける。</p> <p>②博物館や文化財保管展示施設における、資料の劣化を予測するための科学的調査法、保存修理の考え方や原理とその手法、および保存環境に関する知識などを習得して、各種資料を健全な状態で保管するための基礎的能力を養う。</p> <p>[授業概要]</p> <p>学芸員の経験を有する教員が、博物館や文化財保管展示施設における、資料の保存に関する基礎的な情報・スキル、とりわけ近年注目され展開されている項目をめぐって具体的な概説を実施する。</p> <p>さらに、学芸員や文化財専門職に必要な、資料の保存に関する保存科学の基礎知識を習得するため、資料の劣化と診断調査から、その修理と予防のための環境について論じる。</p> <p>なお、近年では、博物館にかぎらず各種の文化財保管展示施設においても、資料保存に関する専門的で高度なノウハウを必要とする専門職領域が増加している傾向にあるため、それらにも十分かつ具体的に対応できる講義内容にしたいと考えている。</p> <p>また、本講義では博物館・文化財関連施設における現地研修もおこなう予定である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各種の博物館などへ積極的に赴き、その館・施設では資料の保存(劣化防止)や修復・復原に関しどのような取り組みがなされているか、自主的に観覧しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目の概要とガイダンス (学芸員・文化財専門職員における資料保存の役割／あなたのお気に入り博物館ではどうか？)(秋山) 2. 資料保存論の位置づけとその歴史性(意外にも見直されている日本の伝統)(秋山) 3. 発掘調査における資料保存(調査時の記録、脆弱遺物の取り上げ、断面剥ぎ取り)(菱田) 4. 出土品整理作業と資料保存 (調査記録、写真データ、土器・石器・脆弱遺物等の調査後の保管と整理作業)(菱田) 5. 木製品の診断調査・記録・保存(実測、写真撮影、保存処理作業)(菱田) 6. 金属製品の診断調査・記録・保存(実測、写真撮影、保存処理作業)(菱田) 7. 文化財関係機関における資料保存・展示時の注意(博物館との相違と問題点など)(菱田) 8. 施設見学①: 兵庫県立考古博物館における保存処理施設・出土品資料の見学(菱田) 9. 施設見学②: 兵庫県立考古博物館における保存処理施設・出土品資料の見学(菱田) 10. 資料保存管理の留意点と劣化対策(何がダメで、何が良いか)(秋山) 11. 資料の予防的保存とIPM(とても気持ち悪い虫との対決も)(秋山) 12. 阪神淡路・東日本大震災と博物館資料の保存(神戸で培われた思想)(秋山) 13. 課題レポート寸評／講義総括／そして、あなたが学芸員・文化財専門職員になったら！(秋山) <p>※8・9＝学外での現地研修(土曜日または日曜日の予定): 詳細に関してはできるだけ早い段階に日時・内容等々をアナウンスする予定。</p>			

科目名	資料保存論	後期	2 単位
サブタイトル	人文的・自然科学的な資料の保存と取扱い	講義	
担当者	秋山 浩三、菱田 淳子		
<p>[成績評価方法] 秋山分: 講義中の態度 (25%)、討論参加の積極性 (35%)、課題レポート(40%) 菱田分: 講義中の態度 (25%)、討論参加の積極性 (25%)、課題レポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業最終日において、提出された課題レポートに関する評価コメントを実施する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/ 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業内の討論における積極性とその内容により評価</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/ 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 課題レポートおよび授業内討論の具体的内容における正確性により評価</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 責任感/ 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業時における受講態度、および、自己客観視の到達度により評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 表現力/ 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業時における討論参加への積極性と、その場面での発言内容の正確性により評価</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/ 資質・能力等の内容: 問題発見力/ 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 課題レポートにおける問題設定・把握とその解決方向への模索の到達度により評価</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: 新時代の博物館学 著者名: 全国大学博物館学講座協議会西日本部会/ 編 出版社名: 芙蓉書房出版 ISBN: 9784829505519</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S54030 [LHI3-003]

科目名	人文地理学	前期	2 単位
サブタイトル	人文地理学から見た京阪神都市	講義	
担当者	山口 覚		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	毎回、授業内容に関する課題(レポート作成)を課し、理解度の確認し、疑問点などについて発言で応答する。	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 京阪神の都市を対象に、歴史地理学、工業地理学、都市地理学、都市社会地理学といった人文地理学の諸分野の対象やその見方について理解する。</p> <p>[授業概要] 地理学は人文・自然の2つの分野に大別される。本講義では、身近な地域である京阪神を事例として取り上げつつ、人文地理学の諸分野について触れる。具体的には都市の歴史地理学から始め、近代工業の登場とそれによる近代都市の拡張、脱工業化にともなう現代都市の変貌など都市地理学、都市社会地理学などについて扱う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 京阪神という比較的身近な対象地に関するテキストを利用するため、可能であれば現地の状況を確認するなどして、地理学的な理解を深めてもらいたい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 歴史地理学・城下町 3. 都市地理学(近代都市1)・近代都市の成長と郊外化 4. 都市地理学(近代都市2)・郊外住宅地とニュータウン 5. 都市地理学(現代都市1)・脱工業化と東京一極集中 6. 工業地理学・松下電器からパナソニックへ 7. 都市地理学(現代都市2)・阪急不動産の空間戦略 8. 都市地理学(現代都市3)・都市景観の変容:建築様式の変遷 9. 都市地理学(現代都市4)・都心回帰とタワーマンション 10. 都市社会地理学(1)・移動する人々と都市社会 11. 都市社会地理学(2)・在日コリアンと集住地区 12. 都市社会地理学(3)・老華僑の町・新華僑の町 13. まとめ・まとめについての解説 			

科目名	人文地理学	前期	2 単位
サブタイトル	人文地理学から見た京阪神都市	講義	
担当者	山口 覚		
<p>[成績評価方法] 理解度確認試験(80%)、毎回のコメント用紙(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質問については次回の講義の際に触れる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 図説 京阪神の地理 著者名: 山口 覚 出版社名: ミネルヴァ書房 ISBN: 9784623084845</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54060 [LHH2-020]

科目名	西洋近現代史	後期	2 単位
サブタイトル	「現代世界」の成り立ち	講義	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 西洋近現代史における諸問題と、近年の研究におけるその論点を学んで理解し、現代世界の成り立ちとの関連を含め、自身の見解を示すことができるようになる。</p> <p>[授業概要] この講義では、大航海時代以降のヨーロッパ大陸とアジアや新世界との関係や、国民国家の建設、工業化とその影響、帝国主義と諸国の動向など、西洋近現代史における重要なテーマをとりあげ、近年の研究成果に触れつつ概観する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] manabaおよびKISSに提示された資料にもとづき、予習と前回の復習をしておくこと。(予習・復習合わせて4時間程度)西洋近現代史にかんする基礎的な知識、講義の際に言及した人名・歴史用語などについて理解が不足している場合は、提示する参考文献などを手掛かりに各自で学習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 西洋近現代史を学ぶ意義 2. 大航海時代 3. 近代世界システム論 4. 宗教改革 5. 絶対主義 6. 「イギリス革命」 7. アメリカ独立革命 8. フランス革命 9. 工業化とその影響 10. 近代社会の定着と再編 11. 帝国主義 12. 二つの世界大戦と戦後 13. まとめ 欧州統合のゆくえ 			

科目名	西洋近現代史	後期	2 単位
サブタイトル	「現代世界」の成り立ち	講義	
担当者	吉村 真美		
<p>[成績評価方法] 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S50070 [LHH1-007]

科目名	西洋古代中世史	前期	2 単位
サブタイトル	古代地中海世界の展開と中世西欧世界の形成	講義	
担当者	上山 益己		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 古代地中海世界の中から、どのように西ヨーロッパ世界が形成されていったのかを理解する。 古代～中世の西ヨーロッパとその周辺世界(東ヨーロッパ、西アジア、北アフリカ)との関係について理解を深める。</p> <p>[授業概要] ヨーロッパの古代・中世史について、基礎的な知識を確認するとともに、より専門的な理解を深める。古代史では、ギリシアとローマの歴史の把握に重点を置きつつ、地中海を挟んでそれらと隣接する、西アジアや北アフリカの歴史にも目を配って、古代地中海世界全体の歴史の理解を促す。中世史では、古代地中海世界が解体していく中で、どのように西ヨーロッパのラテン・カトリック世界が形成され、さらにその中から今日のヨーロッパ諸国につながる国々が立ち現れていったかを見て行きたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業時配布したプリント・史料などを再読し、復習すること。90分</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに 古代地中海世界についての概観 紀元前1200年のカタストロフ ギリシアとペルシア 西地中海域の動乱 パックス・ロマーナ ローマ帝国の崩壊 イスラームの登場 カロリング帝国の成立 混乱の西ヨーロッパ 西欧中世諸国家の成立 西欧中世諸国家の展開 まとめ 			

科目名	西洋古代中世史	前期	2 単位
サブタイトル	古代地中海世界の展開と中世西欧世界の形成	講義	
担当者	上山 益己		
<p>[成績評価方法] 試験90% 受講態度10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S50060 [LHH1-006]

科目名	西洋古代中世史	前期	2 単位
サブタイトル	古代地中海世界の展開と中世西欧世界の形成	講義	
担当者	上山 益己		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>古代地中海世界の中から、どのように西ヨーロッパ世界が形成されていったのかを理解する。 古代～中世の西ヨーロッパとその周辺世界(東ヨーロッパ、西アジア、北アフリカ)との関係について理解を深める。</p> <p>[授業概要]</p> <p>ヨーロッパの古代・中世史について、基礎的な知識を確認するとともに、より専門的な理解を深める。古代史では、ギリシアとローマの歴史の把握に重点を置きつつ、地中海を挟んでそれらと隣接する、西アジアや北アフリカの歴史にも目を配って、古代地中海世界全体の歴史の理解を促す。中世史では、古代地中海世界が解体していく中で、どのように西ヨーロッパのラテン・カトリック世界が形成され、さらにその中から今日のヨーロッパ諸国につながる国々が立ち現れていったかを見て行きたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業時配布したプリント・史料などを再読し、復習すること。90分</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 古代地中海世界についての概観 3. 紀元前1200年のカタストロフ 4. ギリシアとペルシア 5. 西地中海域の動乱 6. パックス・ロマーナ 7. ローマ帝国の崩壊 8. イスラームの登場 9. カロリング帝国の成立 10. 混乱の西ヨーロッパ 11. 西欧中世諸国家の成立 12. 西欧中世諸国家の展開 13. まとめ 			

科目名	西洋古代中世史	前期	2 単位
サブタイトル	古代地中海世界の展開と中世西欧世界の形成	講義	
担当者	上山 益己		
<p>[成績評価方法] 試験90% 受講態度10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S50060F [LHH1-006]

科目名	西洋史特殊講義Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	上山 益己		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 中世におけるヨーロッパとイスラーム世界の歴史の基礎的な知識を確認する。そのうえで、両者の接触の歴史について理解を深める。またそうすることで、現代の世界を見る上でも多角的な視点を持ち得るようにしたい。</p> <p>[授業概要] 今日の世界では、しばしばイスラーム文化圏に属する人々と欧米の文化圏に属する人々の間で摩擦・衝突が起き、それが大きな問題となっている。歴史上、両文化圏が初めて接触した中世においても、両者はしばしば衝突した。しかし中世における両者の接触は、必ずしも衝突ばかりではなく、実り多い交流の歴史をも展開させた。本講義では、中世における両者の接触のあり方を考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回の授業時配布したプリント・史料などを再読し、復習すること。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. セム的一神教 3. イスラーム教とキリスト教 4. 十字軍の始まり 5. 第一回十字軍 6. キリスト教における暴力 7. 共存と摩擦 8. 十字軍とジハード 9. ザンギー朝のジハード 10. ヒッティーンの戦い 11. 破門十字軍 12. 聖地国家の滅亡 13. まとめ</p>			

科目名	西洋史特殊講義Ⅱ	後期	2単位
サブタイトル		講義	
担当者	上山 益己		
<p>[成績評価方法] 試験90% 受講態度10%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	西洋史特殊講義Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	近代イギリスの社会と経済	講義	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諷刺画という図像資料を歴史学の資料とすることにあたっての特徴について理解することができる。 2. 近代イギリスの政治的・経済的・社会的情勢について、国内および帝国としての視点から、ヨーロッパおよびアジアとの関係も含めて理解することができる。 3. 西洋近代史の諸問題を理解し、歴史的視座から自らの視点で考察したことを文章で表現することができるようになる。 <p>[授業概要]</p> <p>識字率の上昇による「読む大衆」の誕生をうけて、近代イギリスでは新聞や雑誌、書籍とさまざまな形態をとった出版文化が飛躍的に発達した。この授業では、個性的な風刺によって多くの読者をひきつけた1841年創刊の週刊誌『パンチ』(Punch, or the London Charivari)をとりあげ、その誌面から同時代のイギリスの政治と経済、社会の諸相を考察する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>manabaおよびKISSに提示された資料にもとづき、予習と前回の復習をしておくこと。(予習・復習合わせて4時間程度)イギリス近現代史にかんする基礎的な知識、講義の際に言及した人名・歴史用語などについて理解が不足している場合は、提示する参考文献などを手掛かりに各自で学習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに一ヴィクトリア期の出版と読者 2. 『パンチ』登場 3. 王室ファミリー 4. 女王と政治 5. 万国博覧会 6. パクス・ブリタニカ 7. プリムローズの記憶 8. 怒れる「正義」 9. 辮髪とドラゴン 10. ゲイシャとサムライ 11. 富を持つ者 12. 富を持たぬ者 13. まとめ 			

科目名	西洋史特殊講義Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	近代イギリスの社会と経済	講義	
担当者	吉村 真美		
<p>[成績評価方法] 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時のコメントおよび、manaba、KISS上での講評によって行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業中課題(10%)、理解度確認試験(90%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	西洋史料講読Ⅰ	前期	2単位
サブタイトル	『フィリップ・オーギュストの事績』講読	演習	
担当者	上山 益己		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 西洋中世史特有の概念などについて理解を深める。とくに西洋中世史特有の用語を確実に把握できるようにする。また、ラテン語の初歩的な文法も習得する。</p> <p>[授業概要] 年代記、事蹟、聖人伝、証書、手紙類など、ヨーロッパ中世史の研究に用いるさまざまな一次史料を紹介し、その英訳文を講読する。また、初歩的なラテン語文法の解説を行ったうえで、ごく簡単なラテン語史料の講読も行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分が担当している箇所はもちろん、担当していない箇所に関しても、授業の前に史料をよく読み込んでおくこと。</p> <p>[授業計画] 毎回受講者が担当部分を和訳・報告し、それらについて解説・討議を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 予備講義 3. 予備講義 4. 講読(1) 5. 講読(2) 6. 講読(3) 7. 講読(4) 8. 講読(5) 9. 講読(6) 10. 講読(7) 11. 講読(8) 12. 講読(9) 13. 講読(10)、小テスト 			

科目名	西洋史料講読Ⅰ	前期	2単位
サブタイトル	『フィリップ・オーギュストの事績』講読	演習	
担当者	上山 益己		
<p>[成績評価方法] 課題45% 受講態度15% 小テスト40%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	西洋史料講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	多様な史資料を読み解くために	演習	
担当者	吉村 真美		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

西洋近代史研究で用いられるさまざまな史資料についての基礎的な知識・技能(マニュスク립トの読解を含む)を習得し、利用できるようになる。また、近年拡充がすすむ電子化された欧文史資料についても、オンラインで利用できるようになる。

[授業概要]

学術論文や一次史料など、歴史に関連する欧文文献(英語)の講読と解説を行う。基本的にはテキストの音読と日本語訳の口頭発表に教員が解説を加える形で進める。初回授業時にテキストおよび授業進行、評価方法についての詳しい説明をする。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

授業時に指定する箇所を、manaba(プロジェクト)に提示された資料とあわせて予習と復習をしておくこと。予習は冊子形態の辞書(電子辞書の単独使用は不可)を使用し、必ず授業時に持参する。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. はじめに～授業の進行について
2. 学術論文(1)
3. 学術論文(2)
4. 人名事典、ウェブサイト(BBC)
5. 家政書・レシピ
6. センサス(1)
7. センサス(2) まとめ①
8. 王女の日記(1)
9. 王女の日記(2)
10. ウェブサイト National Archives(UK)
11. 議会文書と法令
12. 新聞・雑誌 まとめ②
13. おわりに

科目名	西洋史料講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	多様な史資料を読み解くために	演習	
担当者	吉村 真美		

[成績評価方法]

授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。

成績評価方法:授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:授業態度(60%)、小テスト(30%)、課題(10%)

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業論文の完成	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文の作成</p> <p>[授業概要] 史学演習Ⅳ・Ⅴの作成レジュメおよび口頭報告を基礎に、学術論文としての完成度を充実させることに重点を置いて指導する。そのため論文作成の諸手続きを再確認するとともに、論理的構成力を高めることに努める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 学術論文としての様式と内容の充実にも努めるため、各準備レポートの作成と課題の解決に積極的かつ真摯に取り組むよう心がける。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 論文と史料の検索 3. 研究テーマの確定(1) 4. 研究テーマの確定(2) 5. 研究テーマの確定(3) 6. 研究史の整理(1) 7. 研究史の整理(2) 8. 研究史の整理(3) 9. 史・資料の解読(1) 10. 史・資料の解読(2) 11. 史・資料の解読(3) 12. 準備レポート(A)構成案の作成(1) 13. 準備レポート(A)構成案の作成(2) 14. 準備レポート(A)の問題点と準備レポート(B)の課題設定 15. 関連論文の再検討と問題点の解明(1) 16. 関連論文の再検討と問題点の解明(2) 17. 関連論文の再検討と問題点の解明(3) 18. 目次案の検討(1) 19. 目次案の検討(2) 20. 目次案の検討(3) 21. 論理展開の検討(1) 22. 論理展開の検討(2) 23. 論理展開の検討(3) 24. 目次案の検討(4) 25. 関連論文および史・資料の再点検(1) 26. 関連論文および史・資料の再点検(2) 			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業論文の完成	演習	
担当者	関 周一		
<p>[成績評価方法] 卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 史学演習Ⅳ、Ⅴに準じる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文(研究史整理および論文の構成力・引用文献および史料の適切な処理能力・課題提示力など)および口頭試問における態度・応答内容などを総合的に判断する。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう— 著者名:秋山哲雄・田中大 喜・野口華世編 出版社名:勉誠出版 ISBN:9784585222804 書籍名:歴史学で卒業論文を書くために 著者名:村上紀夫 出版社名:創元社 ISBN:9784422800417</p>			

S59010 [LHH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] テーマに即した資料を集めて分析し、筋道を立てた論証がおこなえるようになることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 論文における議論の組み立て方に重点を置いて授業を進める。モデル論文の検討をおこなった後に、各自が選んだテーマに沿って発表してもらう。続いて、論文の下書きを進める過程で、論証の仕方、論文の文章表現等について、個人指導をおこなう。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に指示した関連文献を読んでおくこと。</p> <p>[授業計画] 1. モデル論文の検討(1) 2. モデル論文の検討(2) 3. 個人発表(1) 4. 個人発表(2) 5. 個人発表(3) 6. 個人発表(4) 7. 個人発表(5) 8. 議論の組み立て方の検討(1) 9. 議論の組み立て方の検討(2) 10. 議論の組み立て方の検討(3) 11. 個人発表(1) 12. 個人発表(2) 13. 個人発表(3) 14. 論文のアウトラインの作成(1) 15. 論文のアウトラインの作成(2) 16. 個人発表(1) 17. 個人発表(2) 18. 個人発表(3) 19. 個人発表(4) 20. 個人発表(5) 21. 論文執筆指導(1) 22. 論文執筆指導(2) 23. 論文執筆指導(3) 24. 論文執筆指導(4) 25. 論文執筆指導(5) 26. 卒論執筆を振り返って</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	川森 博司		
<p>[成績評価方法] 出来上がった卒業論文の評価を軸にして、作成のプロセスにおける努力の質の評価を加える。 (80%+20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:発表内容</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:学習態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:発表内容</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S59020 [LHH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業論文の執筆	演習	
担当者	鈴木 宏節		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

アジア史の理解を深めつつ、卒業論文の完成を目標に調査、研究報告をおこなう。同時に研究成果を報告する準備をおこなう。

[授業概要]

卒業論文を執筆するための個人指導を中心とした演習を展開する。関心の所在を明確にし、論文の構成(章立て)に沿って序論から結論にいたるまで、本文を執筆してゆく。註や文献目録、図版の作成などについても指導する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

各回、予習復習合わせて2時間程度。史料に立脚した行論になるように史料批判を展開する。論理的に論文を構成できるように随時執筆した草稿の検討をおこなう。

[授業計画]

《前期》

1. 論文の基本(1)関心の所在篇a
2. 論文の基本(2)関心の所在篇b
3. 論文の基本(3)論文の構成篇a
4. 論文の基本(4)論文の構成篇b
5. 論文の基本(5)史料批判の展開篇a
6. 論文の基本(6)史料批判の展開篇b
7. 論文の基本(7)史料批判の展開篇c
8. 論文の基本(8)史料批判の展開篇d
9. 論文の基本(9)註と文献引用篇a
10. 論文の基本(10)註と文献引用篇b
11. 論文の基本(11)註と文献引用篇c
12. 論文の基本(12)註と文献引用篇d
13. 研究成果の再検討

《後期》

1. 論文指導(1)
2. 論文指導(2)
3. 論文指導(3)
4. 論文指導(4)
5. 論文指導(5)
6. 論文指導(6)
7. 論文指導(7)
8. 論文指導(8)
9. 論文指導(9)
10. 論文指導(10)
11. 論文指導(11)
12. 論文指導(12)
13. 研究の総括と成果報告

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業論文の執筆	演習	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] 論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaを使用する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:論文の内容と口頭報告、ならびに試問の結果により総合的に評価する(100%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S59030 [LHH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] 論文の内容と口頭試問の結果により評価する(100%)。先行研究を咀嚼してオリジナリティのある確かな問題を設定できているか、問題を解決する適切な資料・方法を選択できているか、論理の展開はスムーズか、卒業論文としての体裁・書式が整っているか、の4点を評価ポイントとして重視する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 執筆期間中は、個別指導を行う。総合評価は、提出後の口頭試問でフィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 論文の内容と口頭試問の結果</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S59050 [LHH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業論文作成に向けて	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 史料に基づく論証をおこない、自分のオリジナルな論を展開した卒論を仕上げるのが目標である。</p> <p>[授業概要] 卒論は4年間の大学での勉学における総決算なので、史料の読解のノウハウ、論理展開の精度、文章表現の正確さなど、これまで学んできたすべての学力を総動員して、良いものを仕上げていくように鍛錬する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 史学演習Ⅳ・Ⅴを履修することが前提となる。</p> <p>[授業計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の問題関心の披露 2. 卒論についての心構え(講義) 3. 論文作成のノウハウについて(講義) 4. 各自が関心を持つテーマに関する発表1 5. 各自が関心を持つテーマに関する発表2 6. 各自が関心を持つテーマに関する発表3 7. 各自が関心を持つテーマに関する発表4 8. 各自が関心を持つテーマに関する発表5 9. 中間的なまとめ 10. 卒論作成に向けたさらなる研究整理1 11. 卒論作成に向けたさらなる研究整理2 12. 卒論作成に向けたさらなる研究整理3 13. まとめ(夏休み中の目標の確認) <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み中の成果の確認 2. 卒論に向けた方向性の確認 3. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第1次発表) 4. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第1次発表) 5. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第1次発表) 6. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第1次発表) 7. 中間的な質疑応答 8. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第2次発表) 9. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第2次発表) 10. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第2次発表) 11. 卒論の具体的な章節立て・内容の発表(第2次発表) 12. 卒論の執筆と吟味 13. 卒論の執筆と提出 			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業論文作成に向けて	演習	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 論文の正確さ、オリジナリティ、史料の精査の度合い、口頭試問での応答などを基に総合的に判断し、点数をつける。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中あるいは終了時を利用して適宜フィードバックする</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:卒業論文</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:卒業論文</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:卒業論文</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S59060 [LHH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業論文の完成	演習	
担当者	尾崎 真理		

[アクティブラーニング授業]

PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]
卒業論文の完成

[授業概要]

受講生各自が選んだ卒業論文テーマについて、①当該テーマに関わる先行研究をまとめるとともに、その問題点を明らかにし、報告する、②それぞれのテーマに関わる史料の所在と内容を把握するとともに、卒業論文の構想についてまとめ、報告する、③夏休み中に史料収集を行い、卒論構想を固める、④③の卒論構想をもとに、卒論の章節構成に従い、その内容について報告する、⑤④の報告を修正・深化させた報告を行う、の順で進める。なお、卒業論文作成するにあたって、必要な史料の収集等を収集する方法論を学ぶため、史料の所蔵機関などの見学に赴く場合がある。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

報告予定者は、事前に報告レジュメを作成する。

[授業計画]

- 1.前期授業の進め方
- 2.受講生全員が、それぞれどのようなテーマで卒業論文を作成したいのかについて報告する。
- 3.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)1
- 4.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)2
- 5.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)3
- 6.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)4
- 7.卒論テーマに関わる先行研究についての報告(一回目報告)5
- 8.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)1
- 9.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)2
- 10.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)3
- 11.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)4
- 12.卒論テーマに関わる史料の所在と内容および卒論構想についての報告(二回目報告)5
- 13.教員が、夏休み中の研究の進め方について説明する。
- 14.後期授業の進め方
- 15.卒論構想についての報告(一回目報告)1
- 16.卒論構想についての報告(一回目報告)2
- 17.卒論構想についての報告(一回目報告)3
- 18.卒論構想についての報告(一回目報告)4
- 19.卒論構想についての報告(二回目報告)1
- 20.卒論構想についての報告(二回目報告)2
- 21.卒論構想についての報告(二回目報告)3
- 22.卒論構想についての報告(二回目報告)4
- 23.卒論構想についての報告(三回目報告)1
- 24.卒論構想についての報告(三回目報告)2
- 25.卒論構想についての報告(三回目報告)3
- 26.卒論構想についての報告(三回目報告)4

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル	卒業論文の完成	演習	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] 報告内容60%、授業への取り組み(討論への参加など)20%、レポート20%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

S59070 [LHH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 卒業論文の完成</p> <p>[授業概要] 卒業論文を作成するにあたって必要な知識や技術を具体的に指導する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 自分の卒論の方向性について、指導教員と緊密に連絡を取りながら、つねに検討・確認をおこなっておく。</p> <p>[授業計画]</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 各自が関心を持っているテーマの報告(1) 各自が関心を持っているテーマの報告(2) 各自が関心を持っているテーマの報告(3) 各自が関心を持っているテーマの報告(4) 先行研究の紹介と問題点の報告(1) 先行研究の紹介と問題点の報告(2) 先行研究の紹介と問題点の報告(3) 先行研究の紹介と問題点の報告(4) 先行研究の紹介と問題点の報告(5) 選択したテーマに関する史料までを含めた準備報告(1) 選択したテーマに関する史料までを含めた準備報告(2) 夏期休暇中の課題の確認 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 卒論の構想・進捗状況の発表(1) 卒論の構想・進捗状況の発表(2) 卒論の構想・進捗状況の発表(3) 卒論の構想・進捗状況の発表(4) 卒論の構想・進捗状況の発表(5) 卒論の構想・進捗状況の発表(6) 卒論の構想・進捗状況の発表(7) 論文執筆の指導(1) 論文執筆の指導(2) 論文執筆の指導(3) 論文執筆の指導(4) まとめ 			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:授業における報告・質疑などの内容・態度および卒業論文の内容を総合的に評価する。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S59080 [LHH4-001]

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉村 真美		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 各自が選択したテーマにもとづいた卒業論文(12000字以上)を完成させることができるようになる。</p> <p>[授業概要] 学術論文の執筆ルールを学び、それぞれの選択したテーマについての検証・考察を卒業論文の形にまとめあげてゆく。前期前半は研究報告を中心とし、論文執筆について説明を実施したのち、各自の論文の個別指導を行う。なお大学層によっては、卒業論文提出期限前に、提出期限後分の授業を補講として集中的に実施することがある。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教員の指示にしたがって、受講生はそれぞれのテーマに則した予備学習を行って発表に臨むこと。発表後は、教員の指導とゼミメンバーによる質疑応答をふまえて、manaba上に課題を再提出することで復習とする。(各回予習復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画] 1. はじめに スケジュールの確認 2. 卒論の執筆(1)テーマを確認する 3. 卒論の執筆(2)構成を確定する 4. 卒論の執筆(3)史資料を充実させる 5. 卒論の執筆(4)題目を検討する(仮題目提出) 6. 卒論の執筆(5)進捗状況を確認する 7. 卒論の執筆(6)追加調査・レポート 8. 卒業論文執筆説明会(1) 卒論の基礎 9. 卒業論文執筆説明会(2) 卒論の構成 10. 個別指導(1)「はじめに」 11. 個別指導(2) 各章の構成と役割 12. 個別指導(3)「おわりに」 13. 個別指導(4)構成表の完成 14. 個別指導(5)「論文」の文法 15. 個別指導(6)語彙を増やす 16. 個別指導(7)図表 17. 個別指導(8)インターネット史資料 18. 個別指導(9)「問い」のスケール 19. 個別指導(10)オリジナリティ 20. 卒業論文執筆説明会(3) 註表記の作法 21. 個別指導(11)全体構成 22. 個別指導(12)文章校正 23. 個別指導(13)体裁の確認 24. 提出準備作業 25. 最終チェック、提出 26. 口頭試問に備えて</p>			

科目名	卒業論文	前期～後期	8 単位
サブタイトル		演習	
担当者	吉村 真美		
<p>[成績評価方法] 課題(卒業論文)100%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-2/幅広く歴史学上の専門書や学術論文を精読し、研究上の課題を主体的に発見する能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-3/課題解決のために必要な資史料を的確に見きわめることができ、客観的に事実を見定める判断力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-4/読解した資史料を論理的に分析し、卒業論文の作成を通して自己の課題を解決していく能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:課題(卒業論文)100%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S59090 [LHH4-001]

科目名	地誌学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	花木 宏直		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>毎回、授業内容に関する課題(レポート作成)を課し、理解度の確認し、疑問点などについて次回で応答する。</small>	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>地誌学の基本的な姿勢は地域(場所)を記述するというものである。この授業では地域を描くための基本的な方法を学ぶ。地誌学では地図を多用するため、地図を通して地域を理解することも学んで欲しい。</p> <p>[授業概要]</p> <p>日本各地の事例を中心に取り上げ、動態地誌の視角を重視しながら授業を進める。毎回の授業では地図類を配布する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業各回の内容を事後に復習して、次回にのぞむこと。地誌学(地理学)において地図は重要なメディアとなる。できるだけ多く地図に接してもらいたい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、地誌学とはなにか、地形図の読図法 2. 南西諸島の漁業と観光(沖縄県宮古島市) 3. 火山の利活用(鹿児島県指宿市) 4. 多島海の工業化と植生変化(広島県尾道市) 5. 山地の焼畑と林業化(愛媛県西条市) 6. 農業・獣害と歴史的景観の保全(奈良県奈良市) 7. 氾濫原の水害対策(愛知県愛西市) 8. 高冷地の別荘地化(長野県軽井沢町) 9. 豪雪と丘陵の銘柄米産地化(新潟県小千谷市) 10. 東京の山手と下町(東京都) 11. 洪積台地の新田開発と果樹栽培(千葉県松戸市) 12. 寒冷地の国土開発(青森県六ヶ所村) 13. 北海道の開拓(北海道奈井江町)、まとめ 			

科目名	地誌学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	花木 宏直		
<p>[成績評価方法] レポート(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 質問については次回の講義の際に触れる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54080 [LHH2-022]

科目名	地理歴史科指導法 I		前期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	谷澤 有弘			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	○
プレゼンテーション	○		実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>高等学校の地理歴史科教員として求められる、教科の教育内容、教材研究、指導法を理解できることを目標とする。中学校社会科の学習を基に、「地理総合」「歴史総合」「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」の指導ができる教員を養成する。授業では、地歴科の教科内容・目標と歴史、学習指導要領、学習指導案の作成、指導と評価等について解説する。受講者が、自分の授業でICTを活用して指導する力をつける。また、生徒に主体的な学習習慣を身に着けさせるスキルとして、アクティブラーニングの手法を習得できるようにする。</p> <p>なお高校の新学習指導要領が、2022(令和4)年度から実施されている。地歴科においては、5つの新科目が実施されている。この大きな変化に適切に対応していきたい。そして社会全体の動きを理解し、高校地歴科教員として必要な実践力、情報活用能力を身につける事を目標とする。</p> <p>[授業概要]</p> <p>担当教員の実務経験は、県立高等学校長・教頭9年、教諭として社会科・地歴科・公民科の指導22年、小中学校6年である。初等中等教育の経験を生かし、受講生が高校地歴科のより良い授業を作れるように指導する。</p> <p>新教育課程での高校地歴科の目標をふまえ、小中学校社会科、高校公民科との関連を図りながら授業を構成する。学習指導の中心である授業の進め方について、アクティブラーニングの手法を取り入れる。自分が作成した学習指導案をもとに授業プレゼンテーションを行い、授業実践力をつける。授業で新聞記事を活用し、社会の動きに目を向ける習慣をつける。授業中に受講者同士のグループワーク、プレゼンテーションを積極的に行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>高校地歴科の教科書を読み、歴史資料と地図に親しむ。各回、4時間程度の予習・復習を行う。日常的に新聞を読む事。事後学習として、新聞活用やテーマ設定をしたレポート作成を課題とする。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション。地理歴史科に関する基礎的学力診断、地歴科授業のテーマ設定 2. 地理歴史科の目標と教科の歴史、地歴科と公民科、中学校社会科との関連 3. 地理歴史科学習指導要領の解説ー学習内容の系統的理解 4. 地理歴史科授業開発の方法ーICTとアクティブラーニングの手法を活用した学習指導 5. 教科内容の理解①「地理総合」ー現代世界の地理的課題や防災、GISについて考察する 6. 教科内容の理解②「歴史総合」ー日本・世界の近現代史の展開を現代世界との結び付きを中心に考察する 7. 地理歴史科の授業プランを考えるー学習指導案をどう書くか 8. 教科内容の理解③「地理探究」ー系統地理的考察と地誌的考察をもとに、世界の諸地域と日本の国土像を探究する 9. 教科内容の理解④「日本史探究」ー日本の歴史を世界との関連の中で考察し、現代日本の課題を探究する 10. 教科内容の理解⑤「世界史探究」ー世界の歴史をグローバルな視点で考察し、地球世界の課題を探究する 11. 授業研究①学習指導案の作成と検討ープレゼンテーション1 12. 授業研究②学習指導案のプレゼンテーション2 13. 授業研究③学習指導案のプレゼンテーション3、前期のまとめと地歴科の復習 				

科目名	地理歴史科指導法 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	谷澤 有弘		
<p>[成績評価方法] 理解度確認試験 (60%)、課題 (小テスト、レポート、学習指導案) (30%)、プレゼンテーション (10%)</p> <p>[課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法] 理解度確認試験は、実施後に内容解説をmanabaに掲載する。レポートは、評価、講評をmanabaに記載する。今後の継続的な学習につながる事を目指す。</p> <p>[オフィスアワー (質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー (DP)]</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学1-1 / 幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記の成績評価方法による</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-1 / 講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記の成績評価方法による</p> <p>学科DP番号 / DP内容: 史学2-5 / 演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記の成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 責任感 / 社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 上記の成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 多様性理解 / 自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記の成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 表現力 / 自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記の成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等 / 資質・能力等の内容: 問題発見力 / 現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記の成績評価方法による</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: 高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 (平成30年告示) 著者名: 文部科学省 出版社名: 東洋館出版社 ISBN: 9784491036410 書籍名: 高校地歴科の教科書、できるだけ「地理総合」「歴史総合」を用意すること 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書 (ISBN)] 書籍名: 高校地歴科資料集等の副教材 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	東洋近現代史	後期	2 単位
サブタイトル	中国を中心とした近世・近代の東アジア世界	講義	
担当者	磯部 淳史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>(1)中国近世・近代の歴史展開について理解し、それを説明することができる。 (2)近世・近代中国とその周辺世界との関係や、相互に与えた影響について理解し、それを説明することができる。 (3)近世・近代中国の歴史が、現代の中国に及ぼした影響について、自分なりに考え説明することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本講義では、中国史のうち特に14世紀～20世紀初頭、明から清、さらに中華民国に至る中国の歴史展開について、東アジア史やユーラシア史、さらには世界史との関連性も視野に入れつつ概観する。政治・経済・民族・外交などの諸問題を通じて、中国における「近世」および「近代」がいかなる特色を持った時代で、それが現代にどのようにつながり、いかなる影響を及ぼしたのかについて考えていきたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回授業後にコメントをまとめ、提出することで、授業内容の整理を自分なりに行なう。また毎回次の授業までにレジュメを見直し、当該回に至るまでの歴史の流れを把握しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション:近世とは何か?近代とは何か?君主独裁とは何か? 2. 君主独裁制の完成 3. 永楽帝と外征の時代 4. 皇帝権力と内閣 5. 北虜南倭の時代 6. 清朝の勃興 7. 明から清へ 8. 清の漢地支配と皇帝政治の展開 9. 康熙・雍正・乾隆三代の盛世 10. 清朝の支配構造 11. 清の繁栄と衰退 12. 清代の北京と日中交流 13. 清朝の滅亡と新しい「中国」の誕生/まとめ 			

科目名	東洋近現代史	後期	2 単位
サブタイトル	中国を中心とした近世・近代の東アジア世界	講義	
担当者	磯部 淳史		
<p>[成績評価方法] 期末レポート:70% 平常点(授業後の提出するコメントシート):30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎回授業終了時に授業内容に対する質問・感想・意見などの提出を求め、それを出席とあわせて平常点とする。またコメントの中の特徴的なものを次回の授業冒頭で取り上げ、回答や補足説明を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:授業担当者が作成したレジュメ・資料を毎回配布する。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:授業中に適宜紹介する。著者名:紹介の際に知らせる。出版社名:紹介の際に知らせる。ISBN:なし</p>			

S50050 [LHH1-005]

科目名	東洋古代中世史	前期	2 単位
サブタイトル	北アジア・中央ユーラシア世界の歴史	講義	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>manabaアンケート機能を使用した質疑応答で教員・学生間の対話を重視する。</small>	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

アジア全般の地理や生業を把握します。その上で、北アジア・中央ユーラシア世界が世界史に対してどのような影響力をおよぼしていったのかを理解します。そして、現代に伝わる歴史的文物や事象がどのように形成されてきたのかを考え、時間軸「いつ？」と空間軸「どこで？」をおさえたうえで、歴史の流れを適確に説明する能力を養います。また、大学での学びについての基礎事項を修得し、それを実践できる講義を目指します。

[授業概要]

高等学校での講師経験のある教員より、アジアを東西南北の4つに区分した上でそれぞれの地理・風土の特徴を解説し、特に世界史を牽引してきた北アジア・中央ユーラシア世界の特徴をとらえてゆきます。ヒト・モノ・カネ・情報がゆきかう中央ユーラシアの特徴を読み解くために、遊牧民とその生活、オアシス農耕とその生活、草原とオアシスの共生関係、万里の長城、シルクロードなどを題材とします。

なお、第1～3講の前半50分はスタディスキル入門と題し、大学での学びについての基礎事項をレクチャーします。具体的にはノート・テイキング、リーディング、ライティングの基本、レジュメ・レポート作成の基本をおさえてもらいます。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

プリントを配布し講義形式の授業をすすめる。高等学校で利用した世界史の教科書や図版で予習、あるいは既習範囲を確認する。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. スタディスキル入門(1) + ユーラシアとアジア
2. スタディスキル入門(2) + アジアの区分
3. スタディスキル入門(3) + 草原の生業
4. 遊牧帝国とその特徴
5. オアシスとシルクロード
6. 歴史の父と遊牧民
7. アジアの動く境界線
8. 草原の民族大移動
9. トルコ系遊牧帝国の時代
10. 今のモンゴル 昔のトルコ
11. 玄奘とシルクロード(1)
12. 玄奘とシルクロード(2)
13. まとめ

科目名	東洋古代中世史	前期	2 単位
サブタイトル	北アジア・中央ユーラシア世界の歴史	講義	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] ミニッツペーパーへの記述(30%) + レポート・試験(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaアンケート機能を使用し、講義内容についての質疑応答をおこないます。通称【目安箱】。質問内容によっては次回の講義の冒頭で紹介し、問題意識を共有します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: ミニッツペーパーへの記述(30%) + レポート・試験(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: ミニッツペーパーへの記述(30%) + レポート・試験(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: ミニッツペーパーへの記述(30%) + レポート・試験(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: ミニッツペーパーへの記述(30%) + レポート・試験(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: ミニッツペーパーへの記述(30%) + レポート・試験(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S50040 [LHH1-004]

科目名	東洋史特殊講義 I	後期	2 単位
サブタイトル	西南アジアの諸問題	メディア(講義)	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	Microsoft Teamsによる遠隔授業、manabaをもちいた質疑応答により学生・教員間の対話を重視する。	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>自分たちの社会がどのような歴史的環境の元におかれているかを異文化世界と比較しつつ説明できるように、アジアの多様性を学びます。時間軸「いつ？」と空間軸「どこで？」をおさえたいうえで、歴史上の事象や流れを適確に説明することができるように、西アジア・南アジアの地理や生業、宗教、文化を理解することが目標です。そして、授業内容を踏まえ、現代につながる問題にはどのようなものがあるかを把握します。また、長期にわたる人とモノの交流を学ぶことを通して、異なる民族や文化・宗教についての理解を深めることも目標とします。</p> <p>[授業概要]</p> <p>[メディア授業]</p> <p>冷戦終結後二十年以上が経過しグローバル化が叫ばれるなか、世界各地に異なる歴史的背景を持つ民族や文化、宗教の存在を理解することがますます重要になっています。本講義では、アジアのなかでも西アジア(オリエント世界)や南アジアの現代史的なトピックに着目し、それが過去とどのようなつながりがあるかを解説してゆきます。</p> <p>なお、本講義は『自分色パレット』(正式名称:テーマ型ユニット)の選択科目のひとつ。全13講、Microsoft Teamsによる遠隔授業を実施します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>近現代のグローバルな歴史展開を意識しつつ、中学校・高等学校の社会科に必要な知識を獲得することも目標としています。特に高等学校の教科書、図版などを参照しつつ授業の予習復習につとめてください。なお、指定の教科書を読み、複数の参考書に目を通すことは必須です。目安として、各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冷戦後の世界とアジア 2. アジアの区分と西アジア・南アジアの特徴 3. グレート・ゲームの時代のアジア 4. インドとパキスタンの独立 5. カシミール紛争の再燃 6. アフガニスタンと国境線 7. 国内紛争と失敗国家 8. 内外モンゴルの国境線 9. イラン革命から見る世界情勢 10. 世界の中心とオスマン帝国 11. 第一次世界大戦とパレスチナ 12. パレスチナと中東戦争 13. まとめ 			

科目名	東洋史特殊講義 I	後期	2 単位
サブタイトル	西南アジアの諸問題	メディア(講義)	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaのアンケート機能を使用し、講義内容についての質疑応答をおこないます(成績評価のミニッツペーパーの記述に相当)。質問内容によっては次回の講義の冒頭で紹介し、学生の問題意識を共有します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	東洋史特殊講義 I	後期	2 単位
サブタイトル	西南アジアの諸問題	メディア(講義)	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	Microsoft Teamsによる遠隔授業、manabaをもちいた質疑応答により学生・教員間の対話を重視する。	実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>自分たちの社会がどのような歴史的環境の元におかれているかを異文化世界と比較しつつ説明できるように、アジアの多様性を学びます。時間軸「いつ？」と空間軸「どこで？」をおさえたいうえで、歴史上の事象や流れを適確に説明することができるように、西アジア・南アジアの地理や生業、宗教、文化を理解することが目標です。そして、授業内容を踏まえ、現代につながる問題にはどのようなものがあるかを把握します。また、長期にわたる人とモノの交流を学ぶことを通して、異なる民族や文化・宗教についての理解を深めることも目標とします。</p> <p>[授業概要]</p> <p>[メディア授業]</p> <p>冷戦終結後二十年以上が経過しグローバル化が叫ばれるなか、世界各地に異なる歴史的背景を持つ民族や文化、宗教の存在を理解することがますます重要になっています。本講義では、アジアのなかでも西アジア(オリエント世界)や南アジアの現代史的なトピックに着目し、それが過去とどのようなつながりがあるかを解説してゆきます。</p> <p>なお、本講義は『自分色パレット』(正式名称:テーマ型ユニット)の選択科目のひとつ。全13講、Microsoft Teamsによる遠隔授業を実施します。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>近現代のグローバルな歴史展開を意識しつつ、中学校・高等学校の社会科に必要な知識を獲得することも目標としています。特に高等学校の教科書、図版などを参照しつつ授業の予習復習につとめてください。なお、指定の教科書を読み、複数の参考書に目を通すことは必須です。目安として、各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冷戦後の世界とアジア 2. アジアの区分と西アジア・南アジアの特徴 3. グレート・ゲームの時代のアジア 4. インドとパキスタンの独立 5. カシミール紛争の再燃 6. アフガニスタンと国境線 7. 国内紛争と失敗国家 8. 内外モンゴルの国境線 9. イラン革命から見る世界情勢 10. 世界の中心とオスマン帝国 11. 第一次世界大戦とパレスチナ 12. パレスチナと中東戦争 13. まとめ 			

科目名	東洋史特殊講義 I	後期	2 単位
サブタイトル	西南アジアの諸問題	メディア(講義)	
担当者	鈴木 宏節		
<p>[成績評価方法] ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaのアンケート機能を使用し、講義内容についての質疑応答をおこないます(成績評価のミニッツペーパーの記述に相当)。質問内容によっては次回の講義の冒頭で紹介し、学生の問題意識を共有します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: ミニッツペーパーの記述(30%) + 到達度確認のためのレポート記述(70%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	東洋史特殊講義Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	アジアの政治b	講義	
担当者	磯部 淳史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	<small>manabaを使用した毎回の授業コメントで教員・学生間の対話を重視する。</small>	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>(1)前近代東アジアの政治体制や制度について理解し、それを説明することができる。 (2)前近代東アジア、特に明清時代の政治・社会や支配体制の特徴について、政治学や法学の見地から自分なりに考え、説明することができる。 (3)前近代東アジアの政治が、現代の中国に及ぼした影響について、自分なりに考え、説明することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本講義では、中国を中心とした前近代東アジア(東部ユーラシア)の政治について概観する。講義ではまず前近代東アジア全体の政治にあり方を解説した後、特に14-19世紀の明清時代における政治制度・統治体制・法制度などについて、歴史学のみならず政治学や法学の視点を交えつつ解説する。前近代東アジアにおける政治体制・制度がいかなる特色を持ち、それが現代政治とどのように関連し、いかなる影響を及ぼしたのかについて考えていきたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>毎回授業後にコメントをまとめ、提出することで、授業内容の整理を自分なりに行なう。また毎回次の授業までにレジュメを見直し、当該回に至るまでの歴史の流れを把握しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション・東アジア政治史の概観、授業の進め方の説明 2.中国古代・中世における政治と官僚制 3.北アジア・中央アジア諸国家とその政治体制 4.君主独裁制の成立と展開①:北宋～明の政治(1) 5.君主独裁制の成立と展開②:北宋～明の政治(2) 6.清代の政治と社会①:明との連続性と君主独裁制の発展 7.清代の政治と社会②:清代の地方行政と法制度 8.清代の政治と社会③:清朝皇帝と側近機構 9.清朝の支配体制:帝国統治の多様性 10.清朝の支配体制:清代の王権と統治集団 11.近世中国の政治空間:都城と後宮 12.清代政治の東アジア的同時代性:朝鮮李朝・琉球・江戸時代日本との比較 13.君主政治の終焉と近現代政治への影響/まとめ 			

科目名	東洋史特殊講義Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	アジアの政治b	講義	
担当者	磯部 淳史		

[成績評価方法]

期末レポート:70% 平常点(授業後の提出するコメントシート):30%

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

毎回授業終了時に授業内容に対する質問・感想・意見などの提出を求め、それを出席とあわせて平常点とする。またコメントの中の特徴的なものを次回の授業冒頭で取り上げ、回答や補足説明を行う。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

書籍名:授業担当者が作成したレジュメ・資料を毎回配布する。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし

[参考書(ISBN)]

書籍名:授業中に適宜紹介する。著者名:紹介の際に知らせる。出版社名:紹介の際に知らせる。ISBN:なし

科目名	東洋史料講読Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	『十八史略』講読a	演習	
担当者	牛根 靖裕		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>東洋史、とくに中国史を研究する上で不可欠な漢文法に関する基礎知識を身につけることができる。また原典資料に親しみ、漢文読解能力を高めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>この授業は、原典資料としての漢文に親しみ、東洋史学研究に必要な漢文史料の基礎的読解力を身につけることを目的とする。テキストには元の曾先之が撰した『十八史略』を用いる。『十八史略』は、中国の古代から南宋までの歴史を、複数の歴史書に基づき編年体(時系列順にものごとを叙述したスタイル)で簡略に綴った書物である。初学者向けの歴史読み物として長く用いられ、日本でも明治期には漢文や中国史の教科書として読まれた。二次的・三次的編纂物であり、『十八史略』が歴史研究で史料として用いられることは少ないが、多くの故事・逸話を含み漢文の史書を読みはじめる入門書としては、今もなお一定の価値を有する。その中から著名な故事・逸話について書かれた文章を選んで読んでいく。</p> <p>授業は、冒頭数回にわたって漢文の文法について確認した後に、実際にテキストの講読へと進む。授業では予め担当者を決めず、受講生全員が予習の上、毎回少しずつ読み進めていく。その中で、各自基礎的な漢文読解力を養ってもらいたい。</p> <p>受講にあたっては各自漢和辞典を準備してもらう必要があるが、新たに購入する場合、担当者からは『全訳漢辞海【第四版】』(三省堂)を推奨する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>講読の授業であるので、毎回の予習が必須である。漢文は一面では外国語であるので、語学の学習の気構えでのぞむことが求められる。各回、予習復習合わせて2時間程度を要する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・漢文法概説 2. 漢文法概説 3. 『十八史略』講読(1) 4. 『十八史略』講読(2) 5. 『十八史略』講読(3) 6. 『十八史略』講読(4) 7. 『十八史略』講読(5) 8. 『十八史略』講読(6) 9. 『十八史略』講読(7) 10. 『十八史略』講読(8) 11. 『十八史略』講読(9) 12. 『十八史略』講読(10) 13. まとめ 			

科目名	東洋史料講読Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	『十八史略』講読a	演習	
担当者	牛根 靖裕		
<p>[成績評価方法] 毎週の課題(ほぼ毎回全員にテキストの指定範囲について書き下しと現代語訳を提出してもらう)90%。 まとめ10%。なお「まとめ」では初見の漢文を読解してもらう予定だが、原則として「まとめ」の出席は成績認定の前提条件とする。そのほか、最低一回一定の範囲を担当して発表してもらうことも必須とする。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 毎週の課題は授業で解説する。「まとめ」については、正答案を公表する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標] 教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:十八史略 著者名:林秀一 出版社名:明治書院 ISBN: 書籍名:十八史略 著者名:漢詩・漢文教材研究会 出版社名:昌平社 ISBN:</p>			

科目名	東洋史料講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	『十八史略』講読b	演習	
担当者	磯部 淳史		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 東洋史、とくに中国史を研究する上で不可欠な漢文法に関する基礎知識を身につけることができる。また原典資料に親しみ、漢文読解能力を高めることができる。</p> <p>[授業概要] この授業は、原典資料としての漢文に親しみ、東洋史学研究に必要な漢文史料の基礎的読解力を身につけることを目的とする。テキストは前近代中国で初心者向けの教科書的読み物であった『十八史略』を用いる。この授業では、同書の後半部分の中から著名なエピソードについて書かれたトピックを選んで読んでいく。 授業ではまず基本的な文法事項などについて説明した後、第3回よりテキストの読解に入る予定である。授業では予め担当者を決めず、受講生全員が予習の上、毎回少しずつ読み進めていく。その中で、各自基礎的な漢文読解力を養ってもらいたい。 受講にあたっては各自漢和辞典の準備が必須である。辞典は指定しないが、新たに購入する場合は『新字源』(角川書店)、あるいは『全訳漢辞海(第四版)』(三省堂)を推奨する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 毎回講読してもらうため、受講生全員がテキストの当該箇所を予習した上で授業に臨むこと。 また、漢文読解能力を養うには継続的な資料の読解が不可欠であるので、各自毎回復習を怠らないこと。</p> <p>[授業計画] 1. 授業の進め方・テキスト等の説明 2. 漢文訓読の基礎についての解説/練習問題 3. 『十八史略』読解: 巻五、唐・太宗李世民(1) 4. 『十八史略』読解: 巻五、唐・太宗李世民(2) 5. 『十八史略』読解: 巻五、唐・則天武后(1) 6. 『十八史略』読解: 巻五、唐・則天武后(2) 7. 『十八史略』読解: 巻六、五代・李存勖(1) 8. 『十八史略』読解: 巻六、五代・李存勖(2) 9. 『十八史略』読解: 巻六、宋・北宋の太祖と太宗(1) 10. 『十八史略』読解: 巻六、宋・北宋の太祖と太宗(2) 11. 『十八史略』読解: 巻六、宋・北宋の太祖と太宗(3) 12. 『十八史略』読解: 巻七、南宋・金の海陵王 13. 理解度確認小テスト、解説、まとめ</p>			

科目名	東洋史料講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	『十八史略』講読b	演習	
担当者	磯部 淳史		
<p>[成績評価方法] 授業への参加態度、発表内容、授業内で実施する小テスト(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:教科書は特に使用しない。テキストは初回授業時に配布する。著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし 著者名:なし 出版社名:なし ISBN:なし</p>			

科目名	日本近現代史	後期	2 単位
サブタイトル	政治史を中心とした日本近現代史の概観	講義	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>日本近現代史の流れが理解でき、個々の事実関係がその流れの中に位置づけて把握できるようになることが目標となる。試験の論述においても、その点が中心として問われる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>日本近現代史を理解するにあたって必要とされる基本的な視角について講義する。具体的には、①明治維新後に成立した有司専制政府に対する政治的自由獲得のための自由民権運動、②議会開設後、自由民権運動の流れを受け継いだ政党勢力が、藩閥との対立と妥協を繰り返しながら政権に参入していく過程、③大正デモクラシーの風潮のもとに、政党政治が確立に向かう時期の動向、④満洲事変以後の政党政治の崩壊等、主として政治史的視点から通観することにつとめ、適宜経済や社会運動等の動向にもふれることにする。歴史の勉強においては、個々の事実がいかなる歴史的な流れに位置づけられるのかが理解されなければならないが、そうした流れの把握に重点を置いて講義していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>高校で日本近現代史を習っていない者でも履修可能であるが、その場合でも、自ら概説書等を読んで、近現代の歴史の流れを把握しようとする準備学修の姿勢が望まれる。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近現代における明治維新 2. 国民国家の形成と明治維新 3. 岩倉使節団をめぐる 4. 明治六年政変の歴史的な位置 5. 土族反乱と西南戦争 6. 自由民権運動 7. 明治憲法の制定と政治構造 8. 議会政治の始まりと日清・日露 9. 大正デモクラシー 10. 政党政治の確立と崩壊 11. 二・二六事件の歴史的な位置 12. アジア・太平洋戦争 13. まとめ 			

科目名	日本近現代史	後期	2 単位
サブタイトル	政治史を中心とした日本近現代史の概観	講義	
担当者	松下 孝昭		

[成績評価方法]

試験による(100%)。なお、手書きノートと配布プリントの持ち込みを許可する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

毎回の出席カードに質問等を書き込み、次回の冒頭に答える。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 試験

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 試験

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	日本近世史	前期	2 単位
サブタイトル	近世国家と社会—近世史料と歴史研究の関係—	講義	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] この授業では、近世史研究のうちいくつかテーマをとりあげながら、①日本近世の国家・社会の実態と特質を理解する、②近世史料から近世の国家や社会の描き方をまなぶ、の2点を目標とする。</p> <p>[授業概要] 近世において、近世領主による土地領有の問題は主要な研究テーマの一つである。近世においてはこの領有関係が必ずしも固定的なものではなく、改易・転封、加増、村替といった形で随時変更されていた(領知替、所領替などといわれる)。このような変更がどのような仕組みでなぜ行われていたのか。さらにはこのような度重なる所領の変遷が、地域社会(非支配者の地域運営)にどのような影響を与えていたのかを考察する(①近世所領配置論、②幕領支配論、③近世地域論)。またもう一つのテーマとして、幕末期における天然痘の予防接種(種痘)事業の展開について、既存の史料に加え、近年発見された緒方洪庵の妻・八重の手紙を用いながら明らかにする(④大坂における種痘事業)。 ①～③と④は一見まったく異なる検討対象ではあるが、それぞれのテーマを通して、近世史料からどのように近世国家や社会を描き出すか、といった近世史研究の方法論を学ぶ機会としたい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から近世史に関する図書をできるだけ多く読んでおくこと(読書時間は週4時間程度を目安とする)。これにあたって、関連する論文や書籍は適宜授業中に紹介する。</p> <p>[授業計画] 1. 講義のねらいと授業の流れ 2. 日本近世史概説(中後期を中心に) 3. 近世国家の仕組み 4. 近世地域社会の仕組み 5. 近世所領配置論1(所領配置とは何か、所領配置論の現在) 6. 所領配置論2 7. 所領配置論3 8. 近世所領の中の幕領(幕府直轄領)の位置 9. 所領替反対運動と地域社会 10. 緒方洪庵らの種痘事業 11. 屏風から発見された下張り文書と八重のてがみ 12. 大坂除痘館(種痘所)の公館化と八重の役割 13. 授業のまとめ</p>			

科目名	日本近世史	前期	2 単位
サブタイトル	近世国家と社会—近世史料と歴史研究の関係—	講義	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] 受講態度30%、期末試験70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 履修生は、毎回manabaの小テスト機能を用いてその日の授業内容について質問や感想を書く。教員は次の授業の中で、質問に答える。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S50020 [LHH1-002]

科目名	日本考古学	後期	2 単位
サブタイトル	日本考古学概論	講義	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 考古学とはどのような学問なのか、何をどのように探究する学問かを説明できる</p> <p>[授業概要] 考古学とは、人類が遺したモノ資料をもとに「人間とは何か？」を探究する学問である。主として地表下に埋没しているモノ資料から過去の人類の行動・活動を読み取り、「いま・ここ」まで我々が辿ってきた道を復原する。 考古学のこれまでの成果は歴史教科書の冒頭を飾っているし、博物館には土器や青銅器が並んでいる。また、ニュースや新聞などでもしばしば取り上げられるから、目にする機会は少なくないだろう。しかし、そもそも遺跡はどこにあるのだろうか？「最古の〇〇発見！」というニュースの最古かどうかはどのようにしてわかるのだろうか？ この授業ではそうした基本的な問いからスタートして、考古学の特徴と研究方法を解説する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 予習は特に必要ないが、授業後に講義の内容を復習し、新しく知った専門用語などを整理しておく(30~90分程度)。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス+リアクションペーパーの書き方 2. 考古学とはどのような学問か 3. 考古学はどのようにして生まれたか(1) 4. 考古学はどのようにして生まれたか(2) 5. 古さはどのようにしてわかるのか(1) 6. 古さはどのようにしてわかるのか(2) 7. 考古学調査の実際 8. 生活を読み解く 9. 交流を読み解く 10. 社会を読み解く 11. 考古学は心を読むことができるのか？ 12. 考古学と現代 13. まとめ</p>			

科目名	日本考古学	後期	2 単位
サブタイトル	日本考古学概論	講義	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] リアクションペーパー(50%)、試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:リアクションペーパー、試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S50090 [LHH1-009]

科目名	日本考古学資料研究	後期	2 単位
サブタイトル	考古資料の観察および資料化の方法	講義	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>考古学は、対象となる物質資料がどのように作られたのか、なぜそのように作られたのかを知るところから始まる。そこでこの授業では、研究に不可欠な観察眼を養うとともに、観察結果を表現するためのルールを習得する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>考古学は、主として地表下に埋没しているモノ資料から過去の人類の活動を読み取り、歴史を復原する学問である。人類活動を詳しく読み解くため、モノ資料を適切な手続きによって地表下から取り出し、適切に資料化することが要請される。本授業はそうした基礎技術を習得するとともに、そのルールに基づいて表現・説明されている発掘調査報告書や学術論文を読みこなすための基盤を作る。具体的には、①資料を細かく観察し、スケッチして調書をとる、②実測図を作成する、③作成した実測図をトレースして図面を仕上げる、④レイアウトして図版を完成させる、⑤測量図を作るの5項目を学ぶ。決して楽な授業ではないが、考古学で卒論を書く学生には必要不可欠な技術である。史学演習で考古学ゼミを選択した者は特に受講してほしい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>各授業回で教員が示した手順をその都度書き留め、精度の高い図面を作成してほしい。 なお本科目の履修にあたっては、「日本考古学」を履修済みもしくは履修中であることを条件とする。 また、履修時の服装等に制限を設ける。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス+考古資料のスケッチと観察(1) 2. 考古資料のスケッチと観察(2) 3. 器の実測(1) 4. 器の実測(2) 5. 器の実測(3) 6. 土器の実測(1) 7. 土器の実測(2) 8. 土器の実測(3) 9. 土器の実測(3) 10. 拓本 11. 図面のレイアウト 12. 地形の測量(1) 13. 地形の測量(2) 			

科目名	日本考古学資料研究	後期	2 単位
サブタイトル	考古資料の観察および資料化の方法	講義	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] 図面等の提出物により評価する(100%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:提出物</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:提出物</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:提出物</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本考古学特殊講義Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ニッポンとニッポンジンの考古学	講義	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>①「日本」「日本人」を糸口に、多様な史資料を駆使して過去を復原する方法を理解する。 ②考古資料から析出された人間集団の内実をよく分析し、自らの考えを加えて説明することができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>一昨年もしくは今年の夏、第一・第二希望に○をつけて提出した「専門ゼミ希望調査票」を思い出していただきたい。6つのゼミは「日本」の2文字を冠していただろう。それらでは日本の遺物・遺構、日本の文書、日本の語りや風習を使って、日本の歴史の復原に取り組んでいる。いま私はあたりまえのように「日本の・・・」という文言を繰り返しているが、一旦立ち止まって考えてみたい。「日本」とはそもそもどこを、何を指しているのだろうか？「日本」という不変の領域が存在するのだろうか？こうした問いを足掛かりに、私たちが日常を送る「日本」の成り立ちを考古学から考えてみるのが、本講義である。</p> <p>ところで、日本国で生まれ、日本国の戸籍を持つ私は、12年間教えられた日本語しか使えないこともあってか、国内・国外の人たちから「日本人」と認識されている。しかし、日本国で生まれた全員が「日本人」ではないし、日本語の話者すべてが「日本人」ということでもない。それでは「日本人」とは誰なのだろうか？その日本人はいつから「日本人」になったのだろうか？本講義ではこうした難度の高いエスニシティの問題について、皆さんと一緒に考えてみたいと思う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>予習は必要ないが、身のまわりの「日本らしさ」や「日本人らしさ」を観察し、なぜそれを感じるのか、どのような時にそれを感じるか、を折に触れ考えてみてほしい。尚、本科目の履修にあたっては、「日本考古学」を履修済みであることを条件とする。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス+リアクションペーパーの書き方 2. 1930年代の日本考古学 3. 古北海道半島と古本州島 4. 縄文土器・弥生土器の定義と分布限界 5. 渡来人①—人類学の成果から— 6. 渡来人②—考古学の立場から— 7. 森多き島々を囲む海 8. 温暖にして冬夏生菜を食い—日本型農業— 9. 続縄文文化と貝塚後期文化 10. 列島の東と西 11. 災害に何度も立ち上がる人々 12. 考古学とエスニシティ 13. まとめ 			

科目名	日本考古学特殊講義Ⅱ	前期	2 単位
サブタイトル	ニッポンとニッポンジンの考古学	講義	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] リアクションペーパー(50%)、試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: リアクションペーパー、試験</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本古代中世史	前期	2 単位
サブタイトル	アジアのなかの古代・中世日本	講義	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本の古代・中世史の展開がアジア史・世界史の展開と密接に関連していることを理解する。 日本史の概説書に読み慣れる。</p> <p>[授業概要] 日本の古代史・中世史を地域の視点から考える。とりわけアジアのなかの日本、世界のなかの日本、世界史のなかの日本史という視点を取り入れる。 授業は、次のように構成する。①授業における学習課題を提示する、②教科書『古代史講義』『中世史講義』の当該章の概要を整理する、③重点テーマについて解説する。②③については、適宜、参考文献や史料を紹介する。小学校・中学校・高等学校における歴史分野の学習と関連づけながら、新たな歴史の学びをしていく。 毎回、受講生は、学習課題の解答と、授業の感想や質問をコメントペーパーに書いてもらう。興味深い意見や疑問を次の授業で紹介し、受講者の理解を広げかつ深める機会を設ける。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教科書の中で授業に対応する箇所を事前・事後に通読する。 興味を持った授業テーマに関する文献を自ら読み解き、授業で得た関心を広げるよう取り組む姿勢を強く求めたい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 歴史学(日本史)の学び方 2. 『古代史講義』第1講 邪馬台国から古墳の時代へ 3. 『古代史講義』第2講 倭の大王と地方豪族 4. 『古代史講義』第4講 飛鳥・藤原の時代と東アジア 5. 『古代史講義』第8講 遣唐使と天平文化 6. 『古代史講義』第12講 国風文化と唐物の世界 7. 『古代史講義』第15講 平泉と奥州藤原氏 8. 『中世史講義』第2講 院政期の政治と社会 9. 『中世史講義』第3講 日宋・日元貿易の展開 10. 『中世史講義』第5講 鎌倉仏教と蒙古襲来 11. 『中世史講義』第10講 中世経済を俯瞰する 12. 『中世史講義』第11講 室町幕府と明・朝鮮(1) 13. 『中世史講義』第11講 室町幕府と明・朝鮮(2) 			

科目名	日本古代中世史	前期	2 単位
サブタイトル	アジアのなかの古代・中世日本	講義	
担当者	関 周一		

[成績評価方法]

学期末レポート(60%)、授業ごとのコメントペーパー(40%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

コメントペーパーに書かれた疑問に対する回答をまとめたプリントを配布し、履修者相互の理解を深める。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 学期末レポート(60%)、授業ごとのコメントペーパー(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 学期末レポート(60%)、授業ごとのコメントペーパー(40%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 学期末レポート(60%)、授業ごとのコメントペーパー(40%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 学期末レポート(60%)、授業ごとのコメントペーパー(40%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 学期末レポート(60%)、授業ごとのコメントペーパー(40%)

[教科書(ISBN)]

書籍名: 古代史講義—邪馬台国から平安時代まで 著者名: 佐藤信編 出版社名: 筑摩書房 ISBN: 9784480071170

書籍名: 中世史講義—一院政期から戦国時代まで 著者名: 高橋典幸・五味文彦編 出版社名: 筑摩書房 ISBN: 9784480071996

[参考書(ISBN)]

書籍名: 古代史講義【海外交流篇】 著者名: 佐藤信編 出版社名: 筑摩書房 ISBN: 9784480075819

科目名	日本古文書学 I	前期	2 単位
サブタイトル	日本古代・中世文書の様式と歴史的背景	講義	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本中世文書の歴史的特質を実例の検討を通じて考える力量を身につける。</p> <p>[授業概要] 本講義の目的は、日本古代・中世文書の古典的成果でもある様式的変化とその歴史的背景を考察することである。また、文書の作成および伝達過程の復原を試みる。特に古文書の伝来から読み取ることができる古代・中世社会の特徴に留意する。授業は、次のように構成する。①『新版古文書学入門』に拠りながら、公式様(くしきよう)・公家様・武家様の様式についての基礎的な知識を身につける、②中世文書の写真版(『演習古文書選』を利用して、その解説を行い、その訓読(読み下し)・内容や様式的特徴を確認する。解説作業は受講生が分担して行う。なお、授業の達成度を確認するための試験を実施する。資料館・博物館の古文書展示を見学し、原文書の様態を学ぶ機会を設ける。また、近年整備された古文書群データベースも活用する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 事前、事後を問わず、テキスト・プリントなどを見直し、授業内容の理解を深め、疑問点を整理することを強く求める。なお、この授業には、漢文を読む基礎知識とスキルが不可欠である。2回生で学修した内容を常に確認できるようにしておくこと。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス／古文書学とは何か 2. 公式様文書(1) 公式令と詔書・符・移 3. 公式様文書(2) 牒・解 4. 公家様文書(1) 宣旨 5. 公家様文書(2) 官宣旨 6. 公家様文書(3) 綸旨・御教書(1) 7. 公家様文書(4) 綸旨・御教書(2)、まとめ(1) 8. 武家様文書(1) 下文 9. 武家様文書(2) 下知状 10. 武家様文書(3) 御教書・奉書 11. 武家様文書(4) 直状・書下 12. 武家様文書(5) 印判状 13. まとめ(2)</p>			

科目名	日本古文書学Ⅰ	前期	2 単位
サブタイトル	日本古代・中世文書の様式と歴史的背景	講義	
担当者	関 周一		
<p>[成績評価方法] 定期試験(70%)、授業中の発表(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 定期試験は、解答例をmanabaに掲載して、今後の学びの課題を提示する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:定期試験(70%)、授業中の発表(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:定期試験(70%)、授業中の発表(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:定期試験(70%)、授業中の発表(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法:定期試験(70%)、授業中の発表(30%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:定期試験(70%)、授業中の発表(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:定期試験(70%)、授業中の発表(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:定期試験(70%)、授業中の発表(30%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:新版古文書学入門 著者名:佐藤進一 出版社名:法政大学出版局 ISBN:9784588320118 書籍名:演習古文書選 様式編 著者名:日本歴史学会編 出版社名:吉川弘文館 ISBN:9784642070584</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:中世の古文書入門 著者名:小島道裕 出版社名:河出書房新社 ISBN:9784309226859</p>			

S52210 [LHH3-035]

科目名	日本古文書学Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	日本中世の古文書を読み解く	講義	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>日本中世文書の歴史的特質を、実例の検討を通じて考える力を身につける。 歴史資料論の課題を考える力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>本講義の目的は、実例の検討を通じて、日本古代・中世文書の歴史的特質を認識することにある。その際、資料学における古文書の位置づけを確認する上で、伝来の状況やその理由を検討する。特に古文書の伝来から読み取ることのできる、古代・中世社会の特徴に留意する。前半の授業は、次のように構成する。①『新版古文書学入門』に拠りながら、上申文書・証書類の様式についての基礎的な知識を身につける、②中世文書の写真版(『演習古文書選』)を利用して、その解読を行い、その訓読(読み下し)・内容や様式的特徴を確認する。解読作業は受講生が分担して行う。なお、授業の達成度を確認するための試験を実施する。 後半の授業は、博物館・美術館・文書館などでの実践を想定しつつ、近年の古文書学研究の成果を紹介する講義を行う。 資料館・博物館の古文書展示を見学し、原文書の様態を学ぶ機会を設ける。また、近年整備された古文書群データベースも活用する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>事前、事後を問わず、テキスト・プリントなどを見直し、授業内容の理解を深め、疑問点を整理することを強く求める。 なお、この授業には、漢文を読む基礎知識とスキルが不可欠である。これまで学修した内容を常に確認できるようにしておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス／古文書学とは何か 2. 公家様文書と武家様文書 3. 上申文書(1) 解状・訴陳状 4. 上申文書(2) 紛失状／請文・請取状 5. 上申文書(3) 起請文 6. 上申文書(4) 着到状／軍忠状 7. 証書類(1) 譲状 8. 証書類(2) 売券 9. 証書類(3) 借用状 10. 文書の保管・廃棄 11. 文書の料紙／紙背文書 12. 外交文書(1) 13. 外交文書(2)／中国・朝鮮の文書 			

科目名	日本古文書学Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	日本中世の古文書を読み解く	講義	
担当者	関 周一		

[成績評価方法]

定期試験(60%)、授業中の発表(30%)、講義内容に対するコメント(10%)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

定期試験は、解答例をmanabaに掲載して、今後の学びの課題を提示する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 定期試験(60%)、授業中の発表(30%)、講義内容に対するコメント(10%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 定期試験(60%)、授業中の発表(30%)、講義内容に対するコメント(10%)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 定期試験(60%)、授業中の発表(30%)、講義内容に対するコメント(10%)

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 定期試験(60%)、授業中の発表(30%)、講義内容に対するコメント(10%)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 定期試験(60%)、授業中の発表(30%)、講義内容に対するコメント(10%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 定期試験(60%)、授業中の発表(30%)、講義内容に対するコメント(10%)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 定期試験(60%)、授業中の発表(30%)、講義内容に対するコメント(10%)

[教科書(ISBN)]

書籍名:新版古文書学入門 著者名:佐藤進一 出版社名:法政大学出版局 ISBN:9784588320118

書籍名:演習古文書選 様式編 著者名:日本歴史学会編 出版社名:吉川弘文館 ISBN:9784642070584

[参考書(ISBN)]

書籍名:中世の古文書入門 著者名:小島道裕 出版社名:河出書房新社 ISBN:9784309226859

科目名	日本史特殊講義Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	航海信仰史研究	講義	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 東アジア海域における航海信仰の歴史の変遷を通じて、日本史とアジア史・世界史との連関を理解する。</p> <p>[授業概要] 東アジア海域における古代～近世のさまざまな航海信仰の事例を紹介しながら、その海域における国家や民族の枠組みを超えた歴史のつながりを検討していく。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 配布されたレジュメや資料に事前に眼を通したうえで授業に臨む。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 2. 航海信仰と毛髪(1) 3. 航海信仰と毛髪(2) 4. 航海信仰と毛髪(3) 5. 日本近世の造船祭文にみえる航海信仰(1) 6. 日本近世の造船祭文にみえる航海信仰(2) 7. 航海守護神としての観音信仰(1) 8. 航海守護神としての観音信仰(2) 9. 航海守護神としての観音信仰(3) 10. 朝鮮通信使・冊封琉球使の航海信仰(1) 11. 朝鮮通信使・冊封琉球使の航海信仰(2) 12. その他の航海信仰 13. まとめ</p>			

科目名	日本史特殊講義Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	航海信仰史研究	講義	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史特殊講義Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	琉球・沖縄と日本・アジア	講義	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 琉球・沖縄の歴史について、日本やアジアとの関係を踏まえて説明できる。 任意の課題について調査し、文章にまとめることで、歴史研究の方法を身につける。</p> <p>[授業概要] 本年度は、琉球・沖縄を取り上げ、古琉球の時代(日本列島では、中世史に相当する)を中心に検討する。日本などのアジア諸地域との関係を持ちながら琉球社会が形成されていったことや、琉球・沖縄を通じてみえてくる日本などについて考察する。その際、国立歴史民俗博物館の特集展示「海の帝国 琉球—八重山・宮古・奄美からみた中世—」(2021年)の成果を踏まえる。 なお、講義では漢文体の史料や考古資料・美術品など多様な史料・資料を使用する。漢文を読む基礎知識とスキルを身につけていること(または身に着けようとする意欲をもっていること)が望ましい。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業各回に関する教科書の該当箇所を指示するので、事前に読んで、授業に臨む。 授業で紹介した参考書を積極的に読む。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス 対外関係史・海域アジア史の視点 2. 琉球の先史文化(教科書「Ⅰ 先史・古代」) 3. 律令国家と奄美・琉球(教科書「Ⅰ 先史・古代」) 4. グスク時代のはじまり(教科書「Ⅱ 古琉球」) 5. 「海の帝国 琉球」の成立過程(教科書「Ⅱ 古琉球」) 6. アジアのなかの古琉球(1)(教科書「Ⅱ 古琉球」) 7. 第二尚氏政権の統治と貿易(教科書「Ⅱ 古琉球」) 8. アジアのなかの古琉球(2)(教科書「Ⅱ 古琉球」) 9. 八重山・宮古の集落と港(教科書「Ⅱ 古琉球」) 10. 那覇港と島々を結ぶ(教科書「Ⅱ 古琉球」) 11. 近世琉球(教科書「Ⅲ 近世琉球」) 12. 近代の沖縄(教科書「Ⅳ 近代」) 13. 現代の沖縄(教科書「Ⅴ 現代」)</p>			

科目名	日本史特殊講義Ⅳ	前期	2 単位
サブタイトル	琉球・沖縄と日本・アジア	講義	
担当者	関 周一		
<p>[成績評価方法] レポート(70%)、授業ごとのコメントペーパー(30%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] manabaレポートのコメント機能を使用。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート(70%)、授業ごとのコメントペーパー(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: レポート(70%)、授業ごとのコメントペーパー(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: レポート(70%)、授業ごとのコメントペーパー(30%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: レポート(70%)、授業ごとのコメントペーパー(30%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: レポート(70%)、授業ごとのコメントペーパー(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: レポート(70%)、授業ごとのコメントペーパー(30%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポート(70%)、授業ごとのコメントペーパー(30%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 大学で学ぶ沖縄の歴史 著者名: 宮城弘樹・秋山道宏・野添文彬・深澤秋人 編 出版社名: 吉川弘文館 ISBN: 9784642008358</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: 中世学研究2 琉球の中世 著者名: 中世学研究会編 出版社名: 高志書院 ISBN: 9784862151964</p>			

科目名	日本史特殊講義Ⅴ	後期	2 単位
サブタイトル	近世所領配置論	講義	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>以下の3点を到達目標とする。①近世期における所領配置のメカニズムについて理解する、②所領配置論を通して近世国家と社会の関係について理解する、③近世支配研究の方法として所領配置を取り上げることの有効性について理解する。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近世期において繰り返された改易、転封、加増、減知、村替などの所領替(領知替などともいう)はどのようなメカニズムで行われていたか。また、これらの所領替はその地域の人々にとってどのような影響をもたらしたか。従来、近世期における所領配置は、さしたる検討もなく、江戸幕府(将軍)の専権として恣意的に決定していたとみられてきた。本講義では、所領替決定にいたるプロセスを、それにかかわる様々なファクター(個別領主だけでなく、地域社会も含めて)に注目しながら検討することによって、必ずしも幕府(あるいは将軍)が専制的に決定していたものではなかったこと、さらにはそこから江戸幕府がかかえた体制矛盾を幕藩体制崩壊期も見据えて明らかにする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>近世史に関する文献を広く読んでおくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題と方法(ガイダンスも含む) 2 所領配置の決定過程および知行割の実施過程1 3 所領配置の決定過程および知行割の実施過程2 4 幕領配置政策と私領渡差障有無調1 5 幕領配置政策と私領渡差障有無調2 6 幕府の幕領配置方針1 7 幕府の幕領配置方針2 8 所領替をめぐる政治過程と知行割制度—秋田藩の村替交渉を事例に—1 9 所領替をめぐる政治過程と知行割制度—秋田藩の村替交渉を事例に—2 10 家斉期(いわゆる大御所時代)における知行割制度の運用実態と天保の改革1 11 家斉期(いわゆる大御所時代)における知行割制度の運用実態と天保の改革2 12 近世中後期における幕府の知行割権と民衆運動1 13 近世中後期における幕府の知行割権と民衆運動2、まとめ 			

科目名	日本史特殊講義 V	後期	2 単位
サブタイトル	近世所領配置論	講義	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] 受講態度30%、試験70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史特殊講義Ⅷ	前期	2 単位
サブタイトル	近現代日本の軍隊と地域社会	講義	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 日本近現代史に関する専門講義を通して歴史研究のプロセスを理解し、自らが研究を実践していこうとする意欲を持つに到ることが目標となる。</p> <p>[授業概要] 特殊講義とは、教員自身が現在進めている研究内容を披露することによって、受講者が卒業論文を作成するにあたって、有意義な方法論や視角が身につくことをめざして開講する専門性の高い講義である。受講者はそうした意識を持って出席しなければならない。この特殊講義Ⅷでは、陸海軍の立地とそれをめぐる都市形成のありかたについて講じる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 高度に専門的な講義を受講して、自らも学術論文(卒業論文)の作成に向けて臨もうとする意欲を身につけておくことが求められる。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代日本政治史の現状と課題 2. 近代史研究上の史料 3. 陸海軍の立地過程 4. 陸海軍の立地と誘致運動 5. 日露戦後の地域社会と軍隊 6. 軍隊と鉄道 7. 軍隊と水道 8. 軍隊と商店街・御用商人 9. 軍隊と遊廓 10. 遊廓をめぐる都市地域社会 11. 戦後史への架橋 12. 自衛隊の誘致 13. まとめ 			

科目名	日本史特殊講義Ⅷ	前期	2 単位
サブタイトル	近現代日本の軍隊と地域社会	講義	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 試験による(なお、手書きノート、配布プリントの持ち込みを許可する)。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 試験に対する講評を希望する者には、オフィスアワー等を利用して個別に対応する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 平常の受講態度及び試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 平常の受講態度及び試験</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: なし 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史料講読 I	前期	2 単位
サブタイトル	日本古代の漢文史料を読む	演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 漢文史料の読み方の基礎を習得するとともに、史料にもとづいて歴史を復元していく手法を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 8～12世紀頃の漢文史料を講読する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 受講者全員が、必ず訓読・現代語訳の予習をして、授業に出席する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 史料解題(1) 2. 史料解題(2) 3. 漢文入門(1) 4. 漢文入門(2) 5. テキスト講読(1) 6. テキスト講読(2) 7. テキスト講読(3) 8. テキスト講読(4) 9. テキスト講読(5) 10. テキスト講読(6) 11. テキスト講読(7) 12. テキスト講読(8) 13. まとめ 			

科目名	日本史料講読 I	前期	2 単位
サブタイトル	日本古代の漢文史料を読む	演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業・メールなどを通じておこなう。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:受講態度30%・学期末試験70%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史料講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	日本中世の漢文史料を読む	演習	
担当者	関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他	<small>図書館を利用し、ふさわしい辞書類や参考文献の所在を確認する</small>	実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 漢文史料に返り点を打ち、読み下し文を作成し、大意を読みとる方法を身につける。</p> <p>[授業概要] 中世の日記を読むことにより、日本中世独特の変体漢文を読み解く訓練をする。あわせて中世社会の仕組みや規範・人々の様々な生活習慣や行動様式等について学んでいきたい。テキストは、貞成親王(さだふさしんのう)『看聞日記』(かんもんにつぎ)を使用する。同書は、政治・経済・社会・文化・対外関係など多方面にわたる豊富な内容が記されている。テキストは、宮内庁書陵部編『図書寮叢刊 看聞日記 一』(明治書院、2002年)の該当箇所のコピーを配布する。 変体漢文に慣れることから始めて、文意を正しく理解するために必要な基礎的知識と技能を獲得するための基礎力をトレーニングする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 講読テキストの予習・復習を欠かさず実施すること。その際、『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』を活用して、漢文や古文の基礎知識を常に確認し、読み解く力を自ら身につけるように取り組むこと。中世の様々な文化遺産に関心を寄せ、事前・事後の学びを通して歴史上の興味を培うこと。</p> <p>[授業計画] 1.日記と変体漢文／『看聞日記』の世界(講義) 2.『看聞日記』の講読① 3.『看聞日記』の講読② 4.『看聞日記』の講読③ 5.『看聞日記』の講読④ 6.『看聞日記』の講読⑤ 7.『看聞日記』の講読⑥ 8.『看聞日記』の講読⑦ 9.『看聞日記』の講読⑧ 10.『看聞日記』の講読⑨ 11.『看聞日記』の講読⑩ 12.『看聞日記』の講読⑪ 13.まとめ</p>			

科目名	日本史料講読Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	日本中世の漢文史料を読む	演習	
担当者	関 周一		
<p>[成績評価方法] 授業中の口頭発表(50%)、学期末試験(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時の口頭指導や、学期末試験を対面形式またはmanabaを通じて講評を行ない、各自の課題を認識させる。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 授業中の口頭発表(50%)、学期末試験(50%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 授業中の口頭発表(50%)、学期末試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 授業中の口頭発表(50%)、学期末試験(50%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 授業中の口頭発表(50%)、学期末試験(50%)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名: 日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法 著者名: 日本史史料研究会監修・苅米一志著 出版社名: 吉川弘文館 ISBN: 9784642082730</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名: 古記録入門 増補改訂版 著者名: 高橋秀樹 出版社名: 吉川弘文館 ISBN: 9784642084352 書籍名: 看聞日記とその時代 著者名: 藺部寿樹 出版社名: 勉誠社 ISBN: 9784585320593</p>			

科目名	日本史料講読Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	近世史料の読解	演習	
担当者	尾崎 真理		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>以下の4点を到達目標とする。</p> <p>①基本的な近世史料を読解する能力を身につける。</p> <p>②各種辞書・事典類や関連文献の利用方法など、近世史料を読解するための方法を身につける。</p> <p>③史料から歴史学に関わる課題を設定し、それを自身で解く能力を身につける。</p> <p>④受講生の前で、自身の史料読解の結果や課題分析の結果をわかりやすく発表する能力を身につける。</p> <p>[授業概要]</p> <p>受講生の報告形式により、江戸幕府が出した法令を、法令発布者の意図および当時の社会状況に留意しつつ厳密に読んでいく。課題とした幕府法令について、①読み下し文、②他の文献に収録された同一法令との文言の異同、③語句の意味、④現代語訳、⑤法令発布の背景と結果、⑥当該法令に関わる任意のテーマについての解説、を記したレジュメをパソコンで閲覧ないしパワーポイントで掲示し、①～⑥の順に報告を行う。授業では、①～⑥の各段階ごとに、授業参加者全員で議論する。報告担当者は法令の一部を担当するが、全受講生が①～④について準備をしておき、授業に臨む。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>全受講生が、取り上げる予定の法令に関して、上記「授業概要」に記した①～④については必ず事前に準備をしておかねばならない。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業の進め方、辞書の利用方法等についての説明) 2. 図書館書庫および史学科資料室架蔵文献の案内 3. 江戸幕府法令の読解1 4. 江戸幕府法令の読解2 5. 江戸幕府法令の読解3 6. 江戸幕府法令の読解4 7. 江戸幕府法令の読解5 8. 江戸幕府法令の読解6 9. 江戸幕府法令の読解7 10. 江戸幕府法令の読解8 11. 江戸幕府法令の読解9 12. 江戸幕府法令の読解10 13. 江戸幕府法令の読解11 			

科目名	日本史料講読Ⅲ	前期	2 単位
サブタイトル	近世史料の読解	演習	
担当者	尾崎 真理		
<p>[成績評価方法] 提出レポート(担当する法令について①～⑥を記したレジュメ)の内容70%、受講態度30%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本史料講読Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史に関する史料の読解	演習	
担当者	松下 孝昭		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標]</p> <p>日本近現代史に関する史料の読解能力を身につけることが目標である。活字のテキストはもとより、くずし字で書かれた原文書もある程度読めるようになることをめざす。</p> <p>[授業概要]</p> <p>毎回プリントを配布し、受講者をあてて音読させる。テキストには『原敬日記』を用いるが、適宜他の史料も加え、さまざまなタイプの史料に接することができるように工夫する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>日本近現代史に関する史料に高い関心を持ち、自らくずし字辞典に触れながら読解に努めようとする姿勢が求められる。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本近現代史料の所在(講義) 2. 日本近現代史料の特質(講義) 3. 原敬について(講義) 4. 原敬日記の講読1 5. 原敬日記の講読2 6. 原敬日記の講読3 7. 原敬日記の講読4 8. 中間的なまとめ 9. 他の関連史料の講読1 10. 他の関連史料の講読2 11. 他の関連史料の講読3 12. 他の関連史料の講読4 13. まとめ 			

科目名	日本史料講読Ⅳ	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史に関する史料の読解	演習	
担当者	松下 孝昭		
<p>[成績評価方法] 試験(80%)、受講状況(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業終了後やオフィスアワーの時間を利用して適宜フィードバックする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:平常の受講態度</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本民俗学	前期	2 単位
サブタイトル	民俗学入門	講義	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 民俗学の先人の研究に学びながら、そこに受講生自らの「問い」を見出してもらうことを講義の到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 民俗学とは、人々の日常生活の中から「問い」を見出し、日常生活を少しでも明るく生きがいのあるものにするためにはどうすればよいか、を考える学問である。その入門に当たるこの講義では、民俗学で扱う分野を概観しながら、現代に生きるわれわれにとっての民俗学の意義を問いかけていく。古い習慣や伝統のあり方を検討するのも、われわれがよりよい未来を拓くための拠点を見出すためなのである。先人の研究に学びながら、そこに受講生自らの「問い」を見出してもらうことを目指して講義を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 配付プリントおよび授業中に指摘する関連文献にもとづいて、予習・復習を進めること。 (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学の歴史 2. 「民俗」とは何か 3. 『遠野物語』の誕生—百年前の日本— 4. 『遠野物語』の世界 5. 家の問題—家族の葛藤、家の盛衰— 6. 河童伝承とムラ社会 7. 妖怪とは何か 8. 来訪神と小正月 9. 沖縄の来訪神儀礼と「はじまりの芸能」 10. 女性と民間信仰 11. 韓国の家族と親族—比較の視点から— 12. 日本列島の文化の位置づけ 13. まとめ 			

科目名	日本民俗学	前期	2 単位
サブタイトル	民俗学入門	講義	
担当者	川森 博司		

[成績評価方法]

試験(80%)と受講態度(20%)を総合して評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 授業コメント

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 試験

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

書籍名:遠野物語remix 付・遠野物語 著者名:京極 夏彦 出版社名:KADOKAWA ISBN:9784044083229

科目名	日本民俗学	前期	2 単位
サブタイトル	民俗学入門	講義	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 民俗学の先人の研究に学びながら、そこに受講生自らの「問い」を見出してもらうことを講義の到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 民俗学とは、人々の日常生活の中から「問い」を見出し、日常生活を少しでも明るく生きがいのあるものにするためにはどうすればよいか、を考える学問である。その入門に当たるこの講義では、民俗学で扱う分野を概観しながら、現代に生きるわれわれにとっての民俗学の意義を問いかけていく。古い習慣や伝統のあり方を検討するのも、われわれがよりよい未来を拓くための拠点を見出すためなのである。先人の研究に学びながら、そこに受講生自らの「問い」を見出してもらうことを目指して講義を進める。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 配付プリントおよび授業中に指摘する関連文献にもとづいて、予習・復習を進めること。 (各回、予習・復習合わせて4時間程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学の歴史 2. 「民俗」とは何か 3. 『遠野物語』の誕生—百年前の日本— 4. 『遠野物語』の世界 5. 家の問題—家族の葛藤、家の盛衰— 6. 河童伝承とムラ社会 7. 妖怪とは何か 8. 来訪神と小正月 9. 沖縄の来訪神儀礼と「はじまりの芸能」 10. 女性と民間信仰 11. 韓国の家族と親族—比較の視点から— 12. 日本列島の文化の位置づけ 13. まとめ 			

科目名	日本民俗学	前期	2 単位
サブタイトル	民俗学入門	講義	
担当者	川森 博司		

[成績評価方法]

試験(80%)と受講態度(20%)を総合して評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 試験

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 試験

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 授業コメント

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 試験

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

書籍名:遠野物語remix 付・遠野物語 著者名:京極 夏彦 出版社名:KADOKAWA ISBN:9784044083229

科目名	日本民俗学資料研究 I	前期	2 単位
サブタイトル	春・夏の年中行事	講義	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	○
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 年中行事の学習、見学をとおして、民俗学の視点と研究方法を身につけることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 民俗学は実地調査をおこなうことによって、自分なりの現場に対する実感を育て、その実感をもとにして、いろいろな資料を読み込んで考えていく学問である。この実習では、春と夏の年中行事に注目して、現在のような年中行事がおこなわれるようになった経緯を学習するとともに、実際の年中行事の現場を訪ねて調査実習をおこなう。現場を訪ねながら資料を読むという民俗学の研究のスタイルを身につけることが、この授業の到達目標である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 配付資料にもとづいて予習・復習をおこなうこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民俗学と民俗調査 2. 年中行事とは何か 3. 海の信仰について 4. 住吉大社と熊野街道 5. 熊野街道と住吉大社御田植祭の見学(学外実習) 6. 御霊信仰について 7. 神社と民俗(1) 8. 神社と民俗(2) 9. 夏祭りについて 10. セタについて 11. 都市の民俗について 12. 京都・祇園祭の見学(学外実習) 13. まとめ 			

科目名	日本民俗学資料研究 I	前期	2 単位
サブタイトル	春・夏の年中行事	講義	
担当者	川森 博司		
<p>[成績評価方法] 平常点(40%)とレポート(60%)を合わせて評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中に指示する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 学科DP番号/DP内容: 史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	日本民俗学特殊講義Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	異界訪問譚の比較研究	講義	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 昔話の分析をとおして、民衆の生活の知恵を探る方法としての民俗学の研究の仕方を理解することを、到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 日本をはじめ世界の各地において口頭で語り継がれてきた民話を題材として、民俗学の研究方法にしたがって分析を進める。世界の各地域では数多くの民話が語り継がれてきた。そこには、さまざまな民衆の知恵が込められていたものと考えられる。この講義では、具体的な民話の実例を取り上げ、各事例を比較・検討しながら、そこに込められたメッセージを読み解き、それが現代に生きる我々にとってどのような意味を持つのかを考えていく。 あわせて、民話の比較考察をとおして、民俗学の方法論の理解を進めることも、この授業の課題である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 指示にしたがって、配付資料の予習、復習をしておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異界訪問譚とは何か 2. グリム童話における異界 3. ヨーロッパの民話における異界 4. 『古事記』における異界 5. 日本中世説話における異界 6. 江戸時代の怪談における異界 7. 日本昔話における異界① 8. 日本昔話における異界② 9. 中国・韓国の民話における異界 10. 北方民族の民話における異界 11. 近現代の小説における異界 12. アニメにおける異界 13. まとめ 			

科目名	日本民俗学特殊講義Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル	異界訪問譚の比較研究	講義	
担当者	川森 博司		

[成績評価方法]

試験(80%)と学習態度(20%)を総合して評価する。

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

授業中に指示する

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力

成績評価方法: 上記、成績評価方法による

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	入門演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 文献の調べ方、専門書や論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法およびレポートの書き方などを学び、大学での勉学の基盤を整えることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 少人数でのゼミ形式の授業を通して、図書館の利用方法、文献の調べ方、専門書や専門論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法などを学び、新入生が大学での勉学のスタートを切るための入門的授業とする。あわせて学外での臨地実習なども適宜取り入れる。大学における歴史学の勉強は単なる暗記物ではなく、みずから調べて発表することが中心となるので、この入門演習への積極的な参加が求められる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 図書館の歴史コーナーにどのような図書が架蔵されているか、できる限り頻繁に足を運び、全体の概要を自分なりに確認しておくことが望ましい。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 図書館の使い方 3. 資料検索の実際 4. 学外実習(実施日は各ゼミで決定する) 5. テキストの輪読(1) 6. テキストの輪読(2) 7. テキストの輪読(3) 8. テキストの輪読(4) 9. テキストの輪読(5) 10. 学外実習の成果発表に向けて 11. 学外実習の成果発表(履修者全員で実施する) 12. 学外実習の成果発表 今後の課題 13. まとめ 			

科目名	入門演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	齋藤 瑞穂		
<p>[成績評価方法] 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対する講評をmanabaレポートのコメント機能を利用して行うとともに、複数教員からの建設的コメントも得られるように工夫する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:歴史学入門 新版 著者名:福井 憲彦 出版社名:岩波書店 ISBN:9784000289214</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53001 [LHH1-011]

科目名	入門演習	前期	2 単位
サブタイトル	歴史学入門	演習	
担当者	鈴木 宏節		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

文献の調べ方、専門書や論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法およびレポートの書き方などを学び、大学での勉学の基盤を整えることを到達目標とする。

[授業概要]

少人数でのゼミ形式の授業を通して、図書館の利用方法、文献の調べ方、専門書や専門論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法などを学び、新入生が大学での勉学のスタートを切るための入門的授業とする。あわせて学外での臨地実習なども適宜取り入れる。大学における歴史学の勉強は単なる暗記物ではなく、みずから調べて発表することが中心となるので、この入門演習への積極的な参加が求められる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

附属図書館の歴史コーナーにどのような図書が架蔵されているか、できる限り頻繁に足を運び、全体の概要を自分なりに確認しておくことが望ましい。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス
2. 図書館の使い方
3. 資料検索の実際
4. 学外実習(実施日は各ゼミで決定する)
5. テキストの輪読(1)
6. テキストの輪読(2)
7. テキストの輪読(3)
8. テキストの輪読(4)
9. テキストの輪読(5)
10. 学外実習の成果発表に向けて
11. 学外実習の成果発表(履修者全員で実施する)
12. 学外実習の成果発表 今後の課題
13. まとめ

科目名	入門演習	前期	2 単位
サブタイトル	歴史学入門	演習	
担当者	鈴木 宏節		

[成績評価方法]

受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]

課題に対する講評をmanabaレポートのコメント機能を利用して行うとともに、複数教員からの建設的コメントも得られるように工夫する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[メールアドレス]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]

学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

[この授業と関連する大学全体の教育目標]

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力

成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)

[教科書(ISBN)]

書籍名『歴史学入門 新版』著者名:福井憲彦 出版社名:岩波書店 ISBN:9784000289214

[参考書(ISBN)]

科目名	入門演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	川森 博司		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	

[到達目標]

文献の調べ方、専門書や論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法およびレポートの書き方などを学び、大学での勉学の基盤を整えることを到達目標とする。

[授業概要]

少人数でのゼミ形式の授業を通して、図書館の利用方法、文献の調べ方、専門書や専門論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法などを学び、新入生が大学での勉学のスタートを切るための入門的授業とする。あわせて学外での臨地実習なども適宜取り入れる。大学における歴史学の勉強は単なる暗記物ではなく、みずから調べて発表することが中心となるので、この入門演習への積極的な参加が求められる。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

図書館の歴史コーナーにどのような図書が架蔵されているか、できる限り頻繁に足を運び、全体の概要を自分なりに確認しておくことが望ましい。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス
2. 図書館の使い方
3. 資料検索の実際
4. 学外実習(実施日は各ゼミで決定する)
5. テキストの輪読(1)
6. テキストの輪読(2)
7. テキストの輪読(3)
8. テキストの輪読(4)
9. テキストの輪読(5)
10. 学外実習の成果発表に向けて
11. 学外実習の成果発表(履修者全員で実施する)
12. 学外実習の成果発表 今後の課題
13. まとめ

科目名	入門演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	川森 博司		
<p>[成績評価方法] 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対する講評をmanabaレポートのコメント機能を利用して行うとともに、複数教員からの建設的コメントも得られるように工夫する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:歴史学入門 新版 著者名:福井 憲彦 出版社名:岩波書店 ISBN:9784000289214</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53005 [LHH1-011]

科目名	入門演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート	○	グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 文献の調べ方、専門書や論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法およびレポートの書き方などを学び、大学での勉学の基盤を整えることを到達目標とする。</p> <p>[授業概要] 少人数でのゼミ形式の授業を通して、図書館の利用方法、文献の調べ方、専門書や専門論文の読み方、研究発表や質疑応答の方法などを学び、新入生が大学での勉学のスタートを切るための入門的授業とする。あわせて学外での臨地実習なども適宜取り入れる。大学における歴史学の勉強は単なる暗記物ではなく、みずから調べて発表することが中心となるので、この入門演習への積極的な参加が求められる。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 附属図書館の歴史コーナーにどのような図書が架蔵されているか、できる限り頻繁に足を運び、全体の概要を自分なりに確認しておくことが望ましい。</p> <p>[授業計画] 1. 授業ガイダンス 2. 図書館の使い方 3. 資料検索の実際 4. 学外実習(実施日は各ゼミで決定する) 5. テキストの輪実読(1) 6. テキストの輪読(2) 7. テキストの輪読(3) 8. テキストの輪読(4) 9. テキストの輪読(5) 10. 学外実習の成果発表に向けて 11. 学外実習の成果発表(履修者全員で実施する) 12. 学外実習の成果発表 今後の課題 13. まとめ</p>			

科目名	入門演習	前期	2 単位
サブタイトル		演習	
担当者	山内 晋次		
<p>[成績評価方法] 受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 課題に対する講評をmanabaレポートのコメント機能を利用して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-1/演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:受講態度(60% 発表内容・質疑応答の積極性)、レポート(40% 学外実習・自由課題)</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:歴史学入門 新版 著者名:福井 憲彦 出版社名:岩波書店 ISBN:9784000289214</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S53006 [LHH1-011]

科目名	博物館資料論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松岡 千寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

- ①博物館における資料の収集・保管・調査研究についての基礎的知識を身につけることができる。
- ②博物館資料の取り扱い方や整理方法などの技術・能力を習得することができる。

[授業概要]

博物館に勤務する専門職員(学芸員)にとって、資料の収集・保存・公開・展示・活用・調査研究は、基本となる仕事である。そのなかで博物館資料は、博物館の基本的な要素であり、博物館は資料がなければ成り立たない。本講義では、博物館資料の概念を示し、資料の収集・取り扱い方・整理・調査研究などの基本事項を学び、資料の役割を深く理解することをめざす。学芸員の経験を有する教員が、その経験を活かし、実際の博物館資料を用いて実践的な技能の習得も行う。なお、本講義では博物館現地学習も行う予定である。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

博物館資料に関する多くの知識を身につけるため、教科書の該当ページや講義中に配布した資料を読み返すなど、復習を心がけてください。余暇などを利用して博物館を訪れてください。予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. ガイダンス(博物館資料論の概要)
2. 博物館資料とは(モノから資料へ)
3. 3~4の間で1回学外研修(博物館見学)
4. 3~4の間で1回学外研修(博物館見学)
5. 博物館資料の収集(収集の理念と方法)
6. 6~7の間で1回学外研修(博物館見学)
7. 6~7の間で1回学外研修(博物館見学)
8. 博物館資料の分類と整理(分類方法と収蔵)
9. 9~10の間で1回学外研修(博物館資料の取り扱い)(松岡・学外講師)
10. 9~10の間で1回学外研修(博物館資料の取り扱い)(松岡・学外講師)
11. 博物館資料の取り扱い(1)(調書作成)
12. 博物館資料の取り扱い(2)(調書作成)
13. 博物館資料の調査研究(保存と研究、それぞれの視点)

※学外研修として、特色ある博物館見学を複数回行います。学外研修の出席は必須とします。

※学外研修と資料の取り扱いの授業では、華美な服装、ネックレス、イヤリング、指輪などのアクセサリ、ネイル等を禁止します(博物館資料保護のため)。

科目名	博物館資料論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松岡 千寿		
<p>[成績評価方法] 授業中のワークショップ(50%)、課題と調書作成(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題・ワークショップやレポートについては、授業の中で講評を加える。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:「新時代の博物館学」著者名:全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 出版社名:株式会社芙蓉書房出版 ISBN:9784829505519</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54010 [LHI3-001]

科目名	博物館概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松岡 千寿		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>①博物館に関する基礎的な知識を理解し、専門職としての学芸員の基礎能力を養う。 ②博物館を取り巻く現状と求められる役割について知る。</p> <p>[授業概要]</p> <p>博物館は資料の収集保存、調査研究、展示、教育普及活動など多岐にわたる業務・事業を行なっている。本講義では、学芸員の経験を有する教員が、博物館に関する法令、諸制度などの基礎知識を現場の実例をもとに紹介し、博物館に関わる様々な事象について多角的に捉えていく。 また、博物館の歴史的経緯と現代における課題を理解し、これからの博物館を積極的に考える視点を提供する。なお、本講義では博物館現地学習も行う予定である。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>新聞やインターネットなどを通して、文化教育一般、博物館関係の記事のリサーチにつとめ、余暇などを利用して博物館を訪れてください。予習復習を合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(学芸員養成課程の概要) 2. 博物館の歴史 3. 3～4の間に1回学外研修(博物館見学) 4. 3～4の間に1回学外研修(博物館見学) 5. 博物館とは何か(1)(定義・法令) 6. 博物館とは何か(2)(種類・目的) 7. 7～8の間に1回学外研修(博物館見学) 8. 7～8の間に1回学外研修(博物館見学) 9. 学芸員の仕事(博物館を支える人々) 10. 10～11の間に1回学外研修(博物館見学) 11. 10～11の間に1回学外研修(博物館見学) 12. 博物館を訪ねて(レポート発表) 13. 博物館の役割(資料保存や社会とのかかわり) <p>※学外研修として、特色ある博物館見学を複数回行います。学外研修の出席は必須とします。</p>			

科目名	博物館概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	松岡 千寿		
<p>[成績評価方法] 授業中のワークショップ(50%)、課題とレポート(50%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題・ワークショップやレポートについては、授業の中で講評を加える。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 上記、成績評価方法による。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:「新時代の博物館学」著者名:全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 出版社名:株式会社芙蓉書房出版 ISBN:9784829505519</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54000 [LHI1-001]

科目名	博物館教育論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小林 初恵		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標]</p> <p>1.博物館における教育プログラムや教育普及の特徴を理解し、基礎的知識を学ぶ。 2.博物館教育の現状を把握し、課題の整理・解決のため、企画検討や実施技術を養う。</p> <p>[授業概要]</p> <p>近年、歴史文化遺産への興味や継承が低下傾向にある中で、博物館が社会との接点を繋ぐ役割が期待されており、博物館教育が重要視されている。 この講義では博物館教育の在り方について歴史系の博物館を例に、博物館と利用者の双方向の活動の必要性や教育活動の現状を的確に把握し、基礎的知識・思考法等を学ぶとともに、課題解決に向けた企画検討法を学ぶ。 授業中に学外実習として、堺市立町家歴史館等において、博物館教育活動の現状を把握する。後半には博物館学習プログラムの作成についてレポートを作成するとともに、発表・評価によるコミュニケーションの向上と成果の共有を図る。 ※学外実習は堺市立町家歴史館等において、1日に2コマ分を土曜日もしくは日曜日に実施する。その際、入館料等の負担が必要。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>授業開始前に博物館・美術館等に出向き、十分な時間を費やし、展示等の事業内容や課題を整理し、説明できるようにしておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、博物館のイメージや課題 2.博物館の教育機能と役割 3.博物館教育・学校教育・生涯学習の比較 4.博物館教育活動の在り方 5.来館者のニーズと博物館活動 6.博物館教育プログラムの企画と実施、博物館ボランティア養成と役割(1) 7.博物館ボランティア養成と役割(2)、まとめ、学外実習事前説明 8.博物館教育活動の現状(学外実習1) 9.博物館教育活動の現状(学外実習2) 10.博物館ボランティア養成と役割(3)、課題解決のための博物館学習プログラム(レポート)の作成 11.博物館学習プログラム発表・批評1 12.博物館学習プログラム発表・批評2 13.博物館学習プログラム発表・批評3、講評、博物館教育の深化と展望 			

科目名	博物館教育論	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	小林 初恵		
<p>[成績評価方法] 授業態度・発言(20%)、授業ごとのレポート(30%)、プログラム作成と発表・批評(50%)により評価</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:上記、成績評価方法による。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:新時代の博物館学 著者名:全国大学博物館学講座協議会西日本部会/編 出版社名:芙蓉書房出版 ISBN:9784829505519</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:改正博物館法 詳説・Q&A 著者名:博物館法令研究会 出版社名:株式会社水曜社 ISBN:9784880655413</p>			

S54005 [LHI2-001]

科目名	博物館経営論		後期	2 単位
サブタイトル			講義	
担当者	福田 和浩			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)			反転授業	
ディスカッション・ディベート	○		グループワーク	
プレゼンテーション			実習、フィールドワーク	○
その他			実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] ミュージアムマネジメントの方法と目的、背景となる制度について知り、現状の運営実態とその課題を理解する。現代社会における博物館の存在意義を経済的側面のみならず、教育・福祉・社会的課題など、多様な側面からの視点を持ち、課題解決について考える能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 現役の学芸員である教員が、現場の視点から博物館を取り巻く課題と新しい取り組みを紹介しながら、博物館経営の目的と意義を考えていく。博物館特有の運営体制やマーケティング、広報戦略と情報発信の意義を理解し、博物館を経済社会の中に位置付けるとともに、その存在意義と提供すべきサービスを考える。利用者ニーズの多様性に対応し、現代的課題に向き合い・解決するビジョンを共有するとともに、新しい博物館像について先行事例を踏まえた実践的な検討を行う。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 教科書の該当ページを読んで予習をしておくこと。新聞やインターネット等を通してたえず文化教育一般、博物館関係の記事のリーサーチにつとめ、その論評をこころがけること。博物館を訪れ、来館者や地域に向けた取り組みや情報発信について検討・考察する視点で見学すること。</p> <p>[授業計画] 1. ガイダンス、博物館経営の意義 2. 博物館の制度と組織(1)評価 3. 博物館の制度と組織(2)運営体制 4. 博物館施設の運営と管理 5. 学外研修 6. 学外研修 ※博物館の現場を見学し、展示手法のほか、保存・研究・教育など全般にわたる博物館活動を知る。見学先は特色ある博物館とし、開講時に日程等を示す(2025年10月後半の日曜日を予定)。 7. ワークショップ「博物館の経営分析」 8. 博物館と社会連携(1)博物館の広報活動 9. 博物館と社会連携(2)博物館の学習支援 10. 博物館と社会連携(3)博物館のネットワーク活動 11. 博物館経営の実際と課題(1)博物館の経済効果 12. 博物館経営の実際と課題(2)現代的課題と博物館 13. まとめ</p>				

科目名	博物館経営論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	福田 和浩		
<p>[成績評価方法] 各授業の課題とワークショップ(60%)、最終課題レポート(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 各授業の課題やワークショップについては、翌週の授業の中で講評を加えることがある。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 各授業の課題とワークショップ(60%)、最終課題レポート(40%)</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 各授業の課題とワークショップ(60%)、最終課題レポート(40%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 各授業の課題とワークショップ(60%)、最終課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 各授業の課題とワークショップ(60%)、最終課題レポート(40%)</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 各授業の課題とワークショップ(60%)、最終課題レポート(40%)</p> <p>[教科書 (ISBN)] 書籍名: 新時代の博物館学 著者名: 全国大学博物館学講座協議会西日本部会/編 出版社名: 芙蓉書房出版 ISBN: 9784829505519 書籍名: 適宜プリントを配布する 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	博物館実習	前期～後期	3 単位
サブタイトル		実習	
担当者	齋藤 瑞穂、竹原 千佳誉		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○
その他		実務経験のある教員による授業	○
<p>[到達目標] 博物館館務実習にむけて、学芸員としての技術や心構えを身につける。</p> <p>[授業概要] 博物館実習は、学芸員養成教育の最終段階の科目であり、「学内実習」と「館務実習」とで構成される。「学内実習」は館務実習の事前・事後指導に加え、本学の伝統と資産を活用した展示指導を行っている。本年度も本学古典芸能研究センターの御高配を賜り、学芸員の仕事の一つである展示を作り上げるプロセスを体験することになる。「館務実習」は主に夏季休暇中に実施する。学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験し、来館者対応などの実務も担うことで、学芸員として働く心構えを身につけることをめざすものである。すべての実習においては技術的な面に加え、協調性やコミュニケーション能力を最も重視している。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 実物資料を扱うので、服装等に制限がある。</p> <p>[授業計画] 1. 博物館学芸員の仕事 2. 採拓実習(瓦など) 3. 石碑の採拓実習(須磨寺) 4. 拓本の修復 5. 写真撮影の実技 6. 美術品の取り扱い(学外講師担当) 7. 梱包実習(学外講師担当) 8. 軸装などの取り扱い実習 9. 展示準備(本学所蔵芸能資料の学習, 学外講師担当) 10. 展示準備(国文学系展示の取り扱い, 学外講師担当) 11. 展示準備(芸能資料のパネル・キャプション作成, 学外講師担当) 12. 館務実習事前指導 13. 館務実習事前指導 14. 展示作業(古典芸能研究センターにて実施) 15. 展示作業(古典芸能研究センターにて実施) 16. 展示作業(古典芸能研究センターにて実施) 17. 館務実習報告会 18. 採拓資料の個別解説 19. 採拓資料の修復および補強 20. 採拓資料の修復および補強 21. 採拓資料の撮影 22. 採拓資料の撮影 23. 報告文の作成 24. 展示撤収作業(古典芸能研究センターにて実施) 25. 学芸員課程報告 編集 26. 学芸員課程報告 編集</p>			

科目名	博物館実習	前期～後期	3 単位
サブタイトル		実習	
担当者	齋藤 瑞穂、竹原 千佳誉		
<p>[成績評価方法] レポートや拓本などの作品内容(30%)・実習記録ノート(30%)・受講態度(40%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業時間内に解説する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-3/演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法: レポートや拓本などの作品内容・実習記録ノート・受講態度</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54050 [LHI3-004]

科目名	美術史 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 展子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

美術史 I では日本美術史を学ぶ。平安時代、仏を荘厳するために人々がどのようなモノを創り出していったのか、また人々はどのような思いで仏を荘厳したのか、美術作品が生まれる契機を知り古代の人々の美意識を理解する。

[授業概要]

日本には古代から現代に至るまでの多くの美術作品が現存する。それらには文字資料に表われない思想や社会が表象されており、第一級の視覚資料でもある。美術作品をその時代の思想や社会の反映という視点で再検討する。また、従来各論という形で述べられてきた絵画・彫刻・工芸・建築を有機的に関連したものとして総合的に考察する。美術史 I では主に平安時代の美術を見ていくが、前半は仏教美術、後半では絵巻物を取り上げる。

学芸員として四天王寺で多くの国宝・重要文化財を扱ってきた経験をもとに、授業で紹介する美術作品に対するより深い知見を伝える。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

関西で開催される主要な美術展を紹介するので積極的に観に行くこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[授業計画]

1. 授業ガイダンス～日本の文化財概説
2. 総合芸術としての平等院鳳凰堂 I
3. 装飾経・平家納経
4. 装飾経・扇面法華経冊子
5. 平安の工芸・懸守を中心に
6. 地獄草紙と餓鬼草紙
7. 病草紙と九相図巻
8. 平安時代の服飾と化粧
9. 絵巻の基本
10. 源氏物語絵巻
11. 寝覚物語絵巻
12. 伴大納言絵詞
13. 鳥獣人物戯画

科目名	美術史 I	前期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	木村 展子		
<p>[成績評価方法] 試験 100%</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 試験 100%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 試験 100%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 試験 100%</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: 試験 100%</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験 100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 試験 100%</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験 100%</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S52230 [LHH2-014]

科目名	美術史Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	S. デュルト		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 西洋美術を鑑賞する際に必要な基礎的な知識を身につける。学芸員資格取得のための必修科目のため、美術館における作品・資料の扱いについても理解を深める。</p> <p>[授業概要] 先史、古代より現代までの西洋における造形表現を具体的な現存作品に拠って概説する。現在私たちが「芸術作品」と考えている絵や彫刻は、「芸術」という考え方が成立する以前の時代においては、制作された当初からそのように呼ばれていたわけでも、考えられていたわけでもない。「西洋美術」と一口に言っても、国や地域、文化、社会や思想等の要因によりその表現は多種多様なものとなっている。時代や地域における特徴を整理し、中でも、宗教美術については、その主題を理解するのに個々のエピソードに加え、社会文化的背景を含めて総合的に考察することが必要となる。基礎的な知識を身につけ、表現されたものについて、言葉を用いて人に伝えるデスクリプションの能力を養う授業となる。また、授業で取り上げる作品の現在における保存や展覧の状況、著名な作品のコピーやレプリカが存在など、芸術作品のはらむ問題についても言及する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 日頃から美術館や博物館に限らず、自分を取り巻く環境の中にある美術に興味を持ってほしい。また授業始めに同時期に関西で開催される主要な西洋美術の展覧会等を紹介するので積極的に観に行ってもらいたい。</p> <p>[授業計画] 1.イメージのはじまり(洞窟壁画) 2.古代ギリシャ 3.古代ローマ 4.ロマネスク 5.ゴシック 6.ルネサンス(1) 7.ルネサンス(2) 8.バロック 9.17世紀オランダとロココ 10.古典主義・アカデミーとサロン 11.ロマン主義・写実主義と印象主義 12.20世紀の美術 13.現代美術・須磨と美術</p>			

科目名	美術史Ⅱ	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	S. デュルト		
<p>[成績評価方法] レポート(100%) 中間レポートおよび学期末レポートの両方提出必須です。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説します。課題内容に応じては適宜manaba・KISSシステムを通じて行います。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: レポート(100%) 中間レポートおよび学期末レポートの両方提出必須です。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: レポート(100%) 中間レポートおよび学期末レポートの両方提出必須です。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: レポート(100%) 中間レポートおよび学期末レポートの両方提出必須です。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学3-2/多様な歴史学上の視点や学説を積極的に受容し、自立的に自己の視座を確立する能力を有している。 成績評価方法: レポート(100%) 中間レポートおよび学期末レポートの両方提出必須です。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 上記、成績評価方法による</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S52240 [LHH2-015]

科目名	法律学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	豊福 一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 社会で活動・生活するために必要な法理解を身に付けることができる。</p> <p>[授業概要] 基礎的な法律について概説する。現代社会 I や現代社会IVの講義より基礎的な内容になっている。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 前回講義の復習をして、必要なら質問を準備しておくこと。1時間程度。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 婚姻と離婚 2. 親子 3. 扶養と公的扶助、保険 4. 相続 5. 物権と債権 6. 契約と解除、借地権 7. 契約:消費貸借ほか 8. 不法行為 9. 消費者法 10. 労働法 11. 刑事法 12. 紛争解決 13. まとめ 			

科目名	法律学	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	豊福 一		
<p>[成績評価方法] 試験(100%)の成績による。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 対面授業の場合、試験終了後に解説することを予定しています。 遠隔授業となった場合でも、同様とする予定です。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 試験(100%)の成績による。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: 試験(100%)の成績による。</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: 試験(100%)の成績による。</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)の成績による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)の成績による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 試験(100%)の成績による。</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: 試験(100%)の成績による。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:新時代の法学・憲法 著者名:山田勉・笹田哲男 出版社名:建帛社 ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54110 [LHH3-042]

科目名	倫理学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 美紀子		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他	manabaでワークシート提出	実務経験のある教員による授業	○

[到達目標]

西洋倫理学の古典を読み、基本的用語を学び、その意味を理解できる。また、道徳的価値を多面的・多角的に捉え、善悪、正邪等を判断する基準について考えることができる。

[授業概要]

西洋倫理学の主要な思想を学ぶ。特に、アリストテレスの徳倫理学とカントの義務倫理学に重点を置き、彼らの主要著書を読む。各々の思想の基礎的な内容について研究課題を与えるので、学生が個人あるいはグループでその課題について考え、ワークシートに記入して提出する。

[準備学修(予習・復習)の内容・時間]

指定された文献・資料をよく読んでおくこと。各回、予習・復習合わせて2時間程度。

[授業計画]

1. ガイダンス、倫理学とは？
2. プラトン、四元徳
3. アリストテレス: 徳倫理学
4. エピクロスとストア派
5. 社会契約説: ホブズ、ロック、ルソー
6. 功利主義倫理学: ベンサム、J.S.ミル
7. カント『道徳形而上学原論』①
8. カント『道徳形而上学原論』②
9. カント『道徳形而上学原論』③
10. カント『道徳形而上学原論』④
11. カント『道徳形而上学原論』⑤
12. 和辻哲郎の倫理学
13. 総括

科目名	倫理学概論	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	田中 美紀子		
<p>[成績評価方法] ワークシートなどの提出物(40%)、筆記試験(60%)。受講態度も考慮する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 小テスト及び筆記試験の正解例はmanabaで公開する。ワークシートは添削して返却する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学1-1/幅広い歴史的視野と特定の時代・地域に関する専門的知識を身に付けている。 成績評価方法: 小テスト、筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-1/講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。 成績評価方法: ワークシート、筆記試験</p> <p>学科DP番号/DP内容: 史学2-5/演習の研究発表ならびに授業のレポートや卒業論文の作成を通じて、正確で論理的な思考力と、口頭と文章による的確な表現力を有している。 成績評価方法: ワークシート、筆記試験</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法: ワークシート、筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法: ワークシート、筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法: 授業態度、ワークシート、筆記試験</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_: 問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法: ワークシート</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:倫理学入門 著者名:宇都宮 芳明 出版社名:筑摩書房 ISBN:9784480099044 書籍名:道徳形而上学の基礎づけ 著者名:カント 出版社名:岩波文庫 ISBN:9784003860397</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54120 [LHH2-023]

科目名	歴史資料学入門	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川森 博司、松下 孝昭、吉村 真美、山内 晋次、鈴木 宏節、尾崎 真理、齋藤 瑞穂、関 周一		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他		実務経験のある教員による授業	
<p>[到達目標] 歴史資料の多様性を知り、その基礎的な理解を深めることができるようになる。</p> <p>[授業概要] 歴史研究に使う史資料は、記録や文書などの文字史料ばかりでなく、それぞれの分野や時代の特徴に基づく史資料を使った研究が進展している。 この授業は、史資料の「姿」(形態)の多様性を知り、それがどのような問題関心と結びついて研究されているかを、主に講義形式で学修する。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間] 授業中に紹介された参考文献を読み、実物資料に接する機会を積極的に利用し、歴史資料に関する興味をより深める取り組みを強く求める。</p> <p>[授業計画] 1. 第1講(日本考古学 齋藤 瑞穂) なぜ「モノ」が歴史を語ってくれるのか? 2. 第2講(日本古代史 山内 晋次①) 日本古代史研究と文献史料 3. 第3講(日本古代史 山内 晋次②) 日本古代史研究とモノ資料 4. 第4講(日本中世史 関 周一①) 日本中世の文献資料 5. 第5講(日本中世史 関 周一②) 日本中世の絵画資料と仏像 6. 第6講(日本近世史 尾崎 真理①) 近世古文書と日本近世史研究 7. 第7講(日本近世史 尾崎 真理②) 近世古文書の整理と保存 8. 第8講(日本近現代史 松下 孝昭①) 公文書館の役割と現状 9. 第9講(日本近現代史 松下 孝昭②) デジタル化が進む日本近現代史資料 10. 第10講(東洋史 鈴木 宏節) 中国の歴史史料 11. 第11講(西洋史 吉村 真美①) 西洋史研究のための史資料 12. 第12講(西洋史 吉村 真美②) 史資料の保全とその活用 13. 第13講(日本民俗学 川森 博司) 民俗資料の分類と活用</p>			

科目名	歴史資料学入門	後期	2 単位
サブタイトル		講義	
担当者	川森 博司、松下 孝昭、吉村 真美、山内 晋次、鈴木 宏節、尾崎 真理、齋藤 瑞穂、関 周一		
<p>[成績評価方法] レポート(80%)、授業時課題(16%)、全回振り返り課題(4%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 基本的に授業時間内で解説する。課題内容に応じては適宜manaba(課題のコメント機能など)・KISSシステムを通じて行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:史学1-2/自己の研究課題に関する資史料(文献史料・考古資料・民俗資料など)の所在を調べて広く収集し、読解する技能を有している。 成績評価方法:レポート(80%)、授業時課題(16%)、全回振り返り課題(4%)</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:レポート(80%)、授業時課題(16%)、全回振り返り課題(4%)</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

S54160 [LHH1-010]